

令和6年度
事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人 高知学園

目 次

	頁
I 法人の概要	1
〔1〕 学校法人基本方針	2
〔2〕 学校法人の沿革	6
〔3〕 設置する学校等の状況	9
〔4〕 設置する学校等の学生生徒等数の状況	13
〔5〕 役員・評議員の概要	15
〔6〕 教職員の概要	21
〔7〕 その他	21
II 設置学校の事業報告	22
〔1〕 高知学園短期大学附属高知幼稚園	23
〔2〕 高知小学校	25
〔3〕 高知中学高等学校	29
〔4〕 高知リハビリテーション専門職大学	37
〔5〕 高知学園大学・高知学園短期大学	49
III 財務の概要	
令和6年度決算の概要	71

I 法人の概要（教育方針）

本学園は、明治 32 年、現在の高知市桜井町に創立された「江陽学舎」が前身で、令和 6 年度には創立 125 周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信濃権馬（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正 8 年に城東商業学校を設置し、昭和 23 年に新教育制度により城東高等学校、城東中学校を設置した。昭和 26 年に川島源司（昭和 37 年に初代学園長に就任）が同高等学校、中学校の学校長に就任され、昭和 27 年には幼稚園を設置した。昭和 31 年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和 32 年に現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

昭和 42 年に短期大学を、昭和 43 年にリハビリテーション学院を設置、平成 31 年 4 月には、全国に先駆けて実践的・創造的な専門職業人の養成を目的とした高知リハビリテーション専門職大学を開学した。さらに、令和 2 年 4 月に高知学園短期大学の学科構成を 4 学科 2 専攻から 3 学科に改組し、1 学部 2 学科の高知学園大学（四年制大学）を開学した。

初代学園長・川島源司先生は、「教育の常道を歩むために、如何なることをなすにも、すべて至誠をもって事に当たるといふ精神を生徒の基本方針とし、絶えず反復しこれにつとめれば、必ず他人に信頼される人となる。」と述べている。『至誠をもって事にあたり、人や社会に信頼される人物の育成』が本学園の建学の精神であることを再確認し、各学校のビジョンを明確にする取組みを進めている。

現在では、幼稚園から小学校、中学校、高校、短期大学、専門職大学、大学までの7部門、合わせて2,553人（令和6年5月1日現在）の児童、生徒、学生たちが学び、本学園の教育のシンボルである「世界の鐘」に込められた「この鐘の音のとどろくところ 永遠の真理と希望に輝き 世界の平和と友愛にみつ」の精神のもと、幼稚園から大学までを擁する充実した総合学園として更なる発展を目指している。

【基本情報】

法人の名称 学校法人 高知学園

主たる事務所の住所 〒780-0956 高知市北端町 100 番地 TEL 088-840-1167 FAX 088-840-1223
<http://www.kochigakuen.org>

設置各校

- ・高知学園大学・高知学園短期大学

〒780-0955 高知市旭天神町 292-26 TEL 088-840-1121 FAX 088-840-1123
<http://www.kochi-qu.ac.jp> (大学) <http://www.kochi-gc.ac.jp> (短大)

- ・高知リハビリテーション専門職大学

〒781-1102 土佐市高岡町乙 1139-3 TEL 088-850-2311 FAX 088-850-2323
<http://www.kpur.ac.jp>

- ・高知中学校・高知高等学校

〒780-0956 高知市北端町 100 番地 TEL 088-840-1111 FAX 088-844-7578
http://www.kochigakuen.jp

- ・高知小学校

〒780-0956 高知市北端町 100 番地 TEL 088-844-4331 FAX 088-871-1474
http://www.kochigakuen.ed.jp

- ・高知学園短期大学附属高知幼稚園・高知学園短期大学附属認可外保育所

〒780-0956 高知市北端町 100 番地 TEL 088-840-5005 FAX 088-840-5551
http://www.kochi-yochien.jp



学校法人 高知学園

令和6年度 学校法人基本方針

「令和6年1月更新」

2025/5/15

学園本部 総務課

令和6年度 学校法人基本方針

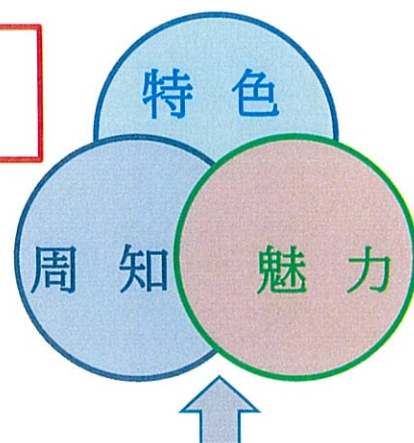
1

1. 学校法人の課題

- 健全経営の実現
- 学生数、志願者数増加のための対策



- ①どんな学校にするか(特色)
- ②どのように知ってもらうか(周知)
- ③どうしたら来てもらえるか(魅力)



学生数、志願者数を増やすための学校づくりのヒント



学校法人 高知学園

2. 学校法人としての取り組み

① 学生・生徒・保護者等からの信頼を得て、経営力を強化して、質の高い教育を提供する

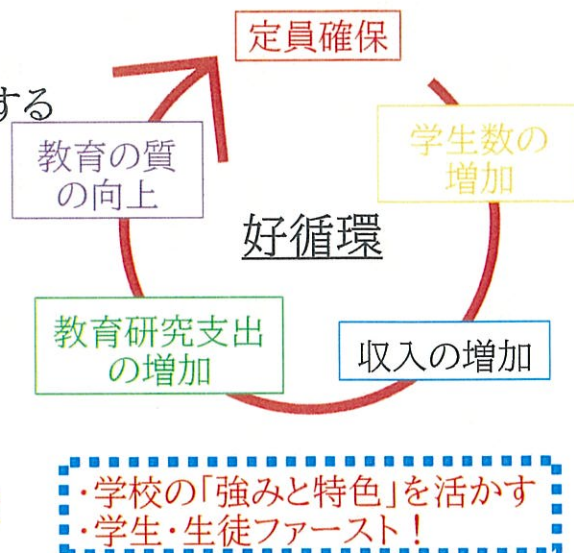
② 定員を確保し、好循環を図る

③ 定員確保のための施策

- ・ 行きたい学校、行かせたい学校づくり
- ・ 各学校毎の「強みと特色」を活かす

④ 教育環境づくり

- ・ 安心安全な教育環境、学生・生徒ファースト！
- ・ 教職員が働きやすい職場(学校)をつくる



学校法人 高知学園

令和6年度 学校法人基本方針

3. 令和6年度 基本方針の重点実施項目

① 定員確保

② ガバナンス強化と内部統制システムの整備

③ 財務の改善

④ コンプライアンスの徹底

⑤ ICT化、デジタル化の推進

⑥ 令和7年中期経営計画の策定(令和7年度～令和11年度 5ヵ年計画)



学校法人 高知学園

令和6年度 学校法人基本方針

4

4.重点施策

①定員確保

- ・募集活動、広報活動の強化をはかる。(学生・生徒数の増加、志願者数の増加に取り組む。)
- ・教育の質向上への取り組みと特色・魅力づくりを進める。
- ・各学校の連携(高大連携、幼小中高連携等)の強化をはかる。

②ガバナンスの強化と内部統制システムの整備

- ・学校法人が、その活動を健全かつ効率的に運営するための仕組みづくりを構築する。
- ・指揮命令系統の統一性のための組織規程を遵守した業務運営に努める。
(規程が機能するためにも特例扱いを排除する。)
- ・職務権限を明確にする。(異例扱いを排除する。)
- ・監事の業務監査及び三様監査(監事、会計監査人、内部監査)の充実をはかる。
- ・令和7年私学法改正の規程等の整備に取り組む。



学校法人 高知学園

令和6年度 学校法人基本方針

5

4.重点施策

③財務の改善

- ・各学校とも、まずは定員確保で収入増をはかる。
- ・経常収支差額の改善に取り組む。
- ・人件費比率の改善に取り組む。
- ・経営企画室との連携と情報の共有をはかる。
- ・次期中期経営計画の策定・実行を進める。

④コンプライアンスの徹底

- ・寄附行為及び規程を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動を行う。(不祥事を起こさない。)
- ・法令遵守だけでなく社会的な規範に従い、風通しの良い、働きやすい職場をつくる。
- ・各学校主催や本部主催でのコンプライアンス研修の継続実施する。
(パワハラ、セクハラ等を起こさない。)
- ・発生事案の迅速な対応と再発防止策の徹底に努める。
- ・内部通報制度、外部相談窓口の周知・徹底をはかる。



学校法人 高知学園

4.重点施策

⑤ICT化、デジタル化の推進

- ・各学校におけるICTを活用した教務及び校務改善への支援を行う。
- ・各学校の専門人財と本部人財と連携して課題解決に取り組む。
- ・事務の削減等について、出来ることからICT化に取り組む。
(6年度は、年末調整等のICT化を検討する。)

⑥令和7年中期経営計画の策定(令和7年度～令和11年度 5ヵ年計画)

- ・「建学の精神」を再確認し、各学校のビジョンを明確にする。
- ・中期経営計画を学校法人の健全経営の柱とする。
- ・中期経営計画策定が曖昧な抽象的な計画にならないように注意する。
- ・中期経営計画のもとに毎年度の事業計画を策定する。
- ・各学校が具体的施策を策定の上実行し、PDCAを回していく。



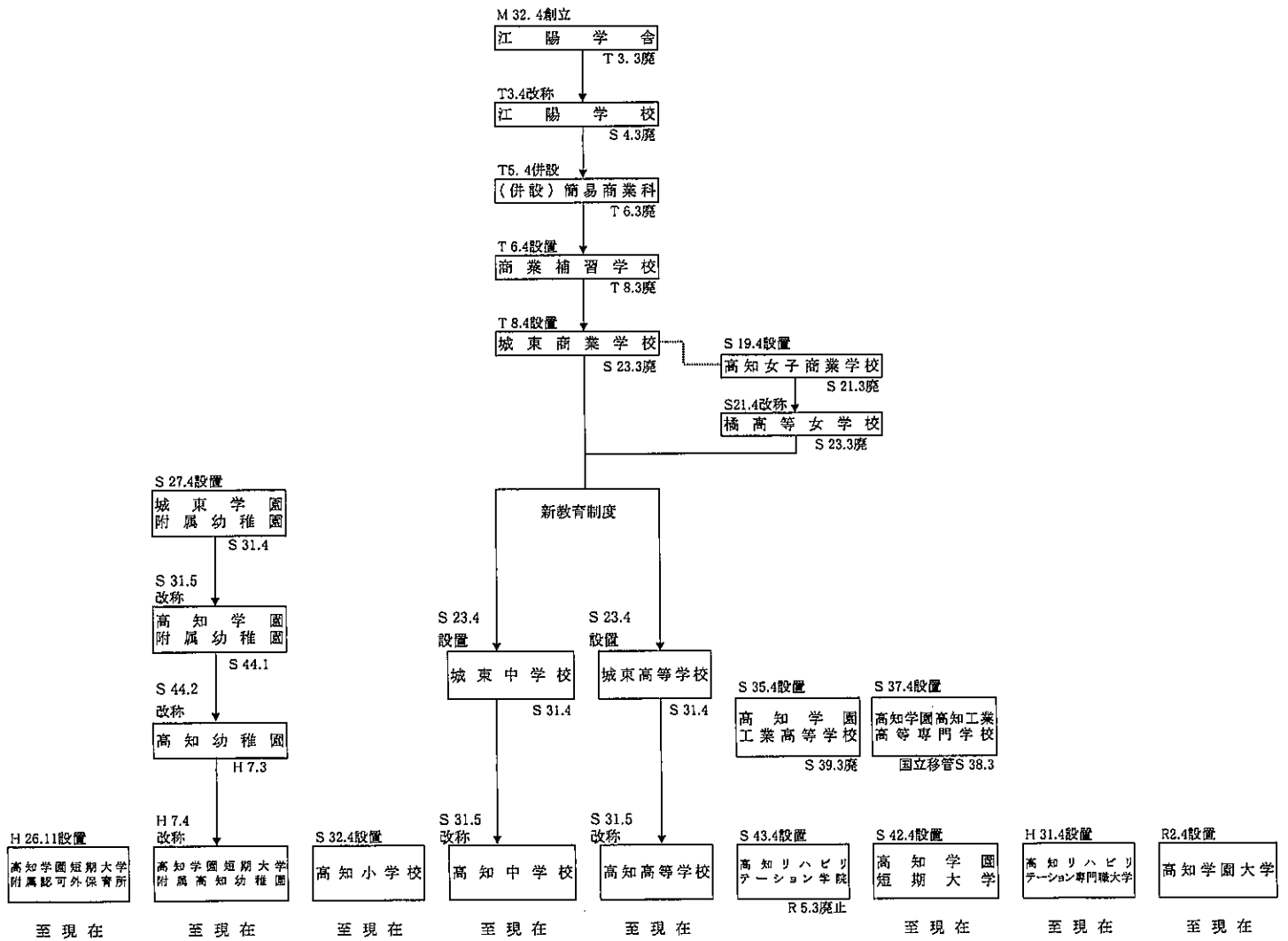
学校法人 高知学園

[2] 学校法人の沿革

法人の 沿革	明治32年 4月	高知市中新町に江陽学舎創立（創立者 信清 権馬）
	明治36年 4月	江陽学舎を江陽学校と改称
	明治39年 4月	高知市中新町より北新町84に移転
	大正 5年 4月	江陽学校に簡易商業科併設
	大正 7年 4月	簡易商業科を廃止し、商業補習学校設置
	大正 7年12月	乙種商業学校文部大臣認定
	大正 8年 4月	商業補習学校を廃止し、城東商業学校（乙種修業年限3年）設置
	大正10年12月	財団法人城東商業学校設置
	大正15年 3月	城東商業学校を甲種（修業年限5年）に昇格
	昭和 4年 3月	江陽学校廃止
	昭和19年 4月	高知女子商業学校設置
	昭和21年 4月	高知女子商業学校を橘高等女学校と改称
	昭和23年 3月	新教育制度により城東高等学校、城東中学校設置
	昭和26年 3月	財団法人城東高等学校を学校法人城東高等学校に組織変更
	昭和27年 4月	学校法人城東高等学校を学校法人城東学園に組織変更、城東学園附属幼稚園設置
	昭和31年 5月	学校法人城東学園を学校法人高知学園に組織変更、城東高等学校を高知高等学校（普通科、商業科）に、城東中学校を高知中学校に、城東学園附属幼稚園を高知学園附属幼稚園に改称
	昭和31年12月	高知小学校設置認可
	昭和32年 3月	高知市北新町より高知市北端町100番地に移転
	昭和32年 4月	高知小学校設置
	昭和34年 9月	高知学園附属幼稚園園舎を高知市北新町2の122に移転
	昭和35年 1月	高知学園高知工業高等学校設置
	昭和37年 1月	高知学園高知工業高等専門学校設置
	昭和38年 3月	高知高等学校の商業科廃止
		高知学園高知工業高等専門学校廃止（国立高知工業高等専門学校に移管のため）
	昭和39年 3月	高知学園高知工業高等学校廃止
	昭和42年 1月	高知市旭天神町字陣ヶ森292の26に高知学園短期大学設置認可（食物栄養科）
	昭和42年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を栄養士養成課程として指定
	昭和43年 2月	高知学園短期大学に衛生技術科設置認可、高知リハビリテーション学院設置認可（各種学校 修業年限3年）
	昭和43年 3月	高知学園短期大学食物栄養科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健・家庭））
		高知リハビリテーション学院を理学療法士及び作業療法士法第11条第1号の規定による理学療法士養成施設として指定
	昭和43年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を衛生検査技師養成学校として指定
	昭和44年 2月	高知学園短期大学に幼児教育科設置認可、高知学園短期大学幼児教育科を保育養成学校として指定、高知学園短期大学幼児教育科を幼稚園教諭二級普通免許を得させるための課程として認定
		高知学園附属幼稚園を高知幼稚園と改称、園舎を高知市北新町より高知市北端町100番地に移転
	昭和45年 1月	高知学園短期大学に保健科設置認可
	昭和45年 2月	高知学園短期大学保健科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健）、養護教諭二級普通免許）
	昭和45年 4月	高知学園短期大学保健科を歯科衛生士学校養成所指定規則第2条の規定に基づき歯科衛生士養成学校として指定
	昭和46年 4月	高知学園短期大学衛生技術科を臨床検査技師学校養成所指定規則第2条の規定に基づき臨床検査技師養成学校として指定
	昭和50年 3月	高知リハビリテーション学院の修業年限3年を4年に変更承認
	昭和53年12月	高知学園短期大学に専攻科設置（幼児教育専攻科修業年限1年）

法人の 沿革	昭和55年12月	高知リハビリテーション学院を各種学校から専修学校として認可
	昭和62年12月	高知学園短期大学保健科に保健専攻、歯科衛生専攻設置
	昭和63年 1月	高知学園短期大学保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二種普通免許（保健）、養護教諭二種普通免許）
	昭和63年 3月	高知学園短期大学保健科歯科衛生専攻を歯科衛生士学校養成所指定規則第3条第1項の規定に基づき歯科衛生士学校として指定
	平成 2年 3月	高知学園短期大学食物栄養科、幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定 食物栄養科・中学校教諭二種免許状（家庭）、幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状、保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状
	平成 5年 4月	高知リハビリテーション学院に作業療法学科設置（理学療法士及び作業療法士法第12条第1号の規定による作業療法士養成施設として指定）
	平成 7年 4月	高知幼稚園を高知学園短期大学附属高知幼稚園と改称
	平成 9年 4月	高知リハビリテーション学院に言語療法学科設置
	平成10年10月	高知リハビリテーション学院校舎を土佐市高岡町乙1139-3に移転
	平成11年 4月	高知リハビリテーション学院言語療法学科を言語聴覚士法第33条第1号及び附則第2条の規定による言語聴覚士養成所として指定
	平成12年 2月	高知学園短期大学幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定 幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状 保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状
	平成13年 3月	高知学園短期大学専攻科（幼児教育専攻）廃止
	平成13年 4月	高知学園短期大学専攻科（応用生命科学専攻）設置
	平成17年 4月	高知学園短期大学食物栄養科を生活科学学科に、幼児教育科を幼児保育学科に科名変更
	平成17年12月	高知リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科・言語療法学科の修了者に対し「高度専門士」の称号を付与することができる学校として指定
	平成18年 3月	高知学園短期大学保健科保健専攻廃止
	平成18年 4月	高知学園短期大学に医療衛生学科設置
		高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻、歯科衛生専攻を臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律第15条第1号、歯科衛生士法第12条第1号に定める学校として指定
	平成19年10月	高知学園短期大学看護学科を保健師助産師看護師法第21条第1項に定める学校として指定
	平成19年12月	高知学園短期大学看護学科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定 養護教諭二種免許状
	平成20年 3月	高知学園短期大学衛生技術科及び保健科歯科衛生専攻廃止
	平成20年 4月	高知学園短期大学看護学科設置
	平成22年 8月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を保健師助産師看護師法第19条第1号に定める学校として指定
	平成23年 2月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定 養護教諭一種免許状
	平成23年 4月	高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻設置
	平成26年11月	高知学園短期大学附属認可外保育所設置
	平成29年 2月	高知リハビリテーション学院を職業実践専門課程として認定
	平成30年10月	高知リハビリテーション専門職大学設置認可
	平成31年 1月	高知学園短期大学生活科学学科、幼児保育学科及び看護学科を教員の免許状授与の所要資格を得させるための学科等の課程として認定 栄養教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状 高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教員の免許状授与の所要資格を得させるための専攻科の課程として認定 養護教諭一種免許状
	平成31年 4月	高知リハビリテーション専門職大学設置
	令和 元年11月	高知学園大学設置認可
	令和 2年 4月	高知学園大学設置 高知学園短期大学医療衛生学科歯科衛生専攻を歯科衛生学科に科名変更
	令和 4年 3月	高知学園短期大学生活科学学科廃止
	令和 5年 3月	高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻及び専攻科応用生命科学専攻廃止 高知リハビリテーション学院廃止

学校法人高知学園の沿革



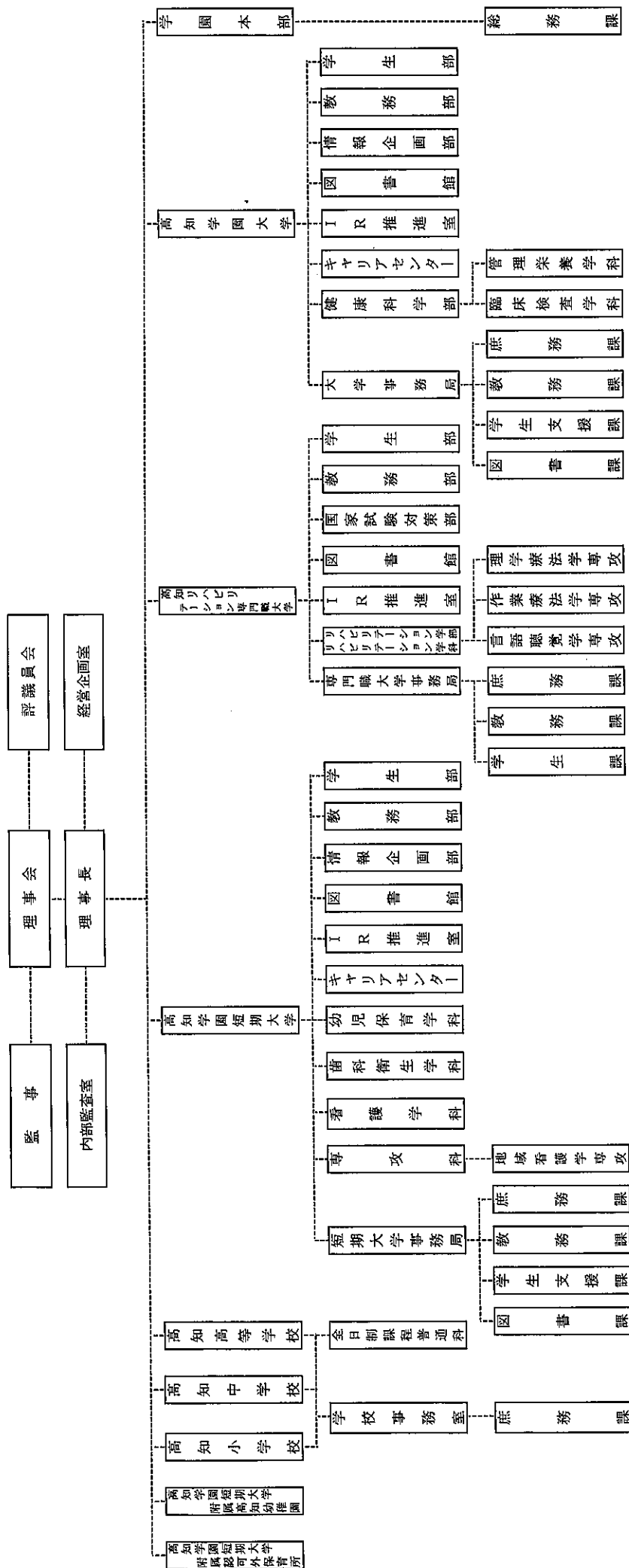
[3] 設置する学校等の状況

高知学園設置学校等

令和6年5月1日現在

学 校 名 等	理 事 長 ・ 所 属 長		電 話
学 校 法 人 高 知 学 園 高 知 学 園 本 部 高知市旭天神町292-26	理 事 長 本 部 長	高 瀬 久 志 福 田 道 則	代 840-1167
高 知 学 園 大 学 高知市旭天神町292-26	学 長	山 下 文 一	代 840-1121
高知リハビリテーション 専 門 職 大 学 土佐市高岡町乙1139-3	学 長	宮 川 哲 夫	代 850-2311
高 知 学 園 短 期 大 学 高知市旭天神町292-26	学 長	山 下 文 一	代 840-1121
高 知 高 等 学 校 高知市北端町100	校 長	田 村 誠	代 840-1111
高 知 中 学 校 高知市北端町100	校 長	田 村 誠	代 840-1111
高 知 小 学 校 高知市北端町100	校 長	山 岡 大 二	代 840-1111 直 844-4331
高 知 学 園 短 期 大 学 附 属 高 知 幼 稚 園 高知市北端町100	園 長	鈴 木 省 一	代 840-1121 直 840-5005

高知學園組織



高知学園配置図

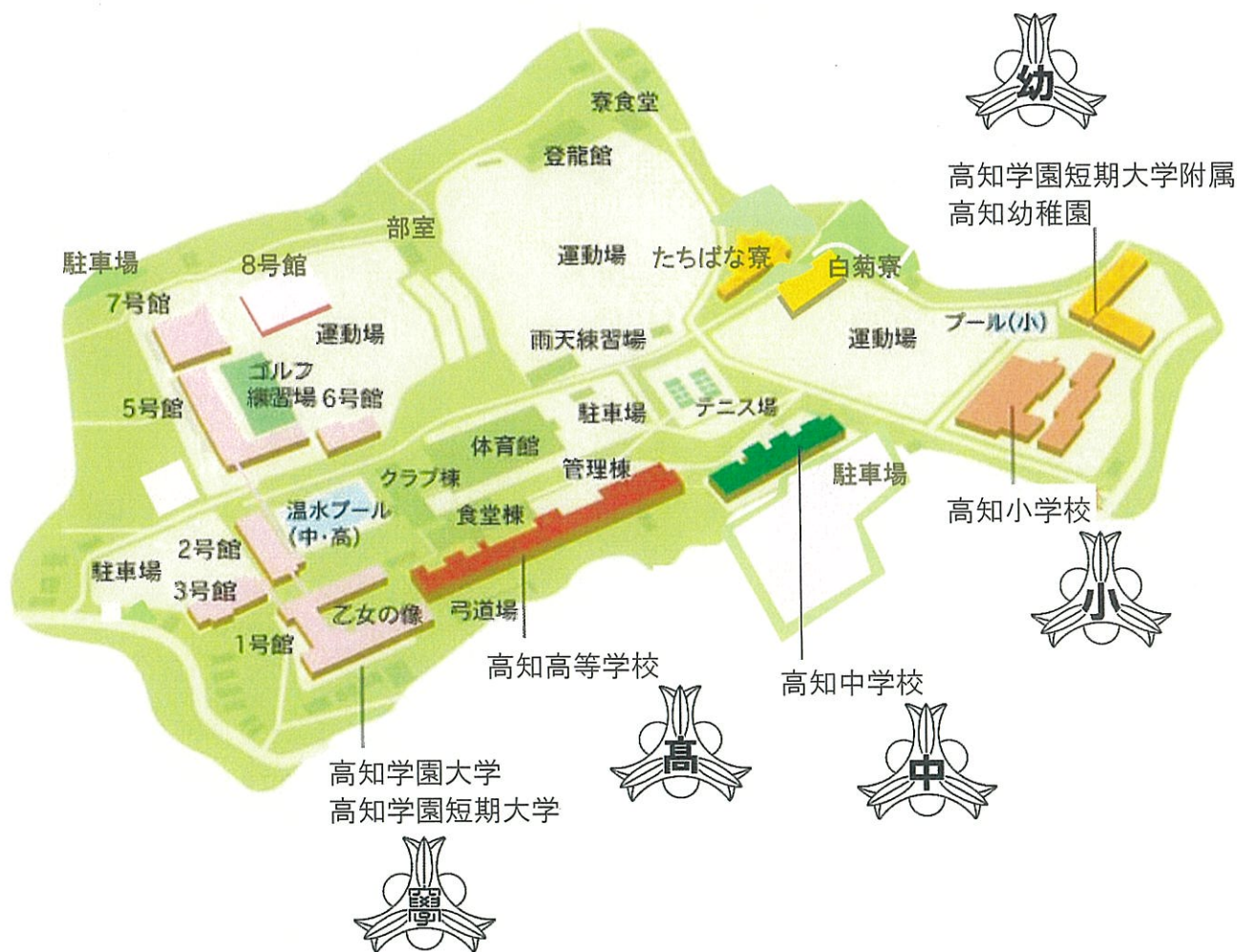
- 高知学園本部
- 高知学園大学
- 高知学園短期大学

【所在地】高知市旭天神町292-26

- 高知高等学校
- 高知中学校
- 高知小学校
- 高知学園短期大学附属高知幼稚園（認可外保育所併設）

【所在地】高知市北端町100番地

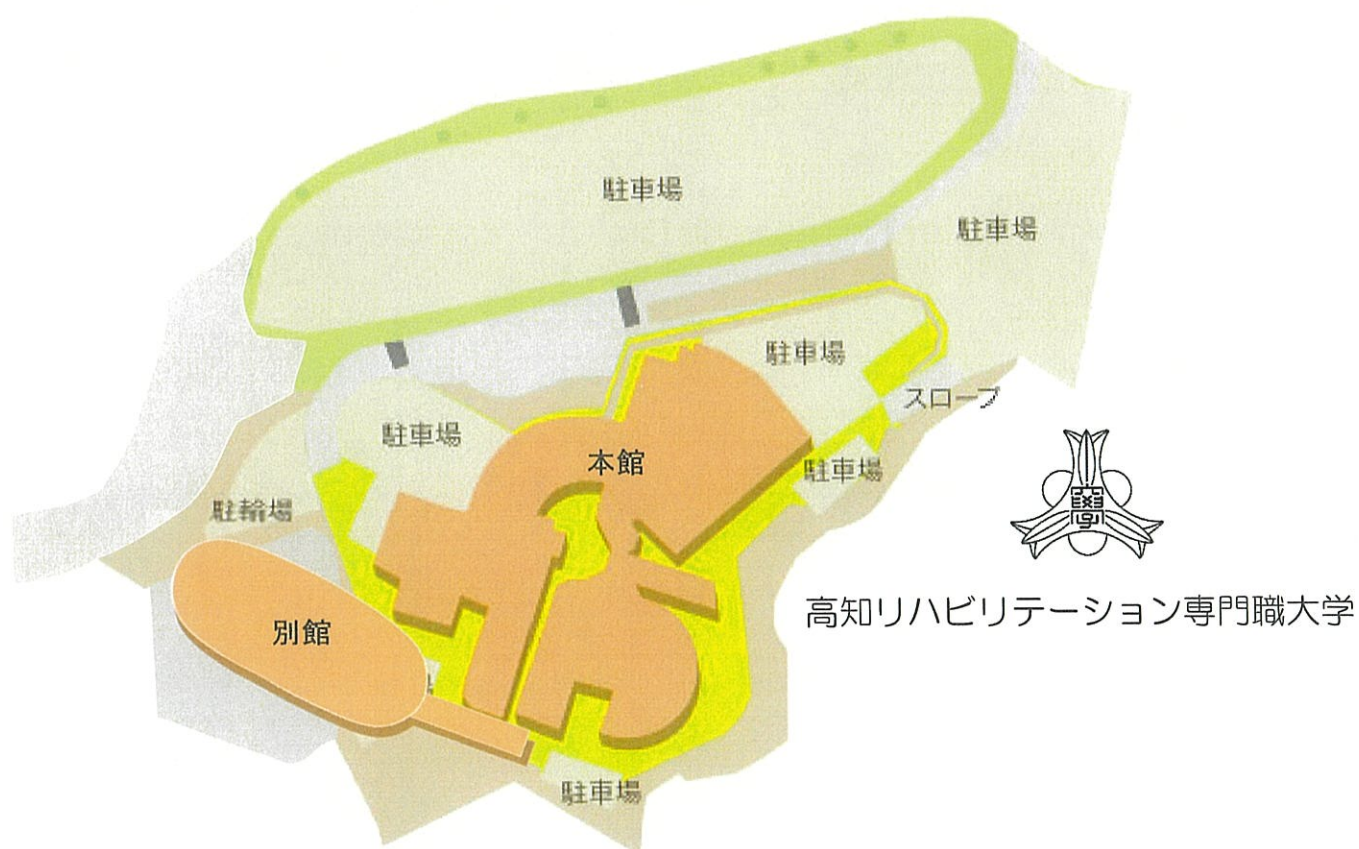
校舎	学校名 (所在地)	校地	校舎
		現有面積	現有面積
校地	高知学園本部・高知学園大学・高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	50,319 m ²	17,488 m ²
	高知高等学校・高知中学校・高知小学校 (高知市北端町100番地)	87,999 m ²	23,754 m ²
	高知学園短期大学附属高知幼稚園 (高知市北端町100番地)	1,837 m ²	777 m ²
	合計	140,155 m ²	42,019 m ²



● 高知リハビリテーション専門職大学

【所在地】土佐市高岡町乙1139-3

校地	学校名 (所在地)	校 舎	
		現有面積（借用）	現有面積
校 舎	高知リハビリテーション専門職大学 (土佐市高岡町乙1139-3)	26,354 m ²	9,596 m ²
	合計	26,354 m ²	9,596 m ²



[4] 設置する学校等の学生生徒等数の状況

(令和6年5月1日現在)

フ リ ガ ナ 学 校 名 (所 在 地)	学 部 ・ 学 科 等 名	開 設 年 度	入 学 定 員	入 学 者 数	収 容 定 員	現 員		
							男	女
コチガ'クエンカ'イ'ク 高知学園大学 (高知市旭天神町292-26)	健康科学部	R 2	130	80	520	343	91	252
	管理栄養学科	R 2	70	45	280	179	33	146
	臨床検査学科	R 2	60	35	240	164	58	106
	計		130	80	520	343	91	252
コチハビ'リテーションモンショクダ'イ'ク 高知リハビリテーショ ン専門職大学 (土佐市高岡町乙1139-3)	リハビリテーション学部	H 31	150	88	600	405	207	198
	リハビリテーション学科	H 31	150	88	600	405	207	198
	理学療法学専攻	H 31	70	52	280	250	162	88
	作業療法学専攻	H 31	40	15	160	79	34	45
	言語聴覚学専攻	H 31	40	21	160	76	11	65
	計		150	88	600	405	207	198
コチガ'クエンカ'イ'ク 高知学園短期大学 (高知市旭天神町292-26)	幼児保育学科	S 44	80	45	160	119	13	106
	歯科衛生学科	R 2	40	35	120	81	0	81
	看護学科	H 20	60	73	180	203	27	176
	高知学園短期大学計		180	153	460	403	40	363
	専攻科 地域看護学専攻	H 23	20	22	20	22	0	22
コチコト'ガ'ウ'ク 高知高等学校 (高知市北端町100)	全日制課程	S 23	420	202	1,260	619	419	200
コチチュウ'ガ'ウ'ク 高知中学校 (高知市北端町100)		S 23	330	109	990	345	221	124
コチショウ'ガ'ウ'ク 高知小学校 (高知市北端町100)		S 32	80	59	480	342	172	170
コチガ'クエンカ'イ'ク'クワ'ク'コチヨウチエン 高知学園短期大学附属 高知幼稚園 (高知市北端町100)		S 27	40	12	120	68	30	38
コチガ'クエンカ'イ'ク'クワ'ク'クニカ'イ'ク'ク 高知学園短期大学附属 認可外保育所 (高知市北端町100)		H 26	15	6	15	6	4	2
合 計			1,365	731	4,465	2,553	1,184	1,369

学費

2023年度（令和6年度）学費一覧

■大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費		図書費	合計
健康科学部 管理栄養学科	1	220,000	830,000	140,000	-	30,000	1,220,000
	2～4	-	830,000	140,000	-	30,000	1,000,000
健康科学部 臨床検査学科	1	220,000	900,000	350,000	-	50,000	1,520,000
	2～4	-	900,000	350,000	-	50,000	1,300,000

■専門職大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費	拡充費	図書費	合計
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 (全専攻共通)	1	290,000	590,000	330,000	310,000	30,000	1,550,000
	2～4	-	590,000	330,000	310,000	30,000	1,260,000

■短期大学

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	実験実習費		図書費	合計
幼児保育学科	1	200,000	770,000	110,000	-	30,000	1,110,000
	2	-	770,000	110,000	-	30,000	910,000
歯科衛生学科	1	200,000	770,000	130,000	-	30,000	1,130,000
	2～3	-	770,000	130,000	-	30,000	930,000
看護学科	1	200,000	770,000	180,000	-	30,000	1,180,000
	2～3	-	770,000	180,000	-	30,000	980,000
専攻科 地域看護学専攻	1	50,000	770,000	180,000	-	30,000	1,030,000

■高等学校以下

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	-	-	-	合計
高知中学・高等学校	1	160,000	456,000	-	-	-	616,000
	(月額)		(38,000)				(38,000)
	2～3	-	456,000	-	-	-	456,000
	(月額)		(38,000)				(38,000)
高知小学校	1	60,000	336,000	-	-	-	396,000
	2～6	-	336,000	-	-	-	336,000
	(月額)		(28,000)				(28,000)

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	教材費	協力費	施設設備費（入学一時金）	合計
高知学園短期大学附属 高知幼稚園	5歳児以外	40,000	312,000	12,000	12,000	10,000	386,000
	5歳児	40,000	312,000	12,000	12,000	5,000	381,000
	(月額)		(26,000)	(1,000)	(1,000)		(28,000)

(単位：円)

	学 年	入学金	授業料	教材費	協力費	施設設備費（入学一時金）	合計
高知学園短期大学附属 認可外保育所	2歳児	40,000	312,000	12,000	12,000	10,000	386,000
	(月額)		(26,000)	(1,000)	(1,000)		(28,000)

[5] 役員・評議員の概要

(1) 歴代理事長

(令和2年8月現在)

氏 名	在 任 期 間
橋 田 早 苗	大正10年 12月 ～
山 本 忠 秀	～ 昭和11年 10月
中 島 和 三	昭和11年 10月 ～ " 18年 5月
川 島 正 件	" 18年 6月 ～ " 23年 11月
坂 本 重 寿	" 23年 12月 ～ " 38年 4月
(代) 井 上 重 陽	" 38年 5月 ～ " 40年 2月
藤 田 三 郎	" 40年 3月 ～ " 46年 1月
川 島 源 司	" 46年 1月 ～ " 51年 3月
藤 本 孟	" 51年 4月 ～ " 55年 7月
岡 林 濯 水	" 55年 7月 ～ " 62年 4月
汲 田 精 一	" 62年 4月 ～ 平成元年 5月
竹 内 明 義	平成元年 6月 ～ " 10年 8月
西 野 恭 正	" 10年 8月 ～ " 16年 4月
(代) 下 山 晃	" 16年 4月 ～ " 16年 8月
成 田 十 次 郎	" 16年 8月 ～ " 20年 8月
小 笠 原 俊 明	" 20年 8月 ～ " 26年 8月
吉 良 正 人	" 26年 8月 ～ 令和2年 8月
高 瀬 久 志	令和2年 8月 ～ 至現在

注(代)は、理事長代理

(2) 歴代学園長

氏 名	在 任 期 間
川 島 源 司	昭和37年 4月 ～ 昭和46年 3月
高 石 次 郎	" 46年 4月 ～ " 49年 3月
山 崎 重 明	" 49年 4月 ～ " 51年 3月

昭和51年4月 学園長の職制廃止

(3) 役員・評議員の氏名等

① 役員

(令和6年8月31日現在)

理事	定数	10人	任期	2年※	選任条項別定数実数	(注) 選任区分の各号は寄附行為第6条第1項の各号	
	実数	常勤	5人	非常勤	5人		
		計	10人				
		うち	外部理事	5人			
監事	定数	2人	任期	2年	選任条項別定数実数	(注) 選任区分の各号は寄附行為第6条第1項の各号	
	実数	常勤	0人	非常勤	2人		
		計	2人				
		うち	外部監事	2人			
理事・監事の 区別	職名又は 担当職務	代表権の 範囲	氏名	常勤・非常勤 の別	就任年月日 (重任年月日)	選任区分等	
						項又は 号	選任区分
理事	理事長	法人の全ての業務	高瀬 久志	常勤	R2. 8. 31 (R6. 8. 31)	3号	評議員 (理事会選任)
"	—	—	山下 文一	"	R6. 4. 1	1号	学校長の互選
"	—	—	宮川 哲夫	"	R4. 4. 1	1号	"
"	—	—	田村 誠	"	R6. 4. 1	1号	"
"	—	—	福田 道則	"	R3. 8. 31 (R6. 8. 31)	2号	学園本部長
"	—	—	田中 正澄	非常勤	H28. 8. 31 (R6. 8. 31)	3号	評議員 (理事会選任)
"	—	—	岩井 俊二	"	R3. 4. 1 (R6. 8. 31)	3号	"
"	—	—	竹内 康雄	"	H18. 8. 31 (R6. 8. 31)	4号	学識経験者 (理事会選任)
"	—	—	前田 好正	"	R元. 11. 15 (R6. 8. 31)	4号	"
"	—	—	尾下 一次	"	R6. 8. 31	4号	"
監事	監事		行田 博文	非常勤	H18. 8. 31 (R6. 8. 31)	—	—
"	"		濱田 順久	"	R2. 8. 31 (R6. 8. 31)	—	—

(備考) 1 責任限定契約の締結状況：非常勤の役員全員と締結済

2 役員賠償責任保険契約の状況：役員との間で損害賠償責任に関する保険契約を締結済

② 評 議 員

定数	21 人	(注) 選任区分の各号 は寄附行為第24条第1 項の各号	選 任 条 項 別 定 数 実 数		
実数	21 人		区分	定数	実数
任期	2 年		号	人	人
			1	3	3
			2	6	6
			3	5	5
			4	3	3
			5	4	4
氏 名	就 任		選 任 区 分 等		
	就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分	
田村 誠	R6. 5. 27	R6. 8. 31	1号	法人職員 (理事会選任)	
山岡 大二	R5. 5. 30	R6. 8. 31	1号	〃	
鈴木 省一	R5. 5. 30	R6. 8. 31	1号	〃	
高瀬 久志	R2. 8. 31	R6. 8. 31	2号	法人設置学校卒業者 (理事会選任)	
岩井 俊二	R3. 4. 1	R6. 8. 31	2号	〃	
大倉 三洋	R2. 8. 31	R6. 8. 31	2号	〃	
岡崎 千佐子	R4. 12. 7	R6. 8. 31	2号	〃	
西森 美恵	H28. 8. 31	R6. 8. 31	2号	〃	
北川 眞智子	H26. 8. 31	R6. 8. 31	2号	〃	
前田 好正	R元. 11. 15	R6. 8. 31	3号	理事の互選	
尾下 一次	R6. 8. 31	—	3号	〃	
山下 文一	R6. 5. 27	R6. 8. 31	3号	〃	
宮川 哲夫	R4. 5. 30	R6. 8. 31	3号	〃	
福田 道則	R3. 8. 31	R6. 8. 31	3号	〃	
三好 宏幸	R5. 5. 30	R6. 8. 31	4号	在学生の父母若しくは 保護者 (理事会選任)	
和田 譲	R6. 5. 27	R6. 8. 31	4号	〃	
榊原 英之	R6. 5. 27	R6. 8. 31	4号	〃	
竹内 康雄	H18. 8. 31	R6. 8. 31	5号	学識経験者 (理事会選任)	
田中 正澄	H28. 8. 31	R6. 8. 31	5号	〃	
秋山 保之	H26. 8. 31	R6. 8. 31	5号	〃	
松岡 和也	R6. 8. 31	—	5号	〃	

(4) 理事会・評議員会の開催状況

評議員会

回	年月日	議案
第1回	令和6年5月27日(月) (12:13~13:18)	第1号議案 (理事会議案につき省略) 第2号議案 令和5年度事業報告 第3号議案 令和5年度学校法人高知学園決算 第4号議案 令和6年度第1回補正予算 協議事項 ①認定こども園について ②給与制度改革について ③女子寮の有効活用について 報告事項 中高からの報告
第2回	令和6年8月27日(火) (14:10~15:10)	第1号議案 (理事会議案により省略) 第2号議案 任期満了に伴う監事の選任同意 第3号議案 高知学園大学学則の一部改正 第4号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 協議事項 ①私立学校法改正に伴う高知学園寄附行為の一部改正 ②幼稚園の今後の運営 ③給与制度改革 報告事項 ①財務の概要
第3回	令和6年10月28日(月) (14:00~15:40)	第1号議案 学校法人高知学園寄附行為の変更 第2号議案 高知リハビリテーション専門職大学学長選考会議委員の選出
第4回	令和6年11月27日(水) (10:00~12:05)	第1号議案 学校法人高知学園寄附行為の変更 第2号議案 高知学園短期大学附属高知幼稚園園則の一部改正 第3号議案 令和6年度第2回補正予算 報告事項 中高からの報告
第5回	令和7年2月4日(火) (14:00~16:58)	第1号議案 令和7年度事業計画 第2号議案 令和6年度第3回補正予算 第3号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 報告事項 ①私立学校法改正への対応(進捗状況) ②給与制度の見直し(進捗状況) ③女子寮の有効活用(進捗状況) ④小中高の不登校状況

第 6 回	令和 7 年 3 月 19 日 (水) (13:55~16:05)	第 1 号議案 令和 6 年度第 4 回補正予算 第 2 号議案 (理事会議案により省略) 第 3 号議案 令和 7 年度収支予算 第 4 号議案 補正予算の専決処分 第 5 号議案 事業に関する中期的な計画 第 6 号議案 高知学園大学学則の一部改正 第 7 号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 第 8 号議案 高知リハビリテーション専門職大学学則の一部改正 第 9 号議案 高知小学校学則の一部改正 第 10 号議案 入学金及び授業料減免規程の一部改正 第 11 号議案 高知学園内進学者の入学金減免規程の一部改正 第 12 号議案 内部統制システム整備の基本方針の制定 第 13 号議案 規程等の制定及び管理規程の制定 報告事項 ①私立学校法改正への対応 (進捗状況) ②給与制度の見直し (進捗状況) ③来年度へ向けて各種委員会の設置
-------	--------------------------------------	--

理事会

回	年月日	議案
第 1 回	令和 6 年 5 月 27 日 (月) (9:50~13:25) (小休 12:05~13:20)	第 1 号議案 評議員の選任 第 2 号議案 令和 5 年度事業報告 第 3 号議案 令和 5 年度学校法人高知学園決算 第 4 号議案 令和 6 年度第 1 回補正予算 協議事項 令和 5 年度資金の管理運用報告
第 2 回	令和 6 年 8 月 27 日 (火) (13:55~14:05) (小休 14:05~15:15) (15:15~15:30)	第 1 号議案 任期満了に伴う監事の候補者の選出 第 2 号議案 (評議員会議案により省略) 第 3 号議案 高知学園大学学則の一部改正 第 4 号議案 高知学園短期大学学則の一部改正 第 5 号議案 任期満了に伴う理事・評議員の選任
第 2 回 (新任 期)	令和 6 年 8 月 27 日 (火) (15:35~15:45)	第 1 号議案 理事長の選任及び理事長職務代理の指名 第 2 号議案 高知学園建築委員会委員の互選 第 3 号議案 理事長候補者選考委員の指名

第3回	令和6年10月28日(月) (15:50~16:00)	第1号議案 第2号議案	学校法人高知学園寄附行為の変更 高知リハビリテーション専門職大学学長選考 会議委員の選出
第4回	令和6年11月27日(水) (12:10~12:15)	第1号議案 第2号議案 第3号議案	学校法人高知学園寄附行為の変更 高知学園短期大学附属高知幼稚園園則の一部 改正 令和6年度第2回補正予算
第5回	令和7年2月4日(火) (17:05~17:12)	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	(評議員会議案により省略) 令和6年度第3回補正予算 高知学園短期大学学則の一部改正 高知リハビリテーション専門職大学学長候補 者の決定
第6回	令和7年3月19日(水) (16:15~16:35)	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案 第9号議案 第10号議案 第11号議案 第12号議案 第13号議案 第14号議案 第15号議案 第16号議案 報告事項	令和6年度第4回補正予算 令和7年度事業計画 令和7年度収支予算 補正予算の専決処分 事業に関する中期的な計画 高知学園大学学則の一部改正 高知学園短期大学学則の一部改正 高知リハビリテーション専門職大学学則の一 部改正 高知小学校学則の一部改正 入学金及び授業料減免規程の一部改正 高知学園内進学者の入学金減免規程の一部改 正 内部統制システム整備の基本方針の制定 規程等の制定及び管理規程の制定 組織規程の一部改正 給与規程の一部改正(議案取り下げ) 役員賠償責任保険契約の締結 ①令和7年度資金の管理運用計画

[6] 教職員の概要

令和6年5月1日現在

学 校 名	教 員		職 員		合 計
	専 任	兼 任	専 任	兼 任	
学 園 本 部	0	0	6	1	7
高 知 学 園 大 学	43	51	7	7	108
高知リハビリテーション専門職大学	32	90	12	13	147
高知学園短期大学	38	68	9	0	115
高 知 高 等 学 校	38	13	3	13	67
高 知 中 学 校	25	6	3	1	35
高 知 小 学 校	17	14	1	5	37
高知学園短期大学 附属高知幼稚園	5	4	0	4	13
高知学園短期大学 附属認可外保育所	0	1	0	0	1
合 計	198	247	41	44	530

[7] その他

(1) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）の進捗状況

近年の少子高齢化をはじめとする学校を取り巻く環境がますます厳しくなっている状況を踏まえ、今後、幼稚園から大学までを擁する充実した総合学園として更なる発展を目指すため、令和2年度から令和6年度までの5カ年の財務計画を策定し、実行してきた。5年目の令和6年度においては、次期5カ年財務計画（令和7年度～令和11年度）の策定を見据えて、現計画の検証を実施した。

本計画は、教育の充実とともに経営基盤の安定化を図るため、毎年の事業の実績報告等を基に進捗状況を確認のうえ適宜見直すこととしている。

Ⅱ 設置学校の事業報告

令和6年度 事業報告書 （高知学園短期大学附属高知幼稚園）

1. 現状と課題

(1) 入園児の確保

① 現状

区分	定員数	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		5月1日 園児数	年度末 園児数	5月1日 園児数	年度末 園児数	5月1日 園児数	年度末 園児数
満2組		6	7	9	5	6	6
満3組		1	14	2	16	1	9
年少組		18	19	20	20	25	26
年中組		40	38	22	21	21	22
年長組		34	35	39	39	21	22
合 計	満3歳組以上の 定員数120名	99	113	92	101	74	85

② 課題

令和4年度は新型コロナの影響で年少組の園児数が20名を下回った。令和5年度以降、年少組の園児数は20名～25名前後で推移し、以前のように30名を超えることが無くなってきた。これは少子化による影響が大きいと考えられるが、今後募集活動を強化し、さらに教育内容を充実させ、保護者から選んでもらえる幼稚園になるよう努めていく必要がある。

少子化の中、園児数減少による赤字経営を解消するためには、新制度の幼稚園に移行し、補助金の活用を図る必要がある。

(2) 出口状況（高知小学校への進学率）

① 現状

区分	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	卒園児数	高知小進学者数	進学率	卒園児数	高知小進学者数	進学率	卒園児数	高知小進学者数	進学率
年長組	35名	19名	54%	39名	13名	33%	22名	10名	45%

高知小学校への進学率は、最近では令和5年度を除き約50%前後で推移している。（令和5年度は、高知小学校への入学を希望していたが、転勤のため入学できなかった園児が4名いた。）

② 課題

高知幼稚園の園児には、高知小学校への入学を希望して入園してきている園児、高知小学校か地元の小学校か未決定の園児、地元の小学校に入学をほぼ決めている園児の大きく3つに分けられる。そうした園児たちに高知小学校への入学を勧めるために、幼少連携の活動を強化し、高知小学校の魅力を園児に感じてもらう機会を作ることが必要である。さらに、園児の保護者に対し、高知小学校の情報を今まで以上に発信することも必要である。

(3) 教育研究計画

① 現状

- ・「のびのび」が育つ幼稚園として、自ら気づき、考え、判断して行動することのできる「生きる力」の基礎を養い、心身ともに健康でたくましい子どもを育てる。
- ・教職員の資質向上（研究授業の実施・各種研修会、講演会への参加）を図る。
- ・防災教育の充実（月1回の園児の避難訓練の実施）。
- ・総合学園を生かした幼児教育の実施。

② 課題

- ・総合学園という強みを生かし、短大や小学校、中高、学園大学、リハビリテーション専門職大学との連携の強化をさらに進めていく必要がある。

2. 令和6年度の取組

(1) 園児募集に関する取組

① 園庭開放と体験入園説明会

- ・毎週水曜日の園庭開放「あそびにおいでよ」を充実させ、保育室も開放して様子を見てもらい、また来園者を入園に繋げるため、事後連絡を密にした。また、園児の兄弟姉妹への園庭開放参加を呼びかけた。
- ・体験入園説明会(年4回)の充実による幼稚園の特色のアピールを行った。未就園児と教員と一緒に遊ぶ場を設定し、園児と同じような体験をすることで、幼稚園への期待感を高める取り組みを行った。

② 広報活動

- ・HPの更新、ブログの継続更新により、幼稚園から積極的な情報発信を行った。
- ・ポスティングによる園のチラシ配布を継続して行った。
- ・RKC子育て応援団に協賛し、キャンペーンCMを流し、また、すこやかWinter(中央公園)に参加した。

③ その他

- ・保護者のニーズに対応した課外活動として「学研高知幼稚園教室」を開設した。

(2) 教育研究計画

- ① 危機管理の情報共有と対応の強化。
- ② 年間一人1回の校内研究授業を実施し、園外の研修会等にも参加。
- ③ 高知小学校との幼少連携を実施。
- ④ 高校・短大・学園大・リハビリテーション専門職大学の実習等の受け入れ実施。

(3) 新制度の幼稚園へ移行するための取組

- ・高知県幼保支援課、高知市保育幼稚園課、くるみ幼稚園(最も最近、新制度の幼稚園に移行した園)から移行に向けて、申請等の手続きについてのレクチャーおよび助言を受けた。
- ・新制度の幼稚園である、施設型給付幼稚園の申請に向けての取り組みを行った。

3. 令和6年度の実施結果

(1) 園児募集

- ・令和7年5月1日現在園児数

満2組	満3組	年少組	年中組	年長組	合 計
7	2	17	28	23	77

- ・年少組は、外部入園児が9名、内部進級園児が8名であり、年少からの外部入園児の確保が難しくなっているのが現状である。
- ・園庭開放参加者で7名、体験入園説明会参加者で8名が入園した。(すべての組の合計)

(2) 教育研究計画

- ・私立幼稚園連合会の夏季研修会(3日間)、四国研修会(2日間・徳島)に参加した。
- ・高知県私立幼稚園教員研修会(第33回公開保育)に参加した。
- ・高知小学校との幼少連携として、年長組が学校探検で小学校を訪問して1年生に案内してもらったり、英語の授業に参加したり、2年生と一緒にサツマイモのつるを植えたりして交流した。また、参観日に、高知小学校校長より保護者に対しての講話を実施し、高知小学校の魅力を伝えた。
- ・高知高校生による夏休みのボランティア活動を受け入れ実施した。
- ・高知学園短期大学 幼児保育学科の「教育実習」、「教職実践演習」、歯科衛生学科の「歯磨き指導実習」、高知学園大学健康科学部管理栄養学科「栄養教育実習」を受け入れ実施した。
- ・リハビリテーション専門職大学を年中・年長園児が訪問し、言語聴覚学科の学生と交流した。

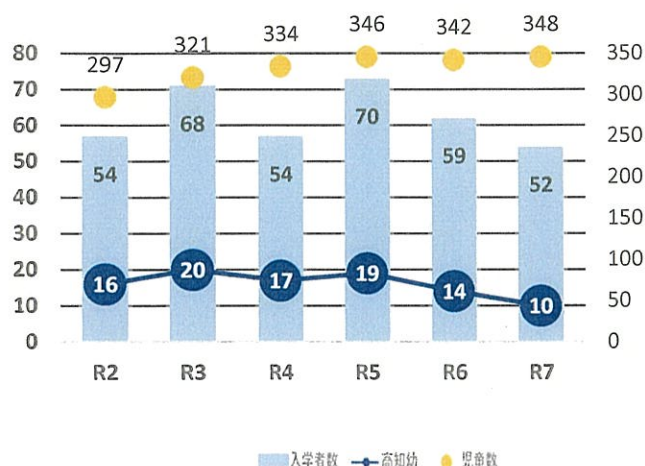
(3) 新制度の幼稚園への移行

- ・新制度の幼稚園である施設型給付幼稚園に移行する手続きを進め、平成7年度からの移行が認可された。今後はさらに、認定こども園に移行するための準備を進めていく方針である。

1. 現状と課題

(1) 入学生(入口)の確保現状と課題

児童数推移 (R6年度)



R3年度以降、全校児童数は300名を超えて推移してきている。R5年度には70名(35名×2学級)の入学生を確保し指導にあたってきたが、1学級35名という規模は、学校施設面や指導の困難性から適切ではないと考えた。そこで、R6年度から募集定員を64名とし募集を行っている。しかし、少子化の影響もあり、応募者数自体が定員に届かない現状がある。R7年度入学に向けては、二次募集も行ったが52名に留まった。中でも高知幼稚園からの入学者数がここ数年減少しており、園児数が減少している中で、いかに高知小への進学者を増やしていくのか、幼小連携の共通課題として取り組む必要がある。そのためにも、高知小学校の特色と魅力を更に磨き上げ、アピールしていくことが必要と考える。

(2) 出口の状況

R6年度の高知中学校への進学率は、ここ数年で一番低く9%であった。本学年の児童は総じて学力が高く、早くから県内外の私立進学校への進学を希望する児童が多かった。現状においては、本校に入学当初から他の私立中学校を目標に掲げている家庭が多いのも事実であり、その実現を保障していくことも致し方ないと考えている。

しかしながら、一定数は高知中学校へ進学させたい。そのためには、幼小中高・リハ専・短大・大学と繋がる総合学園としての魅力と、中高を経た後の進学見通しをいかに展望をもって伝えていくかが大切になる。

高知中学校への進学率の推移

	R2	R3	R4	R5	R6
卒業生数	40	40	59	55	44
高知中 進学者数	8	8	15	16	4
高知中 進学率	20%	20%	24%	29%	9%

(3) 教育内容の特色化・魅力化推進

- ①英語教育の充実と魅力化：本校は1年生から週2時間の英語指導を行っている。このことは公立学校ではないことで、本校教育の一番の特色である。R6年度は、学んだ英語力をアウトプットする機会として台湾慈済大学附属高級中学小学部との交流をスタートさせることができた。しかし、まだまだ緒についたばかりであり、今後さらに交流を充実させることとアウトプットの機会を増やすことが大切と考えている。
- ②専科指導の充実：英語はもちろん、図工・音楽・書写という専門性が問われる教科指導を低学年から専科教員が担っている。このことにより多数のコンクール等への出品が可能となり、また学級担任の負担軽減にも効果があり、一つ一つの授業の質向上につながっている。オープンスクールや見学会では専科授業を必ず紹介し公立学校との差別化を図っている。
- ③科学教育・ICT教育の充実：プログラミング教育に代表されるような先進的な取組を積極的に取り入れてきた。児童の興味関心も大きく、今後さらに教材等を充実させることが必要である。また、AIの活用も視野に入れた取組や授業も取り入れていきたい。

(4) 安心・安全な学校づくりの推進

①R6年度の「いじめ」認知件数：15件

⇒「いじめ」の認知への意識向上、早期発見・早期対応を行うための Q-U や「君のこと教えてシート」の有効活用ができていなかったとの反省をした。また、いじめ未然防止のため、広島大学大学院の栗原愼二先生を招聘して教員研修が3回実施できたことは有意義であった。

②R5年度の不登校(傾向)児童数：長期欠席(30日以上) 6名(R5:10名)、その中で不登校と捉えられる児童は3名である。その内1年生の1名は環境を変えるため公立小学校へ12月に転校した。2年生の1名は、1日も登校できず、保護者や他機関等と相談しながら支援・見守りを行っている。3年生の1名は、徐々に改善傾向にある。

R6年度から、SSW(スクールソーシャルワーカー)を配置していただき、家庭訪問を含め、よりきめ細かな対応が可能になったことで、長期欠席者は減少した。

(5) 施設設備の更新

○雨漏り防止のための屋上防水工事・外壁修復塗装工事

⇒長年の課題であった屋上の雨漏り防止工事を実施することができた。また、予算の範囲内で、校舎北面の外壁の劣化による爆裂等でブロックの落下を防ぐ修復塗装工事を行うことができた。

2. 令和6年度を取組

(1) 児童募集に関する取組

①学校紹介イベント開催

- オープンスクール(6月):58名参加(R5:67名)
- トライスクール(11月):58名参加(R5:62名)
- 学校見学(年6回開催):延べ20名参加(R5:25名)
- 個別相談会(12月):7名参加(R5:7名)

②広報活動

- 教員による幼稚・保育園へのチラシ等の配布(高知市・香南市・香美市・土佐市:計115園)
- SNSによる学校紹介:日頃の学校生活の様子等の積極的紹介
- TVCMの時期を絞った活用:11月～12月の願書受付期間に集中的に実施
- 毎月発行の学校便り「たちばな」にて、各種コンクール・大会等での入賞実績の紹介。
- 英語検定・漢字検定・算数検定の準会場としての実績の紹介。

③放課後習い事教室等の充実

- 英会話教室(79名)・ピアノ教室(58名)・硬筆教室(91名)、バスケットボール教室(新規開設)
:外部委託(英語強化コース・学研教室・体操・水泳・ロボ団・野球・サッカー)
- 学童保育:利用者(86名登録)は、英会話教室・ピアノ教室・硬筆教室利用の場合は無料

(2) 教育研究計画

①確かな学力の定着と学力の向上に向けた取組

- 教員1人1回の研究授業の実施(国・算・理・英):年間13回
- 小砂丘賞作文教育研究大会研究発表校(9月):参加者約70名
- 基礎学力の定着と学力の向上:全校漢字(年13回)・全校計算(年13回)・補習(週3日)を実施
- ICT機器の有効利用:AI型学習教材「キュービナ」を全学年に導入
- 全国学力・学習状況調査(6年)の実施及び学力分析による授業改善
- 私学テスト(5・6年)の実施及び調査結果を踏まえた個別面接の実施

②豊かな人間性の育成といじめのない学校づくりに向けた取組

- 人権週間に「いじめ防止」に向けた授業を全学級で実施
- いじめ・不登校未然防止に向けた教員研修(6月・7月):広島大学大学院教授 栗原愼二先生 招聘
- Q-Uの実施(年2回)、学校カウンセラーとの個別面談
- スクールアドバイザー、心のアドバイザーとの効果的な連携

3. 令和6年度の取組結果

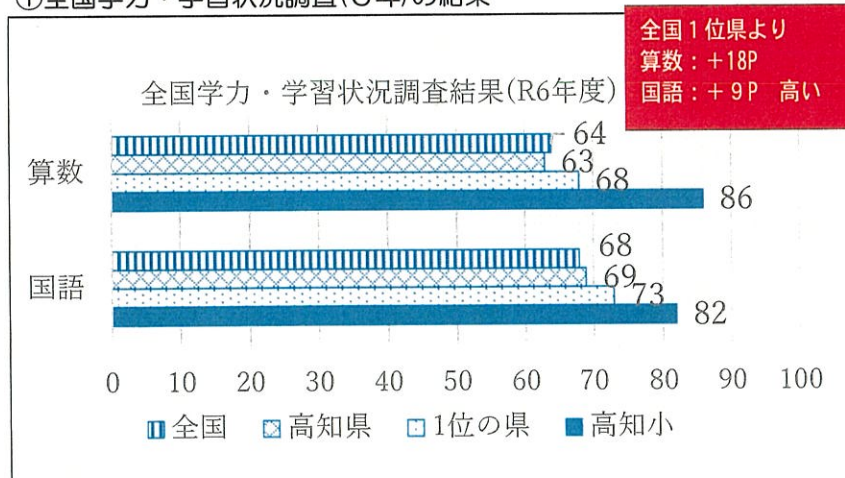
(1) 定員確保

入学年度	志願者	合格者	入学者	欠席・辞退
令和7年4月	55	51	52	欠席3・辞退1 2次合格1名、追加1名
令和6年4月	66	60	59	欠席4・辞退1
令和5年4月	76	70	70	欠席・辞退なし
令和4年4月	54	54	54	欠席・辞退なし
令和3年4月	77	71	68	欠席2・辞退3
令和2年4月	71	64	56	欠席4・辞退7・転出1

※R7 年度入学について、合格者が募集定員に大きく達していなかったため、二次募集を行った。その結果、志願1名、合格1名とした。また、3月に元高知幼稚園在籍園児を追加合格とした。

(2) 教育研究計画

① 全国学力・学習状況調査(6年)の結果



本校は例年、左記と同様の結果を維持している。算・国共に全国の1位県を大きく上回るこの結果は、PTA 委員会や学校便りで全校に紹介し、保護者から「もっとアピールすべき。」との声も頂戴した。学校説明会等の場面で積極的に紹介してきた。

② 進学実績 (計44名)

高知中学校	4	国際中学校	1
土佐中学校	14	土佐女子中学校	1
学芸中学校	11	県内公立中学校	3
土佐塾中学校	7	県外私立中学校	3

【令和6年度合格実績】

岡山中学校(4名)、愛光中学校(9名)、ラサール中学校(6名)、白陵中学校(1名)、西大和中学校(1名)、東大寺中学校(1名)、灘中学校(1名)、開成中学校(1名)、日本航空高等学校附属中学校(1名)、南陽高等学校附属中学校(1名)

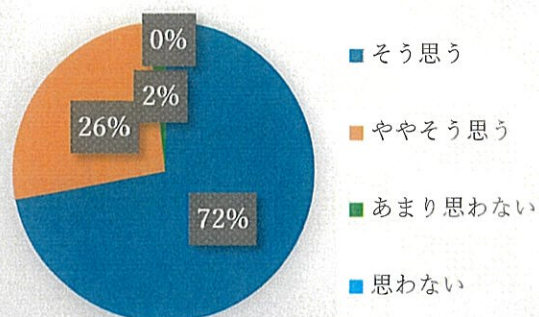
(3) 長期欠席(年間30日以上)児童

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
人数	1	1	1	0	3	0

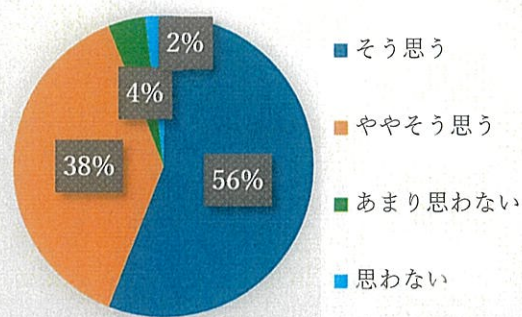
以上の児童以外に、別室対応の児童が1名おり、保護者・教員間での連携を重視しながら丁寧な見守り、支援を行ってきたことで、教室へ入る回数が増えるなど改善傾向が見られてきている。

(4) 令和6年度学校評価アンケート(保護者対象)結果 (回答数313)

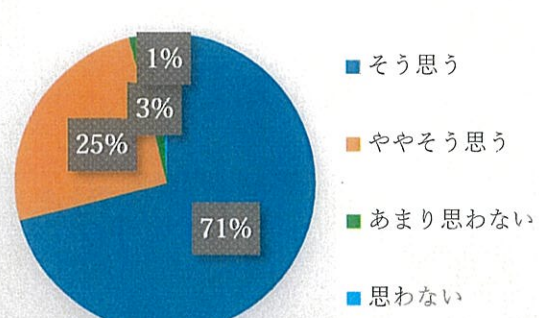
①お子さんは、友だちと仲良く生活
をしていると思いますか。



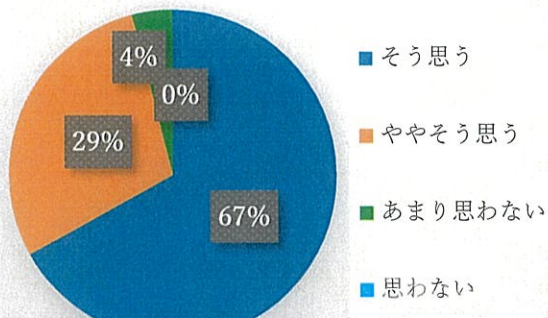
②お子さんは、授業がよくわかってい
ると思いますか。



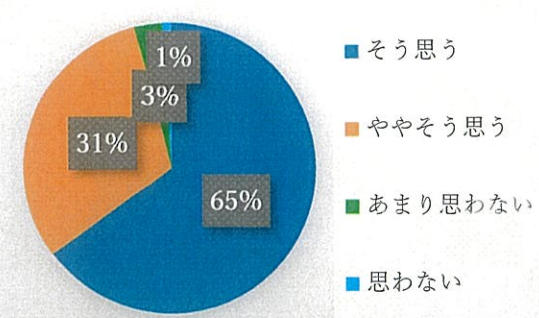
③お子さんは、学校生活を楽しんで
いると思いますか。



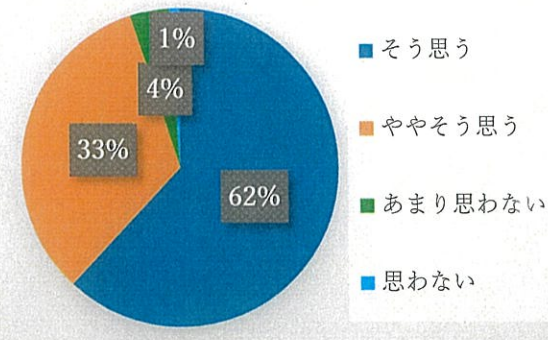
④学校は、家庭への連絡や情報提供を
積極的に行っていますか。



⑤学校は、お子さんの学習や生活に
ついて丁寧に応じていると思います
か。



⑥学校は、保護者の期待に応えること
ができていますか。



1. 現状と課題

(1) 生徒数確保

① 生徒数の推移

中学生の確保については、減少傾向にある中、令和5年度までは改善傾向にあったが令和6年度より再び減少傾向にある。志願者数の減少及び高知小学校からの内進者の減少が要因である。

② 高知小学校からの進学

平成31年から令和6年度までは高知小学校からの内進者は少ない時で7人、多い時で16人であったが、令和7年度は4人と極端に少なかった。総合学園としての中高一貫教育の魅力化を一層啓発すること、中学校の「特色と魅力」を早い段階で発信する必要がある。

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・「教える」から「学ぶ」となるように授業の質の変化
- ・生徒の倫理的思考力を鍛えるために「ことばの育成」や「テーマ学習」の充実
- ・指導力向上に向けての積極的な自己研鑽

(3) 学習指導・進路指導の充実

- ・早い段階から学習意欲を育て、進路実現に向けた取組が必要
- ・担任と部活動顧問、教科担当との連携が重要
- ・学校評価では、「分かりやすい授業」80%の結果
- ・英検は、2級(1人/3人)、準2級(4人/12人)、3級(23人/33人)、4級(32人/73人)、5級(25人/31人)が取得
- ・漢検は、2級(1人/1人)、準2級(2人/8人)、3級(12人/38人)、4級(17人/115人)、5級(52人/146人)、6級(4人/29人)
- ・学力調査については、特進コースは県及び国を上回り、普通コースは県及び国を下回る結果

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

- ・「至誠」の精神の喚起、自主、自立の精神の涵養、規範意識等の醸成
- ・生徒の尊厳、個性に沿った生徒指導
- ・担任と部活動顧問、教科担当との連携を密にし、一人一人を生かす学級経営
- ・日頃からの保護者との連携
- ・学校評価では、「学校生活が楽しい」90%、「思いやりの心」95%の結果
- ・いじめ件数(4件)、不登校生徒(29人)

2. 令和6年度の取組

(1) 生徒数確保

① 生徒募集に関する取組

- ・高知小学校での保護者説明会を実施(2回)
- ・高知市内及び近郊の小学校への学校案内・生徒募集要項等の配布を行った。
- ・6月に小学生を対象としたオープンスクールを開催した。(103人)
- ・小学生、中学生を対象とした地区別(安芸、南国、土佐、四万十)学校説明会を開催した。(参加者11人)
- ・10月に小学生を対象とした入試説明会を本校において開催した。(参加者38人)
- ・2月には、Ⅱ期中学入試の説明会を開催した。(参加者8人)
- ・学校行事や生徒の様子などを学校ホームページやSNSで配信した。(face book, X, Instagram, YouTube, Tik Tok)
- ・部活動においては、入試説明会時に、また、別途に体験活動を実施した。
- ・私学フェア(7月30日、イオンモール10:00~21:00)に参加し、学校情報や生徒募集に関する情報の発信に努めた。(245人)

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・生徒理解に関する研修会の開催(4月24日)及び研修会への参加(6月10日)
- ・進路に関する校内研修会の開催(5月11日)
- ・コンプライアンスに関する研修会の開催(6月7日)
- ・人権研修の開催(6月20日)
- ・熱中症予防対策研修の開催(7月2日)
- ・ICT活用研修会への参加(10月2日~4日)
- ・四国私学研究集会香川大会に参加(10月24~25日)

(3) 学習指導・進路指導の充実

- ・一人1台のタブレットを活用したICT教育の推進
- ・夏季特別講座(10日間)及び補習
- ・職業人に学ぶキャリア講演会
- ・税に関する講演会

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

- ・「至誠」の精神を喚起するための至誠賞の授与、自主、自律の精神や学校生活3原則の実践、規範意識の醸成
- ・至誠プログラムに基づく礼法学習の実施
- ・Q-U(学級満足度調査)の分析と取組
- ・中学生のサポート室(午前中:職員一人が対応→自主学習や課題学習)対応
- ・生徒指導上課題のある生徒への対応(ケース会の開催、関係機関との連携)
- ・人権講演会の開催(命の授業)
- ・スクールアドバイザー、心のアドバイザーとの効果的な連携

1. 現状と課題

（1）生徒数確保

①生徒数の推移

高校生の確保については、令和2年度から増加傾向にあったが令和5年度から減少傾向にあり、少子化に伴う志願者数の減少、高校入学後の欠席生徒や学力不足の生徒への対応が課題となる。（令和6年度の高校転・退学数は12人）

②高知中学校から高知高校への進学

令和5年度入学者から100人を下回り徐々に減少している。特に、令和7年度入学生については、内進者が84人となり課題が残った。中高一貫教育の魅力化を一層啓発すること、高等学校の「特色と魅力」を早い段階で発信する必要がある。

（2）教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・時代に即した教育内容に見合う教員の資質、指導力の向上→各種の研修会への参加
- ・生徒の倫理的思考力を鍛えるためのプログラム開発→探究学習や小論文指導の充実

（3）学習指導・進路指導の充実

- ・進学率は90.1%となり、昨年度を上回った（89.7%）
- ・きめ細かな進路指導と進学の充実→国公立大学進学者19人（前年度17人）
- ・医療・健康系の進路に関心ある生徒の育成→法人内大学進学32人（前年度29人）
- ・英検は、2級（3人/33人）、準2級（15人/49人）、3級（4人/11人）が取得
- ・漢検は、2級（1人/16人）、準2級（3人/16人）、3級（0人/1人）が取得
- ・学校評価では、「分かりやすい授業」61%の結果
- ・中学校特進コースと高校特進コースとの連携強化が課題

（4）生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

- ・「至誠」の精神の喚起、自主、自立の精神の涵養、規範意識等の醸成
- ・生徒の尊厳、個性に沿った生徒指導
- ・学校評価では、「学校生活が楽しい」87%、「思いやりの心」95%の結果
- ・いじめ（2件）、不登校（5人）対策

2. 令和6年度の取組

(1) 生徒数確保

① 生徒募集に関する取組

- ・高知市内及び近郊の中学校への学校案内・生徒募集要項等の配布を行った。
- ・公立中学校に出向き、高知高校の魅力を伝えた。
- ・6月に小学生を対象としたオープンスクールを開催した。(103人)
- ・小学生、中学生を対象とした地区別(安芸、南国、土佐、四万十)学校説明会を開催した。(参加者11人)
- ・8月に3日間、高校説明会を開催した。(参加者42人)
- ・9月、10月、12月に中学生を対象とした入試説明会を本校において開催した。(参加者69人)
- ・11月に公立中学校進路指導担当者説明会を開催した。(参加申込11校)
- ・学校行事や生徒の様子などを学校ホームページやSNSで配信した。(face book, X, Instagram, YouTube, Tik Tok)
- ・部活動においては、入試説明会時に、また、別途に体験活動を実施した。
- ・私学フェア(7月30日、イオンモール10:00~21:00)に参加し、学校情報や生徒募集に関する情報の発信に努めた。(245人)

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善

- ・生徒理解に関する研修会の開催(4月24日、10月11日)
- ・進路に関する校内研修会の開催(5月11日、8月16日、9月12日)
- ・コンプライアンスに関する研修会の開催(6月7日)
- ・熱中症予防対策研修の開催(7月2日)
- ・人権研修会への参加(8月23日、11月14日)
- ・ICT活用研修会への参加(10月2日~4日)
- ・四国地区私学研究集会愛媛大会に参加(10月24日~25日)

(3) 学習指導・進路指導の充実

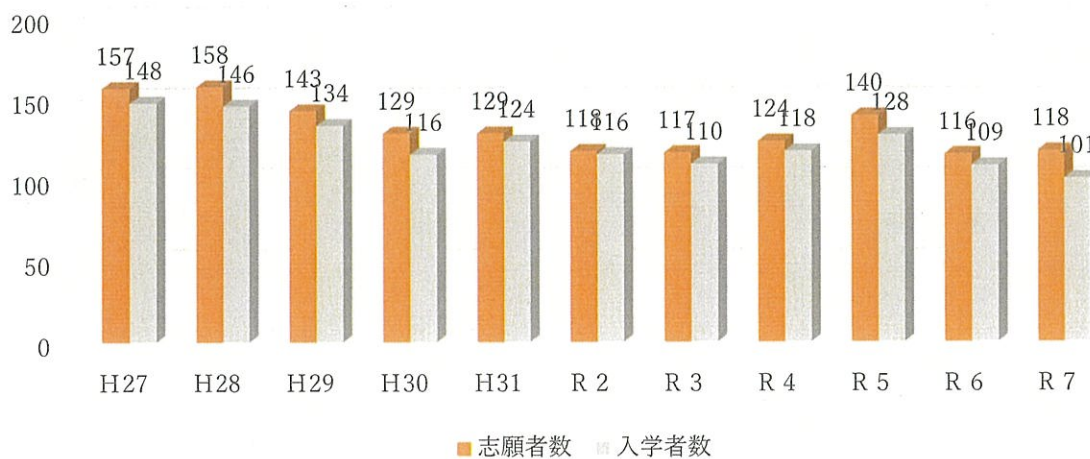
- ・ICT教育の推進(高1、2年生全員がパソコン活用学習)
- ・大学進学講座、大学進学特別講座、小論文指導、面接指導、勉強合宿、県外大手予備校講座になどに参加
- ・高校生の四国キャリアデザイン研修会(第5回 SB Student Ambassador 四国大会)に参加

(4) 生徒一人一人の心をたがやす生徒指導

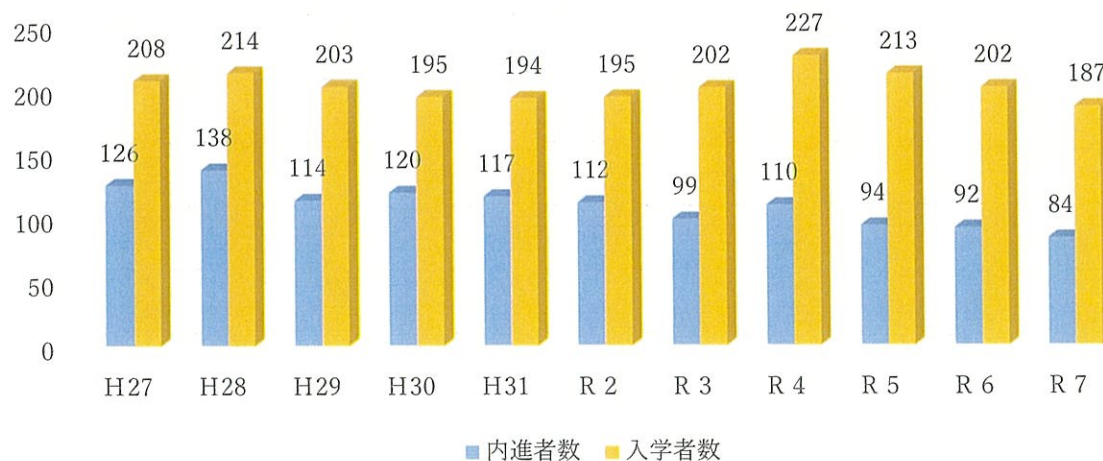
- ・「至誠」の精神を喚起するための至誠賞の授与、自主、自律の精神や学校生活3原則の実践、規範意識の醸成
- ・Q-U(学級満足度調査)の分析と取組
- ・中学時に不登校傾向であった高校生への対応(声掛け、居場所づくり、人間関係の構築)
- ・生徒指導上課題のある生徒への対応(ケース会の開催、関係機関との連携)
- ・SC(スクールカウンセラー)との教育相談内容を記録化し、養護教諭、生徒保健部長、管理職で共有
- ・スクールアドバイザー、心のアドバイザーとの効果的な連携

参考資料

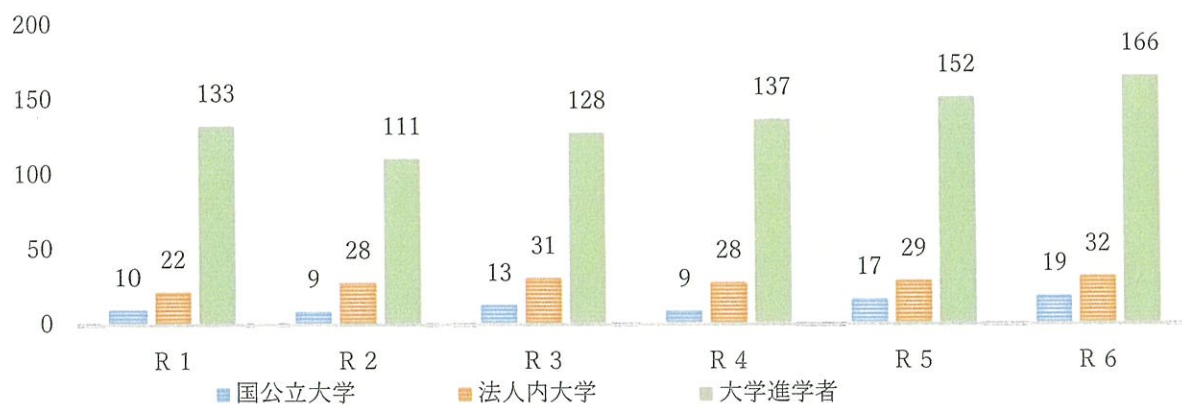
中学入学者推移



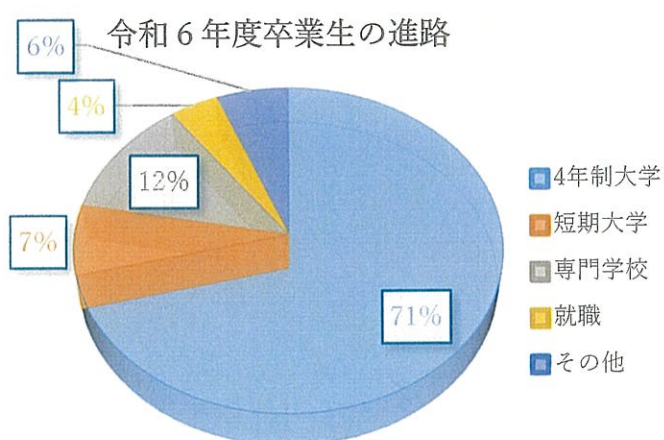
高校入学者数推移



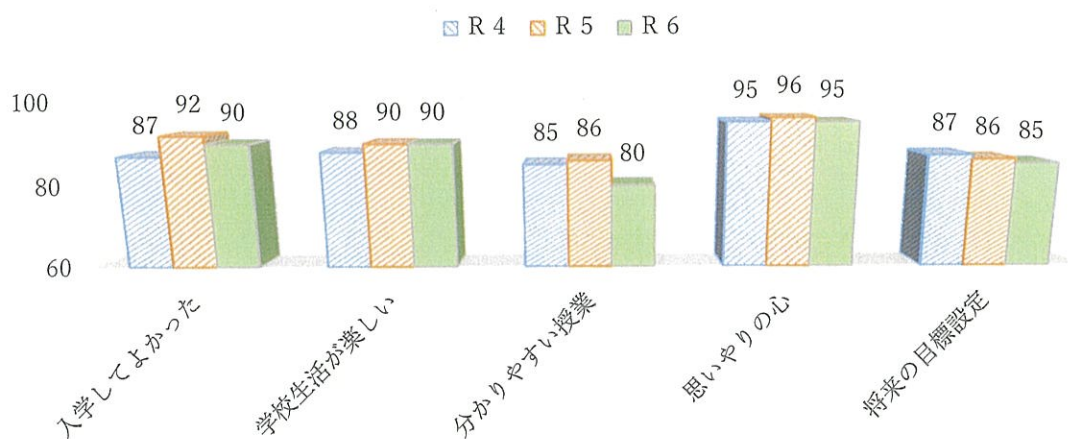
大学進学状況



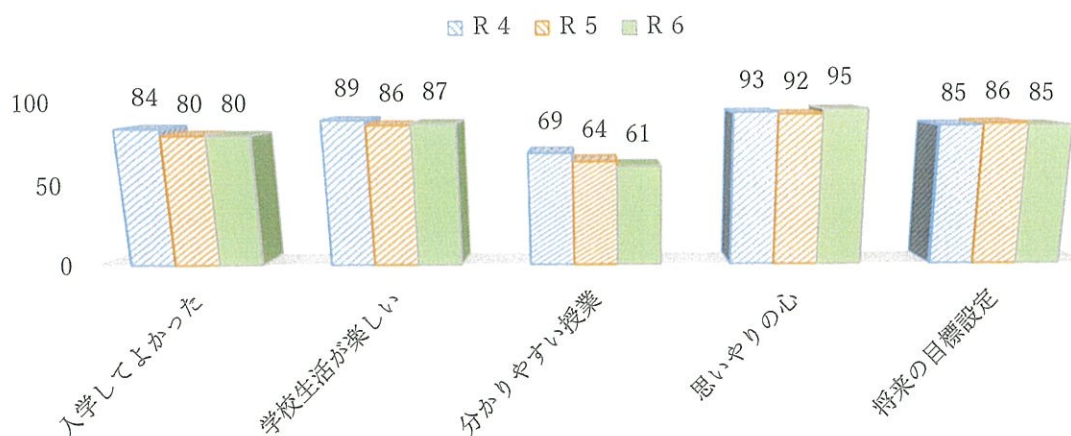
参考資料



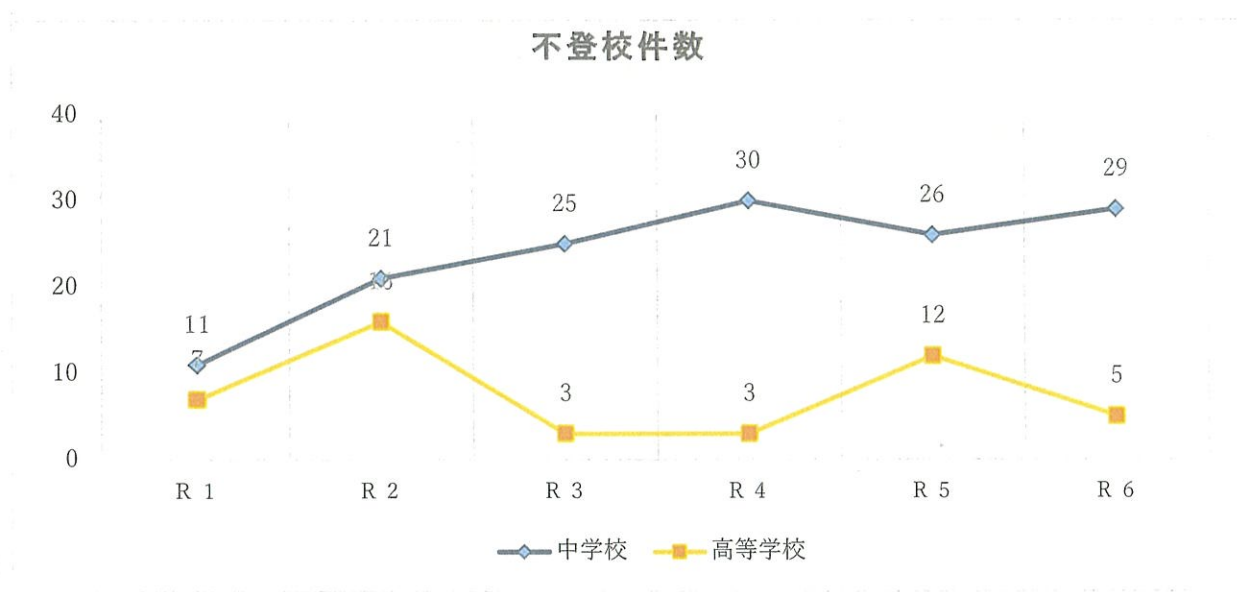
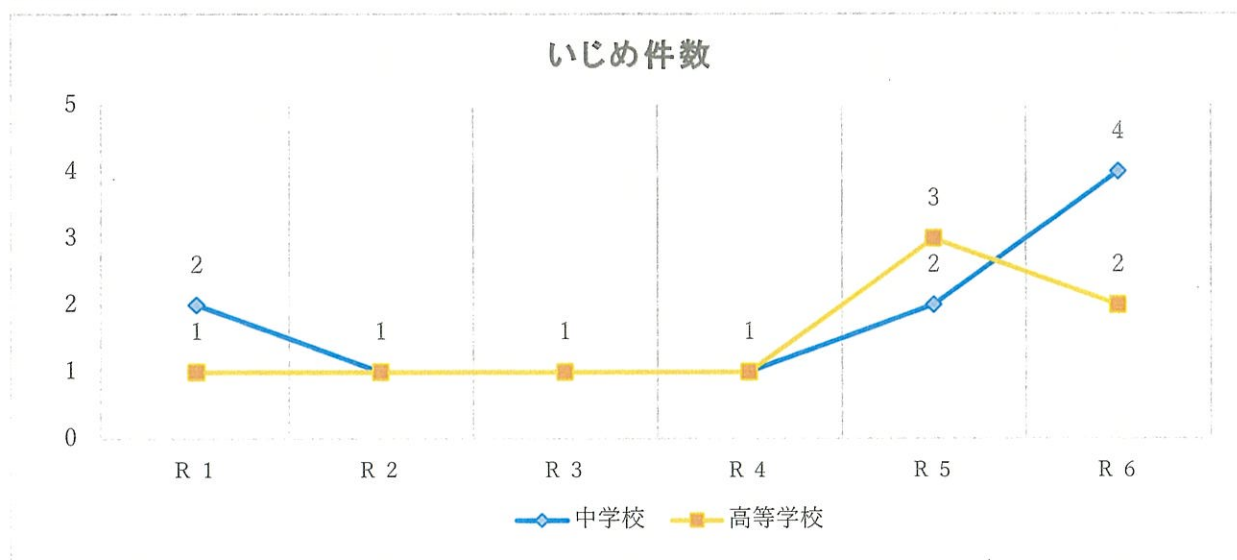
中学校 学校評価(単位: %)



高等学校 学校評価(単位: %)



参考資料



1. 現状と課題

○開学以来、定員未充足の状態が続いており、入学者数、在籍者数の推移は下記のとおりとなっている。

○そのため、財政状況において、経常収支は開学以来赤字となっており、資金収支においても赤字が続いている状況である。

◎単年度収支の改善による財政基盤の確立が急務となっている。

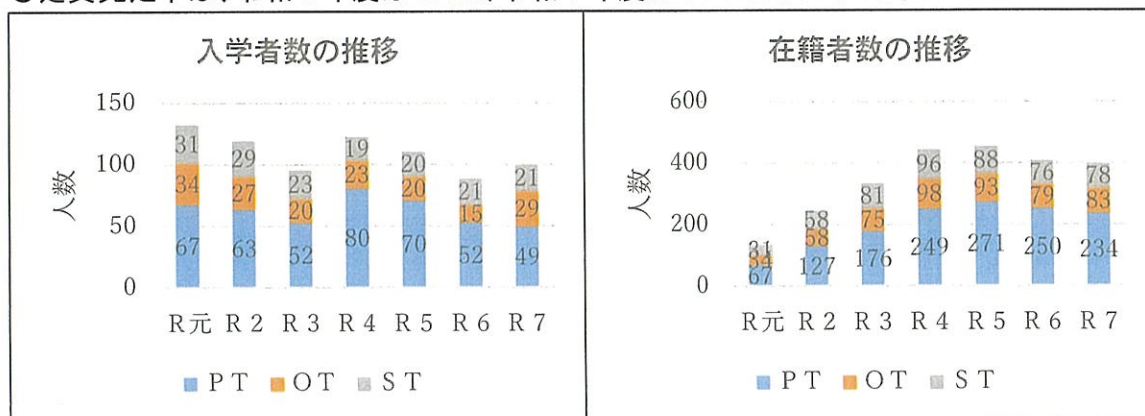
(1) 学生募集

【現 状】

○入学者数は開学以来定員未充足の状態が続いており、令和6年度は88人、令和7年度は99人と100人に届いていない状況である。

○そのため、学生数は減少傾向であり、令和6年度は405人、令和7年度は395人。

○定員充足率は、令和6年度は67.5%、令和7年度は65.8%となっている。



【課 題】

○受験者数を増やすための方策の検討

- ・受験者に選ばれる魅力のある大学
- ・オープンキャンパス参加者数の増加
- ・県外受験者数の増加

(2) 教育研究

【現 状】

○退学率、休学率が増加している。

○国家試験合格率(R4⇒R5⇒R6)

PT: 100%⇒90.6%⇒89.1%

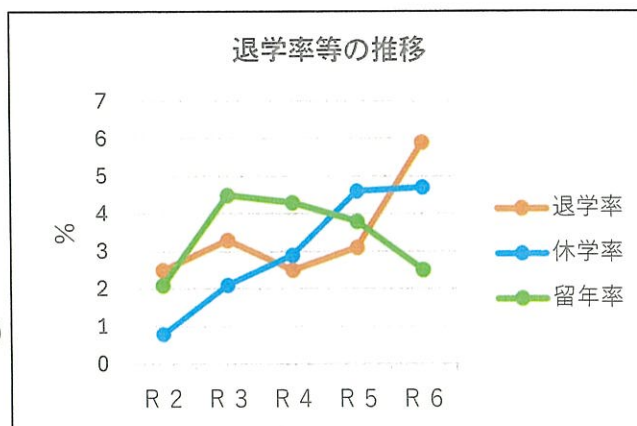
OT: 95.8%⇒79.3%⇒100%

ST: 95.2%⇒88.5%⇒94.4%

○研究実績

科学研究費助成金: 採択2件(R7)

生命の基金: 3件(R7)



【課 題】

○学修支援体制の更なる充実

○国家試験合格率の向上

○研究活動の促進

2. 令和6年度の取組

(1) 学生募集

○入試広報委員会において年間計画を検討・策定し、計画的な募集活動に取り組んだ。オープンキャンパスの開催や学校訪問活動、資料送付などの取組に加えて、SNSを積極的に活用し、情報発信に努めた。

① オープンキャンパス7回開催(延べ参加者数 333 名(高校生のみ))

・HP、SNS の活用など広報強化による参加者増への取組みや、各専攻による体験プログラムの実施、キッチンカーの活用など魅力のあるオープンキャンパスの開催に取り組んだ。

② 学校訪問、学校見学会等の実施。

・県内2名体制での高校訪問活動を実施し、管理職及び進路室に対し、延べ 478 回 44 校を訪問。
・大学見学として、県内中学校・高等学校が来学。施設見学と体験授業を実施(9校延べ 11 回)。
・県内高等学校の校長研修会プログラムとして本学の見学を組入れ、大学説明及び施設見学を実施。
・本学の学生が母校を訪問し、本学のPRや大学生活の魅力を紹介する「goto母校」を継続して実施。

③ 広報活動の強化

・専門業者とのアドバイザー契約によりHP、SNS を活用した広報活動を強化。新たな SNS 戦略による広報強化に取り組んだ。
・進学情報誌を活用したPR、駅構内の電照広告など効果的な広報を継続実施。

④ 大学説明会等の実施

・本学主催で県内高校の進路指導を対象に大学説明会を3回開催。(延べ 28 校 30 名参加)
・業者及び高校主催の進路相談会に県内 40 会場、県外 30 会場、オンライン相談会に2回参加。
・令和5年度に引き続き、関西会場のガイダンス参加や東京会場への参加など、都市部エリアでの実施。

⑤ 学生支援制度の継続実施及び広報の強化

・学生支援奨学金制度(家賃補助:月額2万円)
・土佐市就学奨励費(5千円/月)
・奨学生制度(学納金の返還制度)

(2) 教育研究

○学修支援体制の更なる充実

・入学時より「学修ポートフォリオ」を導入し、学生個々の学修指導を実施。
・単位修得状況が芳しくない学生を対象とした「学習サポート制度」により、定期的に指導を行うなどの学修支援を実施。

○国家試験合格率の向上

・リハビリルを活用し過去問学修の指導を徹底、統一模擬試験の実施。
・成績下位者に対する学修支援教員によるサポートの実施。
・図書館の休日開館や開館時間の延長など、学修環境の整備。

○研究活動の促進

・科学研究費助成事業説明会を開催(2回 53 名参加))、研究倫理に関する研修会の実施。

(3) その他

① 進路選択・キャリア形成

・年度当初からマナー講習・面接対策や履歴書セミナーを実施、教職員によるフォローアップの実施。
・就職相談室(キャリアセンター)による個別相談を実施。

② 地域貢献

・公開講座や出前講座等による地域住民の健康寿命の延伸・健康増進への取組。
・3つのサポートセンター(スポーツ、ジョブ、コミュニケーション)による活動の充実・強化。

③ 国際化への取組

・ハワイ大学等での研修を実施、また姉妹校締結に向けた取組。
・中国、タイ、ベトナム、オーストラリア等海外大学との連携に向けた取組。

④ 経営改善への取組

・非常勤講師の削減や実習にかかる経費の見直しなどによるコスト削減を行った。

3. 令和6年度の取組結果

(1) 学生募集

・入試区分別、専攻別、受験者数、合格者数

	受験者数			合格者数			入学者数		
		うち総合型	うち指定校		うち総合型	うち指定校		うち総合型	うち指定校
PT	52	11	32	51	11	32	49	11	32
OT	32	9	16	32	9	16	29	9	16
ST	21	7	10	21	7	10	21	7	10
合計	105	27	58	104	27	58	99	27	58

(2) 教育研究

① 学修支援

・退学者数、休学者数、留年者数等

	在籍者数	退学者数※	休学者数	留年者数	退学率	休学率	留年率
PT	250	18	14	5	7.2%	5.6%	2.0%
OT	79	5	2	1	6.3%	2.5%	1.3%
ST	76	1	3	4	1.3%	3.9%	5.3%
合計	405	24	19	10	5.9%	4.7%	2.5%

※除籍者を含む

② 国家試験対策

・合格率、全国との比較、

	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
PT	46	41	89.1%	89.6%
OT	20	20	100.0%	85.8%
ST	18	17	94.4%	72.9%

③ 研究

- ・「科学研究費助成事業」申請件数は11件、うち2件が採択となった。
- ・「生命の基金」では、3件が採択された。

(3) その他

① 進路選択・キャリア形成

・就職率、県内、県外、業種別(病院、施設など)

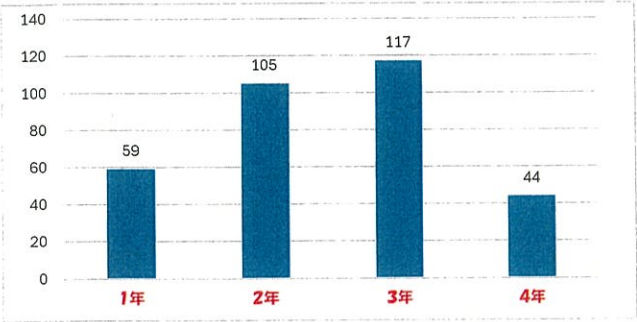
	就職率	就職実績(人)					業種別			
			県内		県外		医療機関	一般企業	行政職	その他
PT	100%	42	19	45.2%	23	54.8%	41	0	0	1
OT	100%	20	8	40.0%	12	60.0%	20	0	0	0
ST	100%	17	8	47.1%	9	52.9%	17	0	0	0
合計	100%	79	35	44.3%	44	55.7%	78	0	0	1

② 経営改善への取組

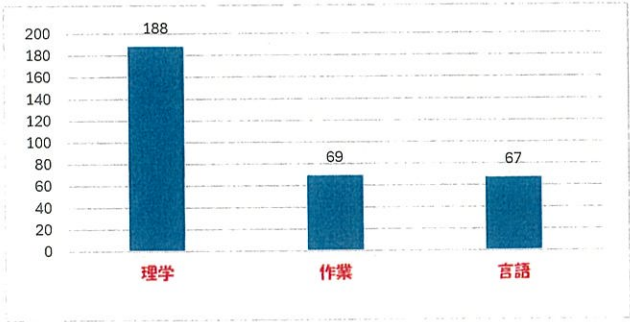
・非常勤講師の削減(R6:97人⇒R7:68人)

R6年度 在学生アンケート

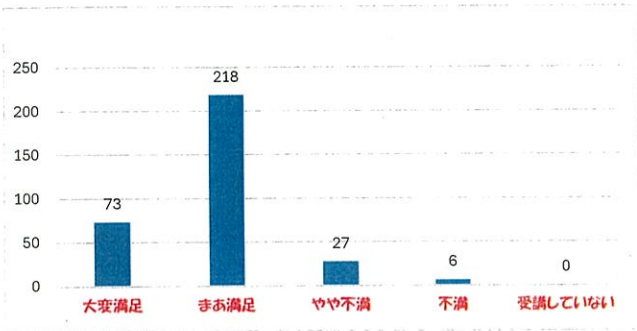
1. あなたの学年を教えてください。



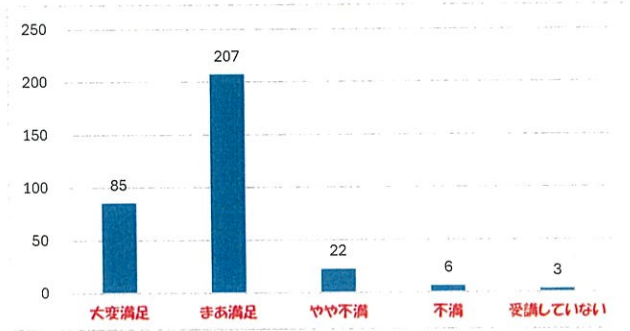
2. あなたの専攻はどちらですか。



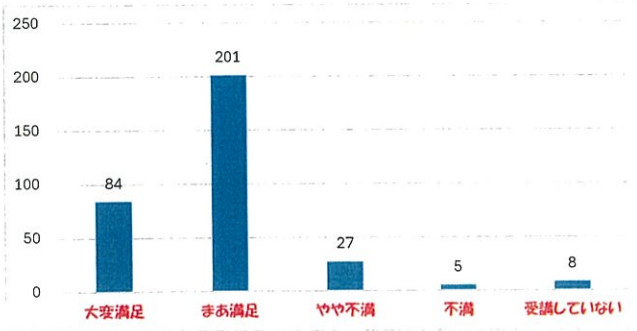
3. あなたは、本学で基礎科目の授業についてどのくらい満足していますか。



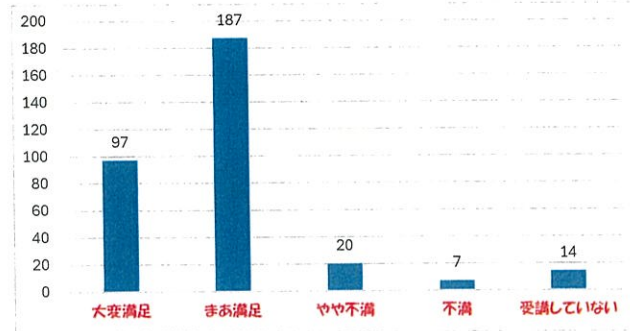
4. あなたは、本学での専門支持科目(基礎医学・臨床医学等)の授業について、どのくらい満足していますか。



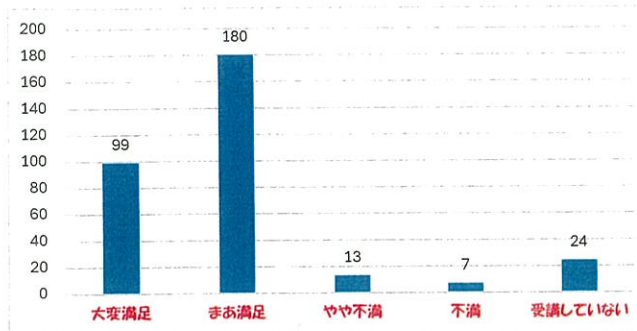
5. あなたは、本学での専門基礎科目(臨床実習以外の各専攻評価・治療学)の授業について、どのくらい満足していますか。



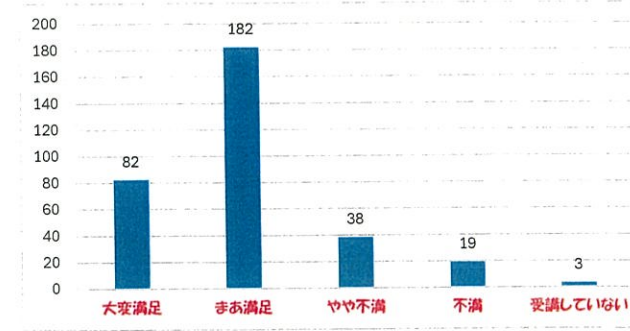
6. あなたは、本学の学内での実習科目(臨床実習以外)の授業における実習室の使用状況について、どのくらい満足していますか。



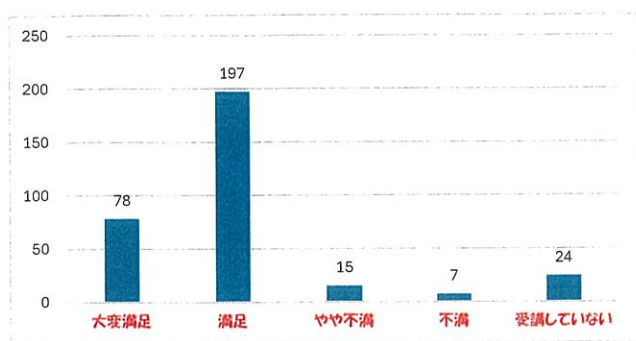
7. あなたは、本学以外の場所で行う臨床実習の授業について、どのくらい満足していますか。



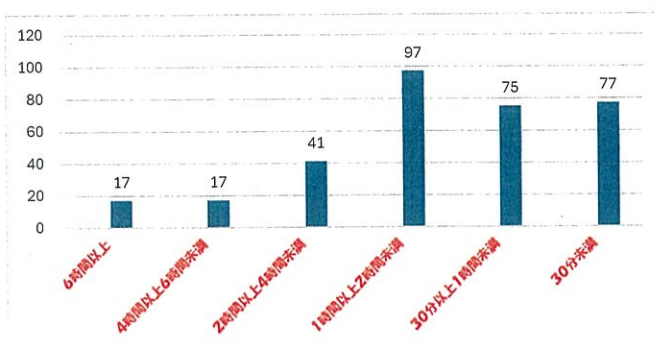
8. あなたは本学での展開科目の授業について、どのくらい満足していますか。



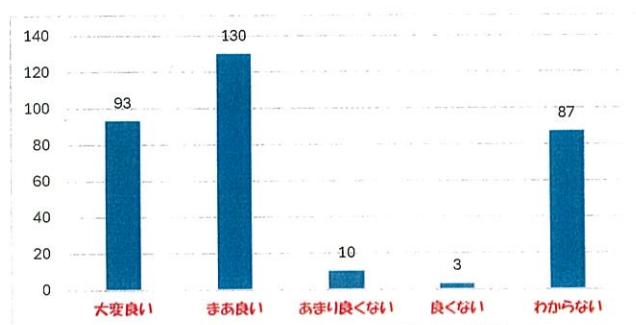
9. あなたは、本学での総合科目(地域支援実習・総合演習等)の授業について、どのくらい満足していますか。



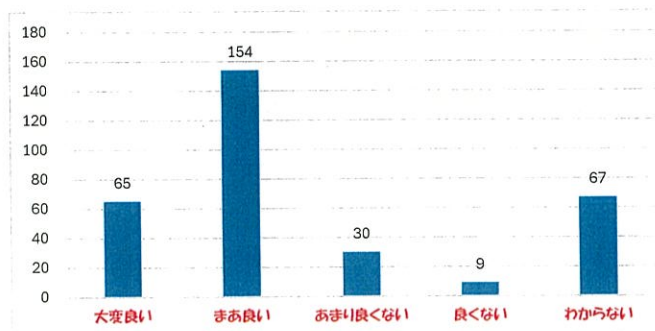
10. あなたは、授業以外の学習時間として、1週間の平均どのくらいの時間を使いますか。



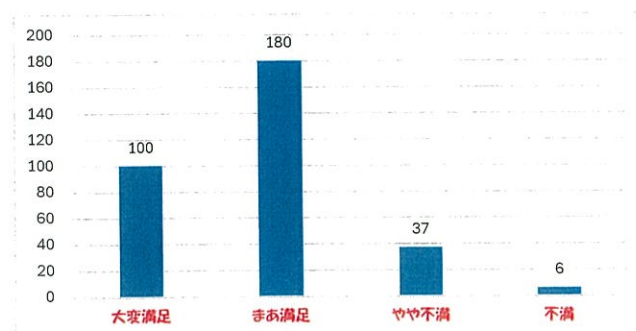
11. 本学における学習支援体制についてお聞きします。成績不振となっている学生に対する「学習サポート」について、どのように評価しますか。



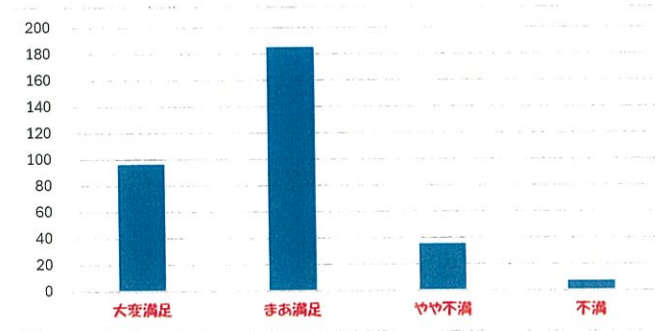
12. 学生自身が学習内容の振り返りと自己評価を行う「学習ポートフォリオ」を活用した指導について、どのように評価しますか。



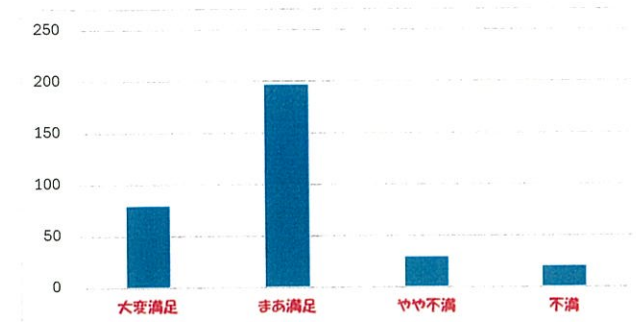
13. あなたは、本学の教室や実習室の設備について、どのくらい満足していますか。



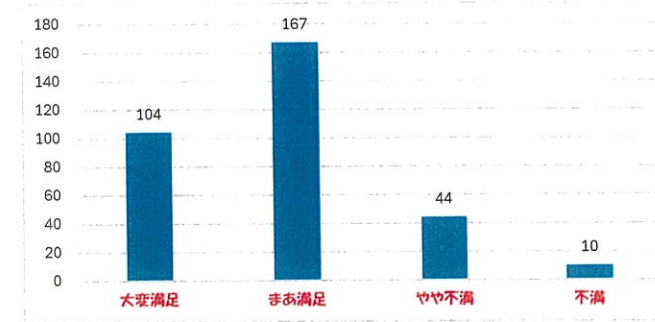
14. あなたは、本学の自習室について、どのくらい満足していますか。



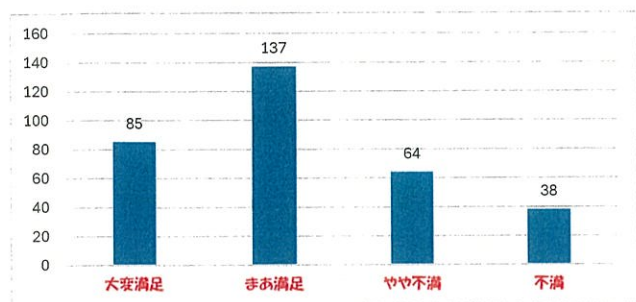
15. あなたは、本学の海外との交流(グローバルな取り組み)について、どのくらい満足していますか。



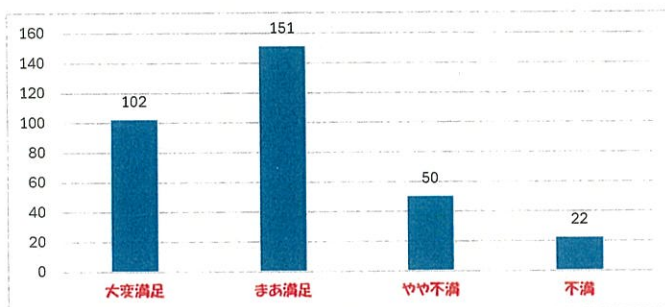
16. あなたは、本学のインターネット設備について、どのくらい満足していますか。



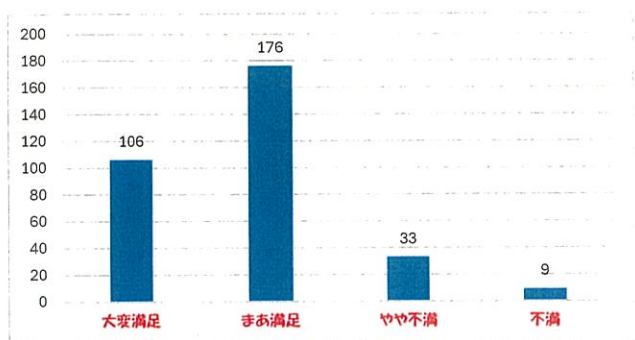
17. あなたは、本学の食堂について、どのくらい満足していますか。



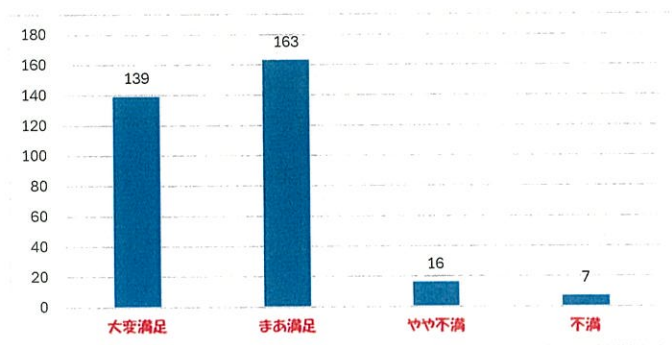
18. あなたは、本学の自動販売機設置について、どのくらい満足していますか。



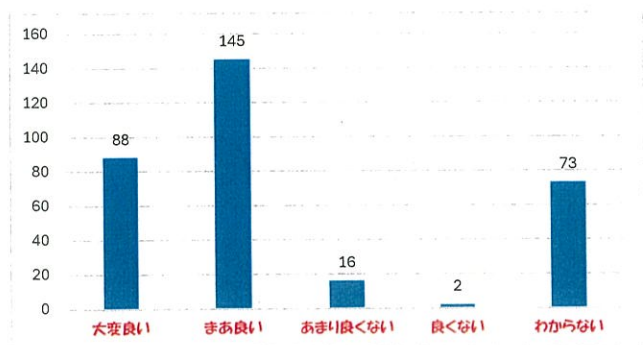
19. あなたは、本学のトイレや更衣室について、どのくらい満足していますか。



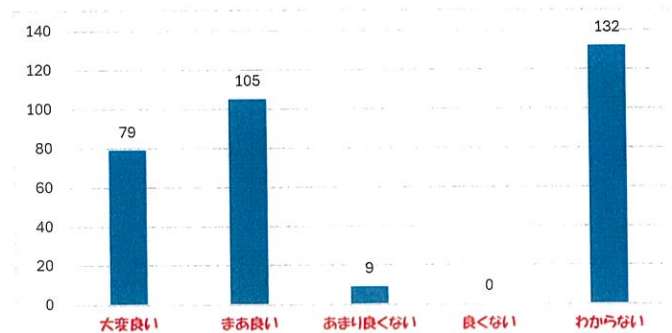
20. あなたは、本学の駐車場や駐輪場について、どのくらい満足していますか。



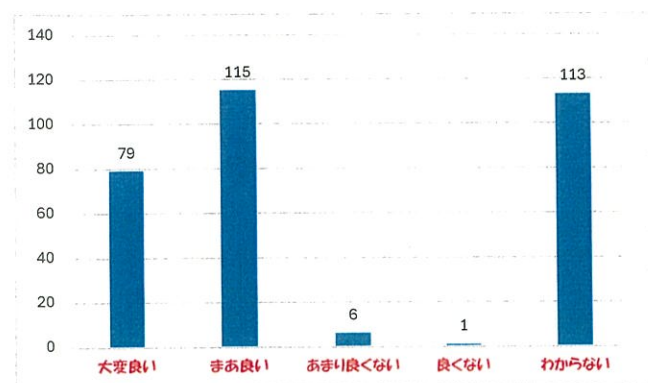
21. 本学における学生支援の体制についてお聞きます。学生相談窓口(事務局、メール相談、投書箱)について、どのように評価しますか。



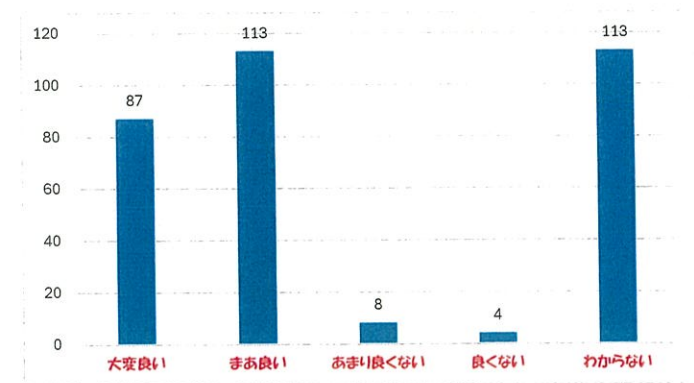
22. カウンセリング室について、どのように評価しますか。



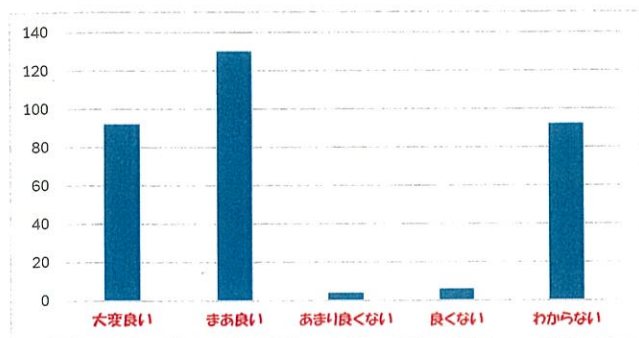
23. 保健室について、どのように評価しますか。



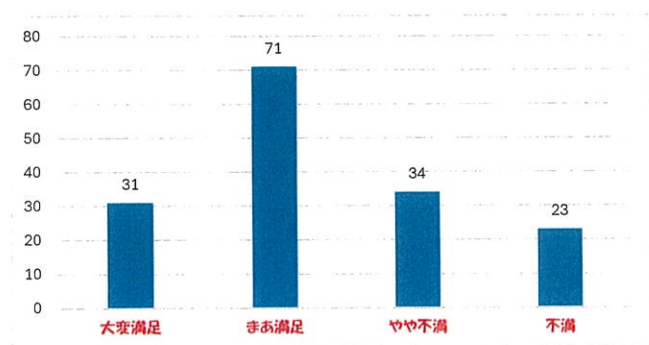
24. ハラスメントに関する相談・支援について、どのように評価しますか。



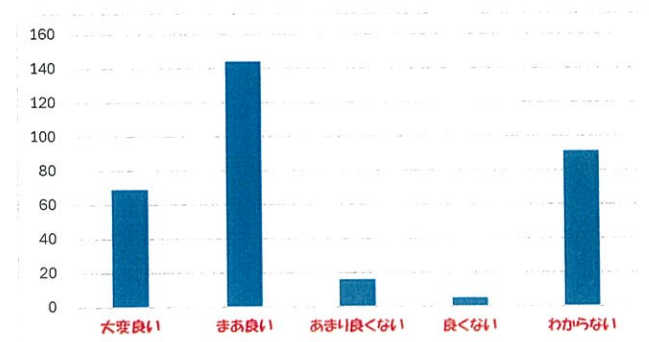
25. 学生への合理的配慮(学生個別対応)に関する相談・支援について、どのように評価しますか。



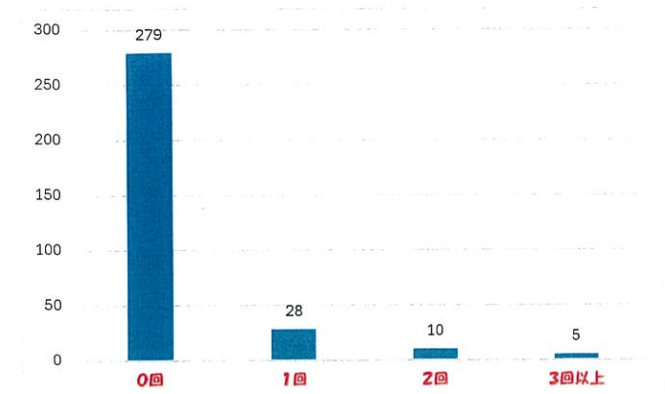
27. 上記26にて1または、2を選んだ方にお聞きます。あなたは、スクールバスの運行に(便数・時間)にどのくらい満足していますか。



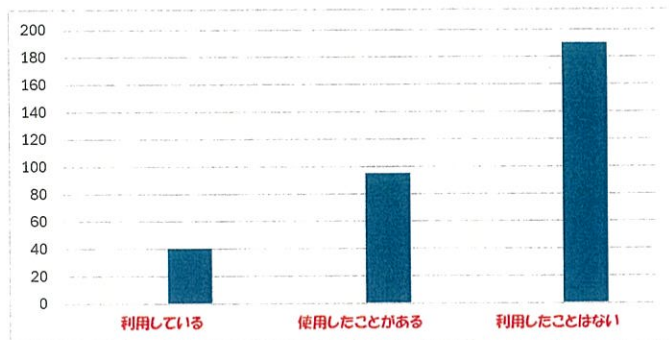
29. 本学の奨学金制度について、どのように評価しますか。



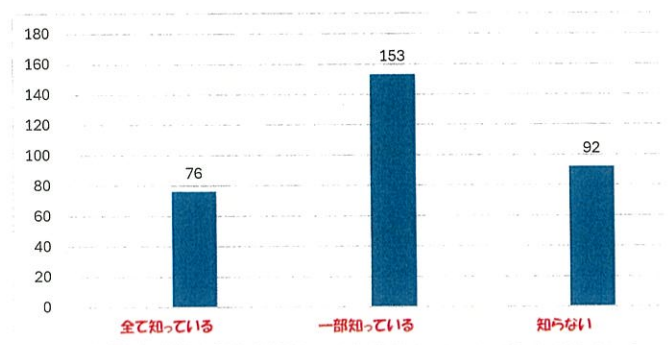
31. あなたは、このイベントに参加しましたか。



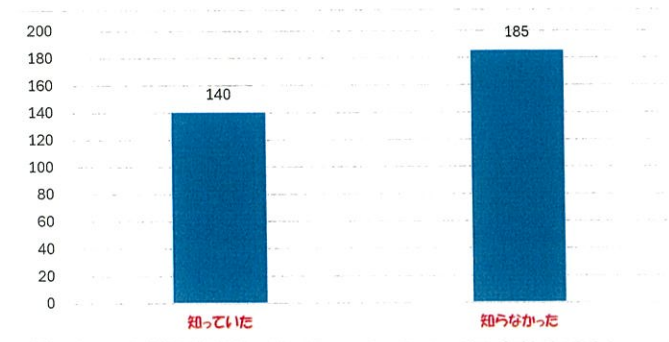
26. 本学のスクールバスについてお聞きます。あなたはスクールバスを利用していますか。



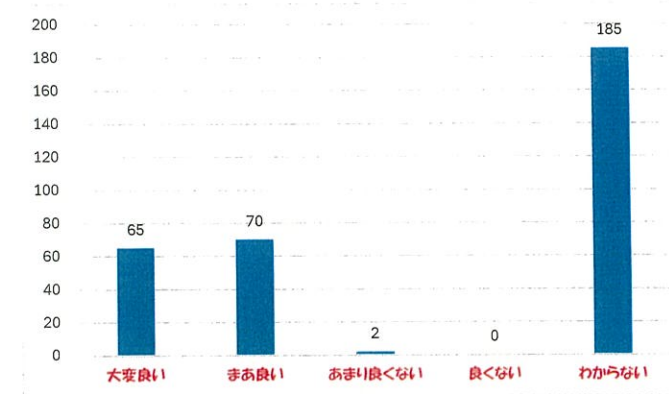
28. 本学独自の奨学金制度「土佐市修学奨励費、学生支援奨学金、本学奨学生制度(成績優秀者)」についてお聞きます。あなたは、上記の3つの奨学金について知っていますか。



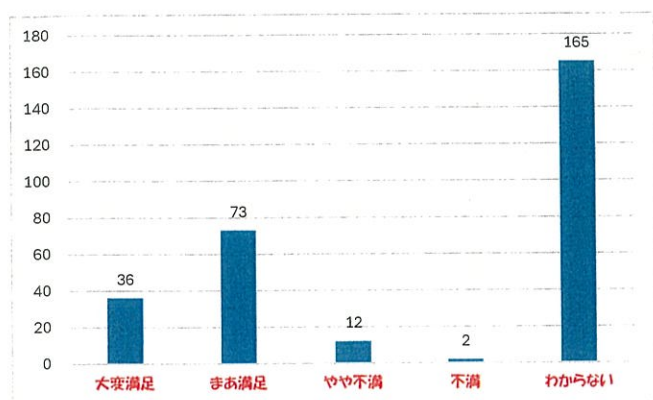
30. 本年度4回にわたり開催した「学生イベント」についてお聞きます。あなたは、このイベントについて知っていましたか。



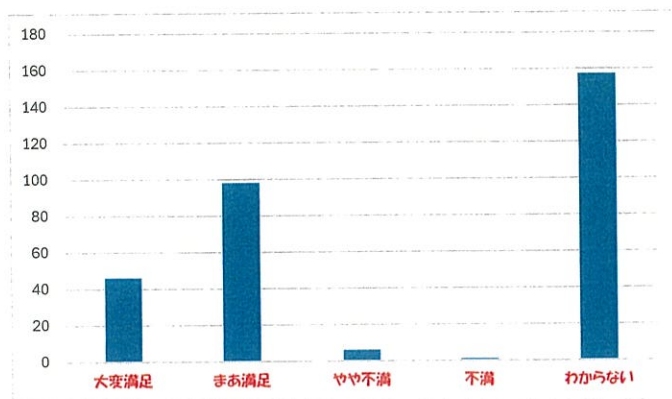
32. このイベントについて、どのように評価しますか。



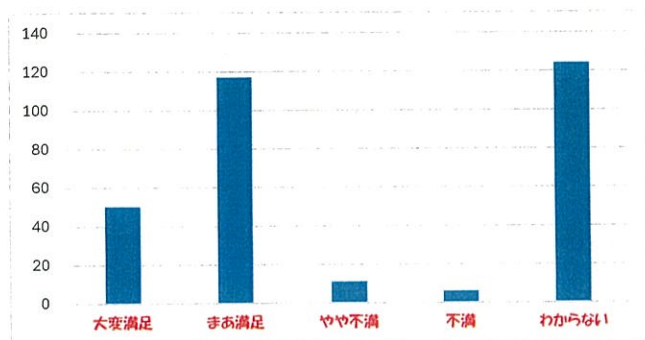
33. 本学のキャリア支援(就職・進学支援)について、1年生～3年生にお聞きします。就職合同説明会について、どのくらい満足していますか。



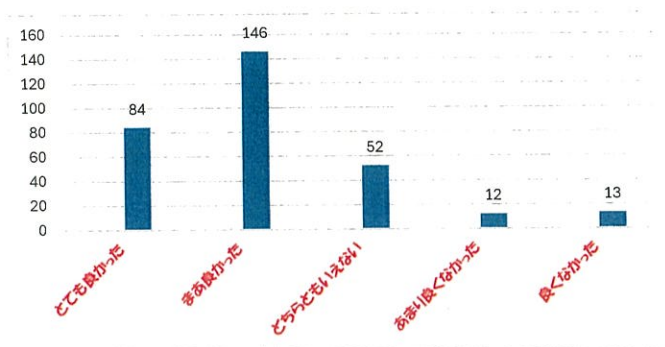
34. キャリアガイダンスについて、どのくらい満足していますか。



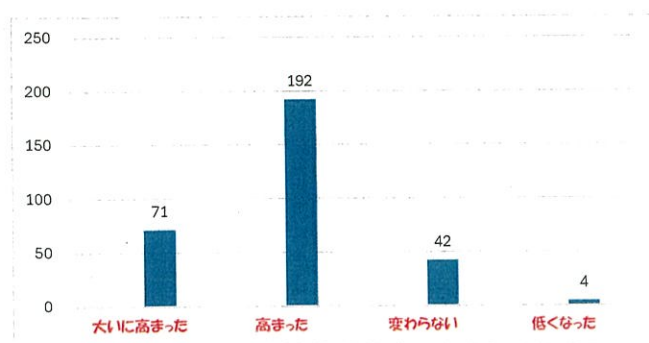
35. マナー講習(履歴書・面接マナー)について、どのくらい満足していますか。



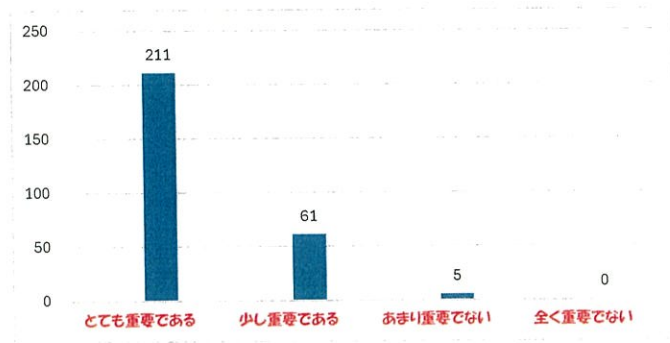
36. あなたは、本学に入学して良かったと思いますか。



37. 入学時に比べて、あなたのセラピストとしての能力(専門知識・技術の活用能力・コミュニケーション能力・生命の尊厳と人格を尊重した実践力・問題発見・解決力・自律的で意欲的な態度)は、どのように変化しましたか。

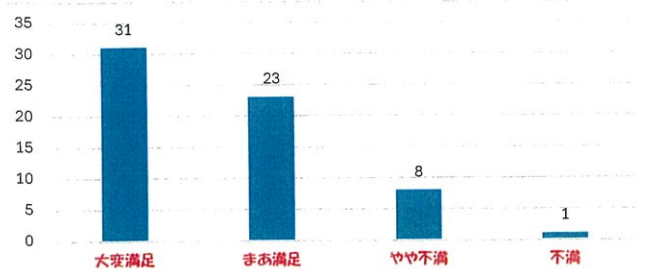


38. あなたは、本学でセラピストとしての能力(専門知識・技術の活用能力・コミュニケーション能力・生命の尊厳と人格を尊重した実践力・問題発見・解決力・自律的で意欲的な態度)を身につけることが、どのくらい重要だと思っていますか。

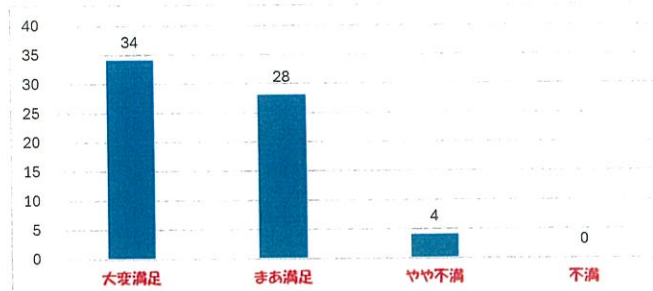


39. ここからの質問は4年生に対してお聞きします。

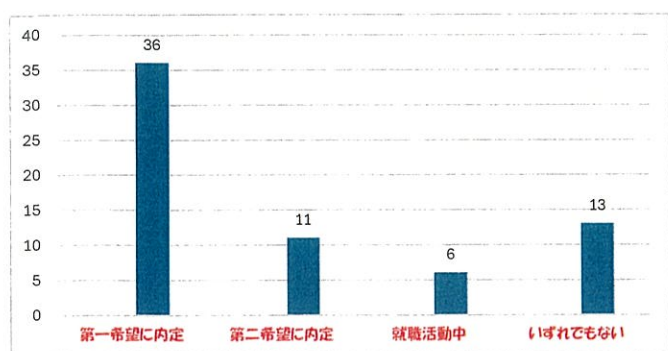
あなたは、本学の国家試験対策の教員による学修指導について、どのくらい満足していますか。



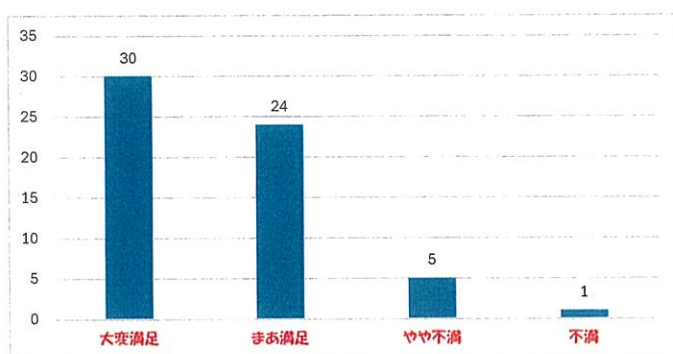
40. あなたは、本学の国家試験対策時の図書館や教室等の開放状況について、どのくらい満足していますか。



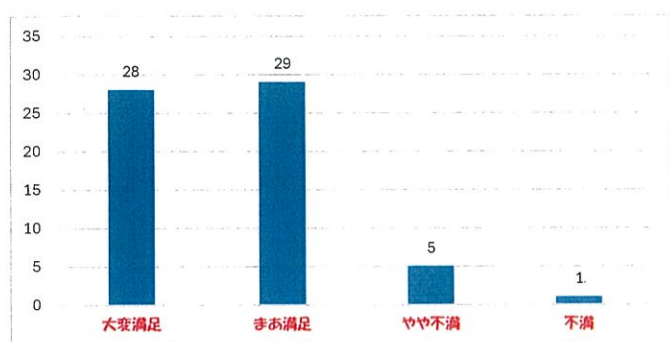
41. 本学の就職支援についてお聞きます。
あなたの就職活動状況について教えてください。



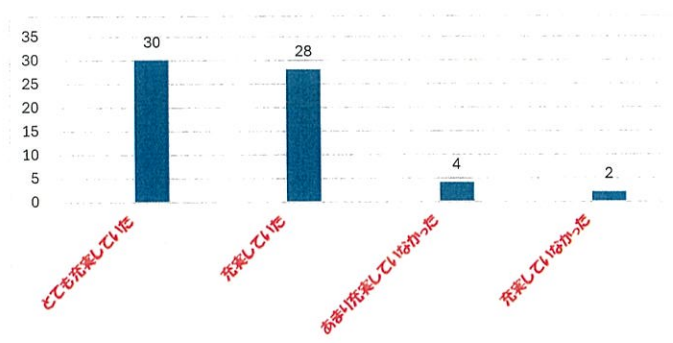
42. 卒業後の進路が決まっている方にお聞きます。
進路先についてどのくらい満足していますか。



43. 4年次の就職・進学支援体制についてどのくらい満足していますか。



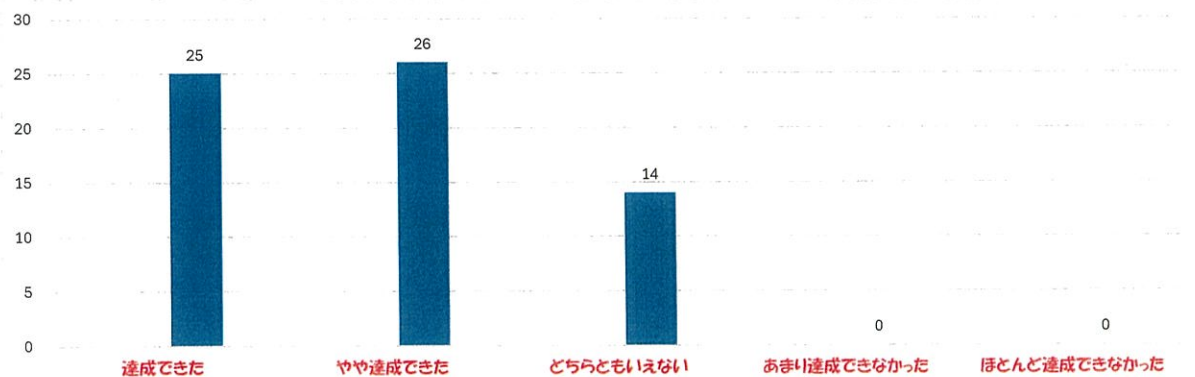
44. 総合的にみて、あなたの本学での学生生活は充実していましたか。



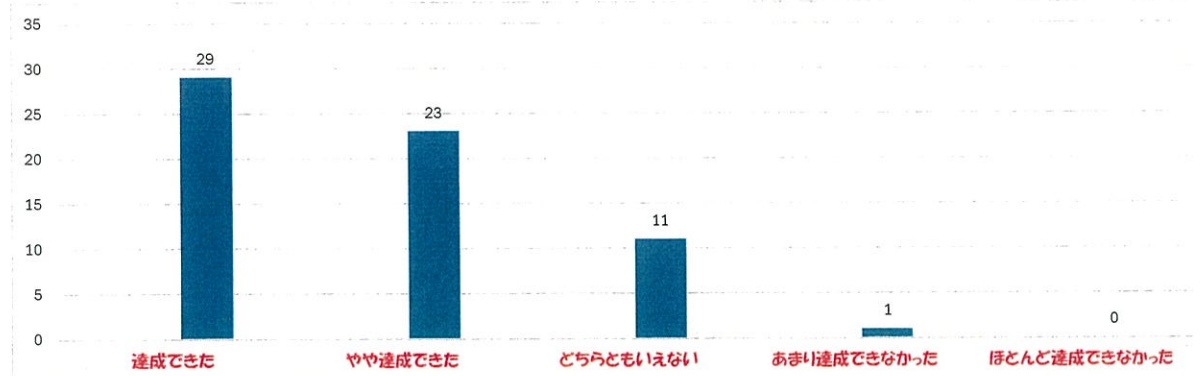
45. 本学のディプロマポリシーについてお聞きます。

あなたは、本学の5つの「卒業認定・学位授与の方針＝ディプロマポリシー」について、それぞれどのくらい達成出来たと思いますか。

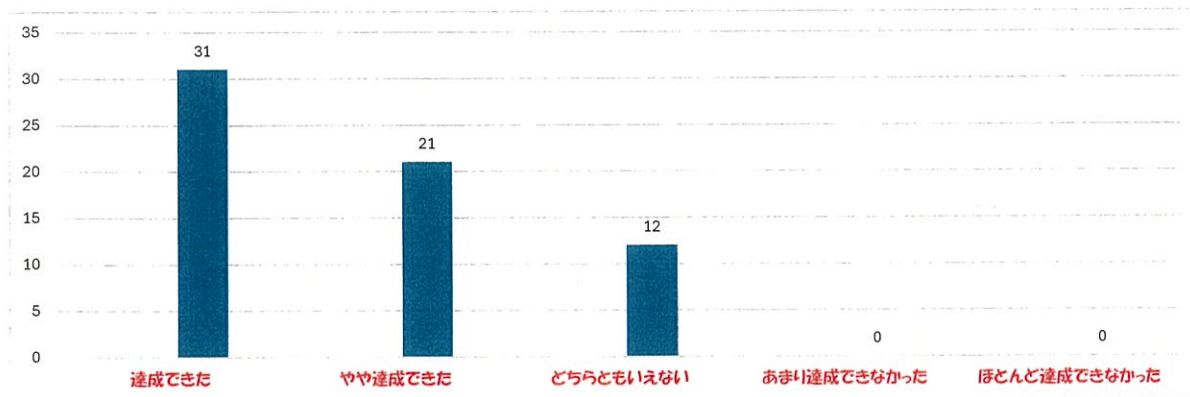
①専門知識・技術の活用力: 専門職として必要とされる教養、専門的な知識や理論、技術態度を習得し、状況に応じて総合的に活用できる。



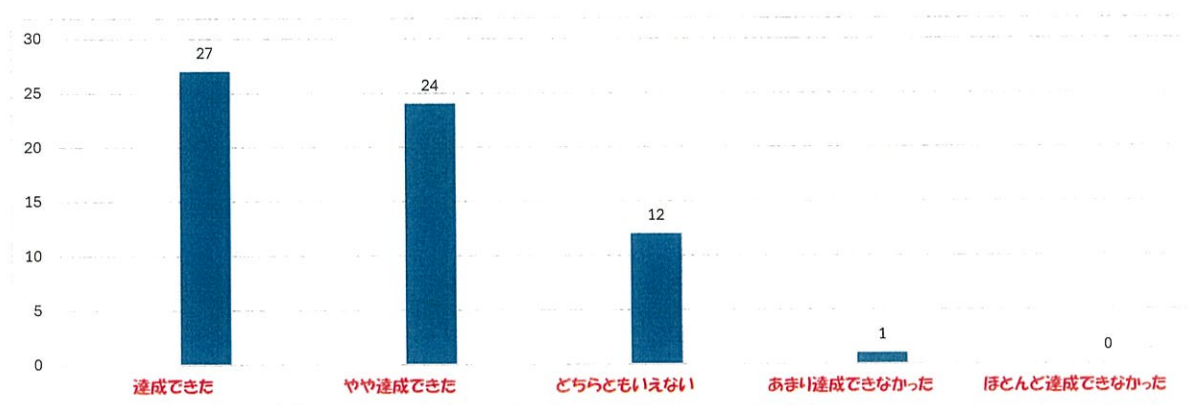
46. ②コミュニケーション能力: 対象者と円滑なコミュニケーションをとることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築できる。また、社会及び地域のニーズに対応できる柔軟な協調性を身につけ、多職種との連携・協働を行うことができる。



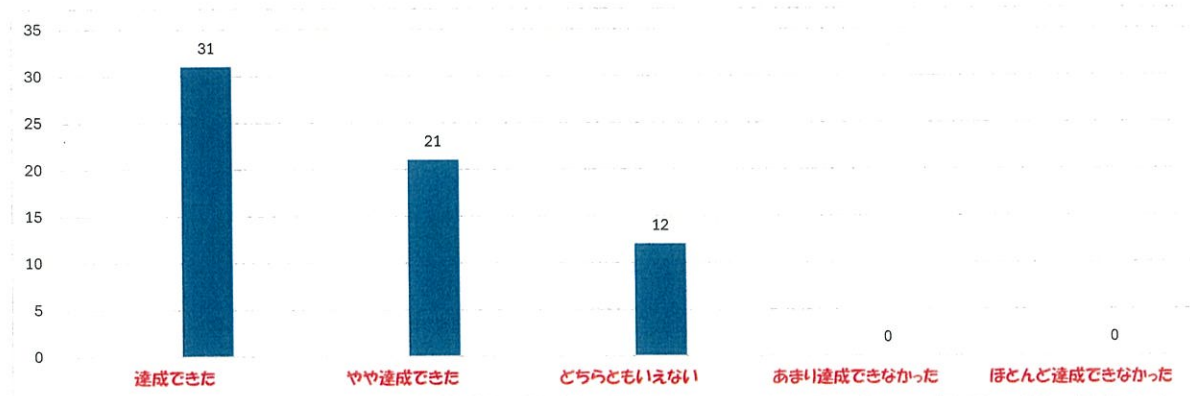
47. ③生命の尊厳と人格を尊重した実践力:対象者が持つ背景や価値観の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができる。また、実践場面において、いかなる場合でも専門職としての役割を倫理的に判断し、行動することができる。



48. ④問題発見・解決力:対象者の問題や課題の解決に向けて、必要な倫理的・実践的知識及び資源を活用し、根拠に基づいた適切な方法を選択・計画し、安全かつ的確に行動することができる。

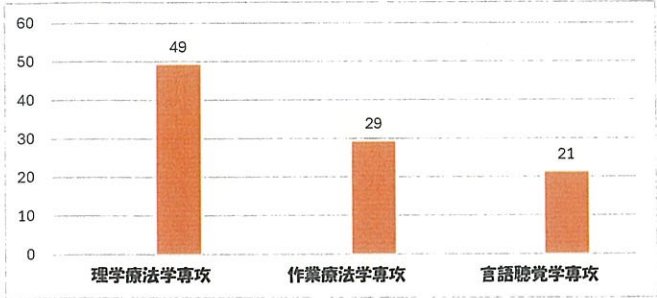


49. ⑤自律的で意欲的な態度:理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として医療の進歩や社会ニーズの変化に対応できる専門技術や知識を習得するために、生涯にわたり探求心をもち自己研鑽を継続できる。

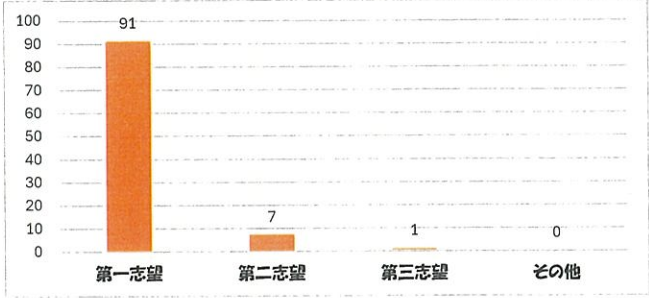


R6 新入生アンケート

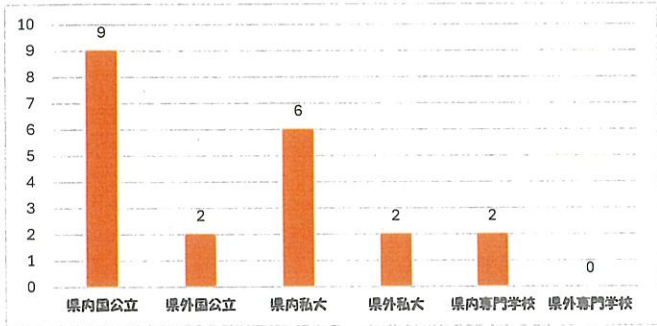
1. あなたの専攻はどちらですか。



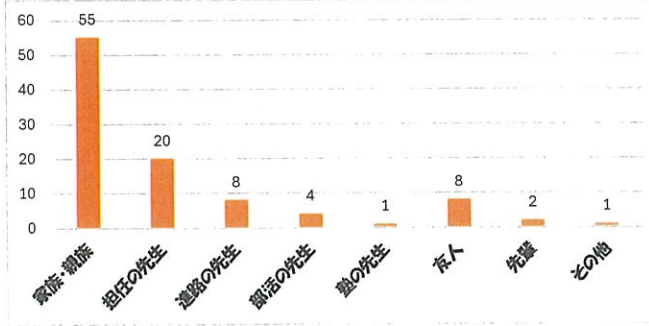
2. 本学の志望順位についてお答えください。



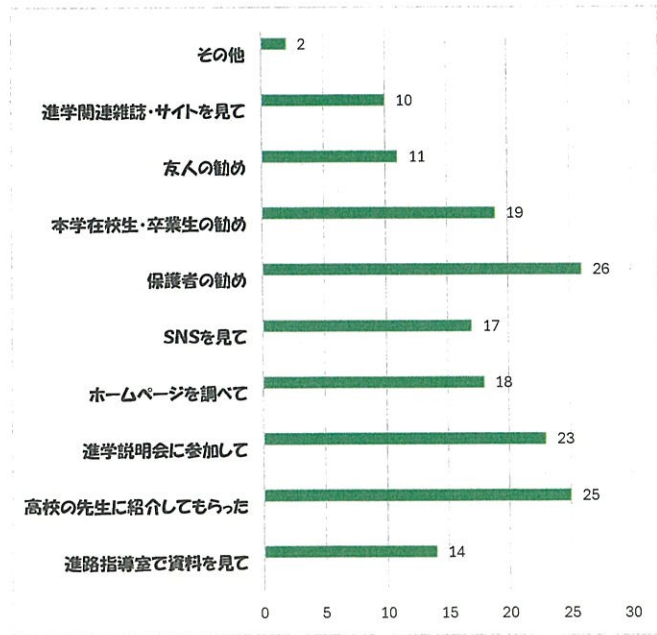
3. アンケートの問2で第一志望以外を選択された方にお聞きます。
第一志望の学校についてお答えください。



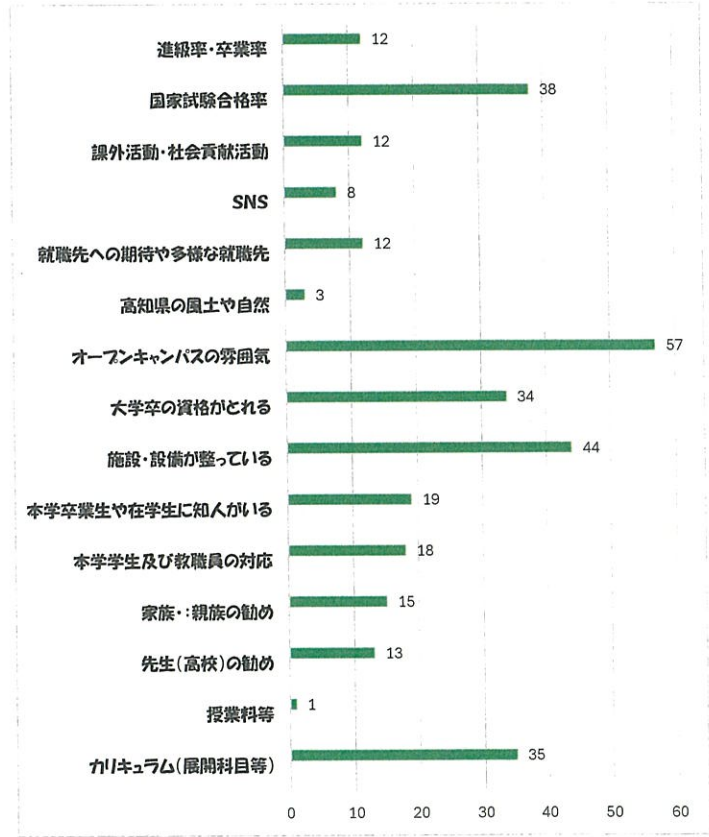
4. 進路決定にあたりもっとも相談をした相手は誰ですか。



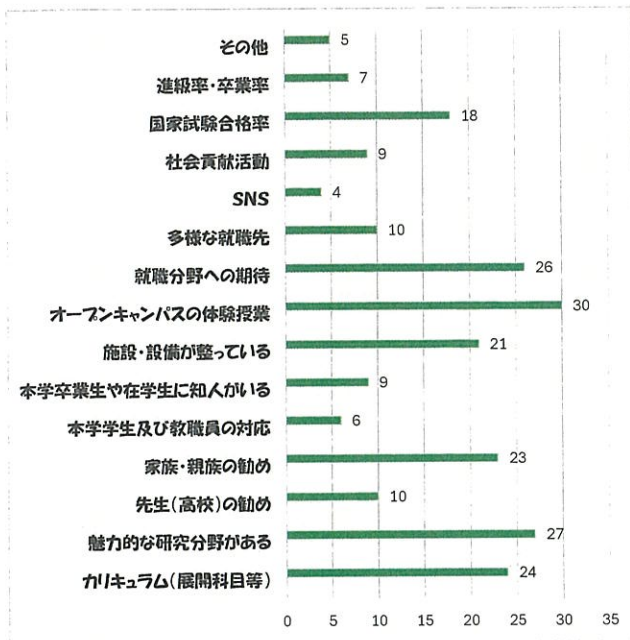
5. 本学を知ったきっかけは何でしたか。(※複数回答可)



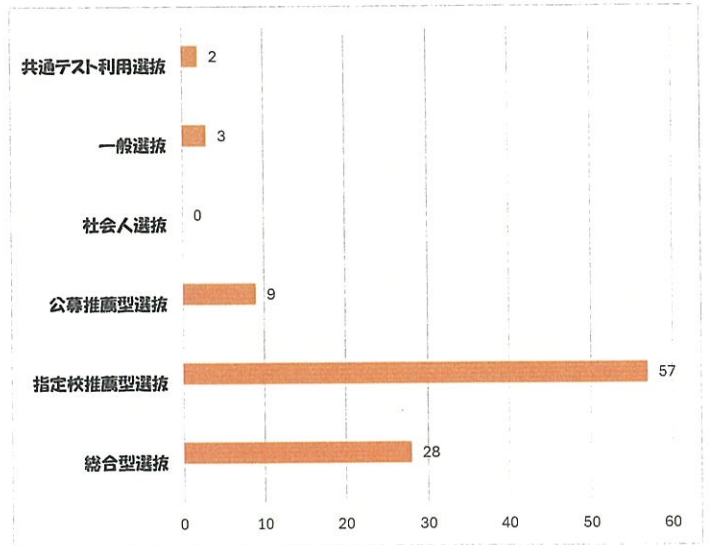
6. 本学の入学を決めた理由は何でしたか。(※複数回答可)



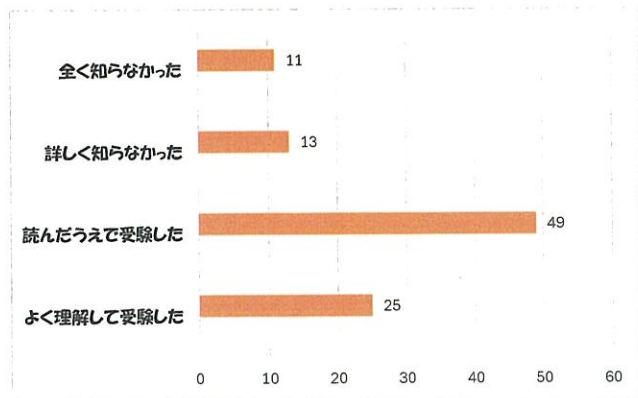
7. 専攻を決めた理由は何でしたか。(※複数回答可)



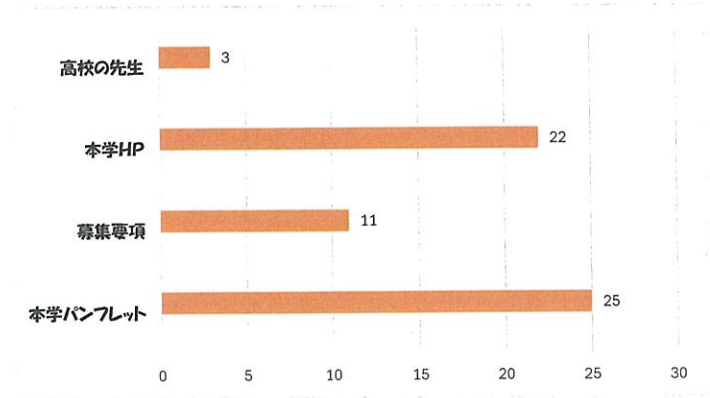
8. 本学への入学が決まった入試区分についてお答えください。



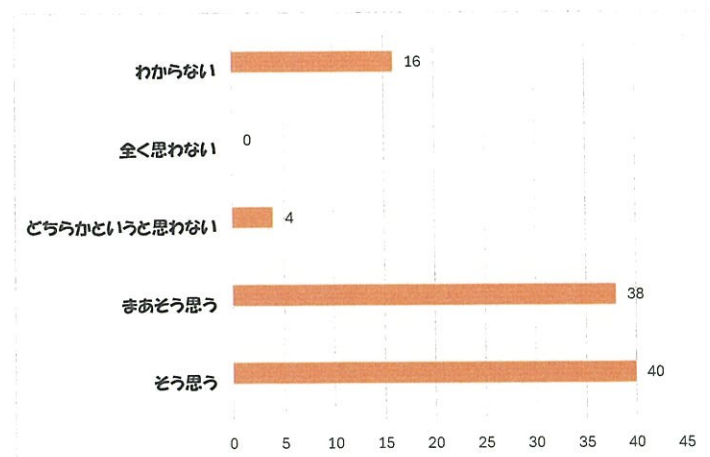
9. 本学受験の際、AP(アドミッションポリシー)の理解度についてお答えください。



10. 問17でAPを全く知らなかった以外を選択された方に質問します。どこでAPを知りましたか。(※複数回答可)



11. APはあなたの入試区分において、提出資料や試験内容に反映されていたと思いますか。



高知学園大学 令和6年度 事業報告書

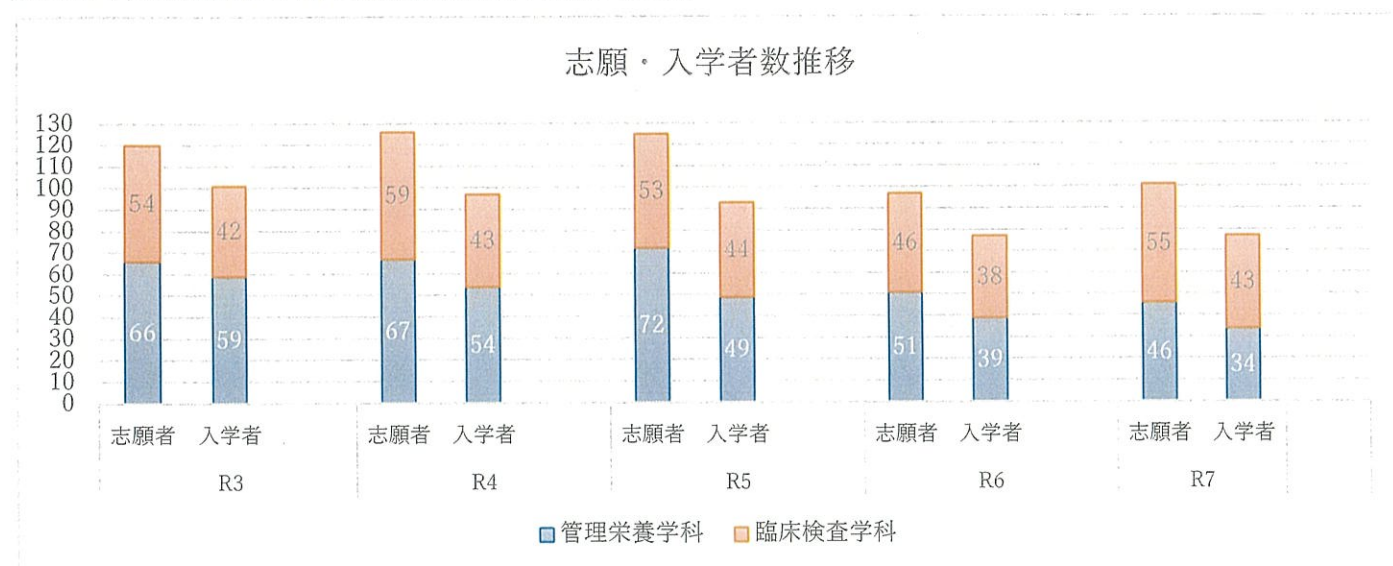
1. 現状と課題

A) 入口の状況

以下の表の通り、令和7年度入学生は臨床検査学科では増加したものの、管理栄養学科では減少し、全体の定員充足率は前年度と同じ水準の59.2%となった。依然として定員充足率の改善は最重要課題である。

R7 入試	定員	志願数	入学数	充足率
管理栄養	70	46	34	48.6%
臨床検査	60	55	43	71.7%
合計	130	101	77	59.2%

過去5年間の志願者・入学者数の推移は以下の通りである。

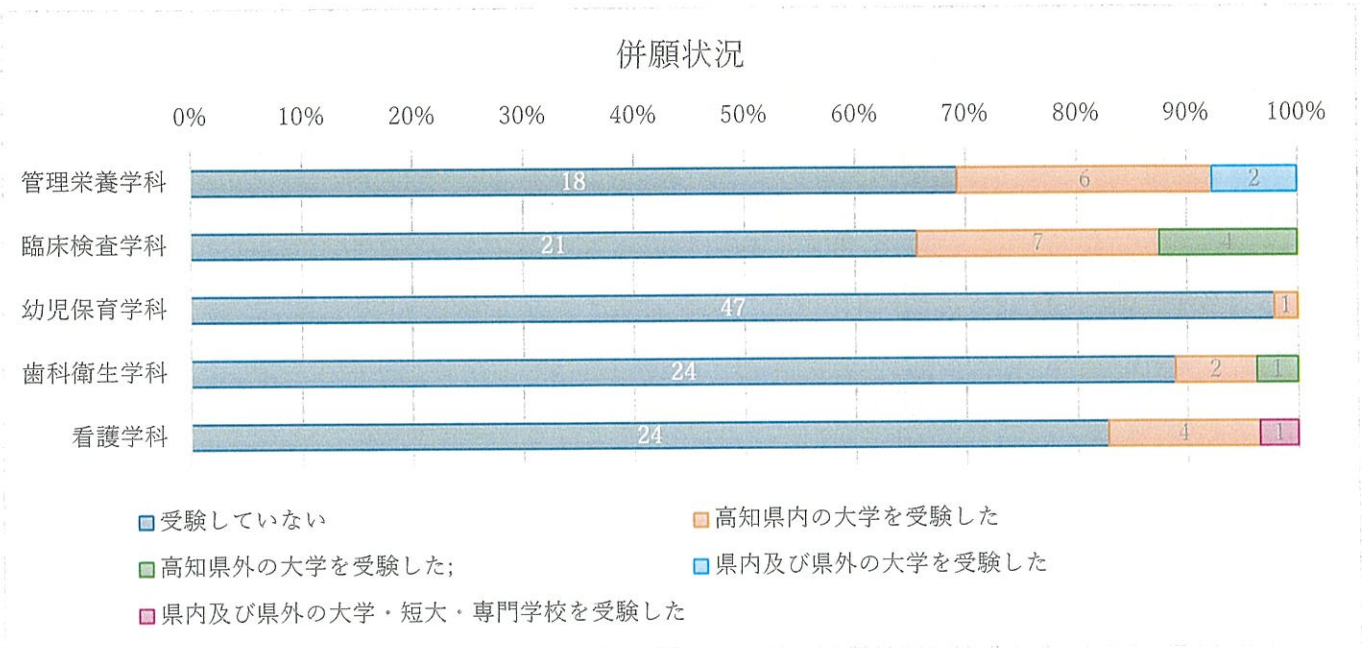
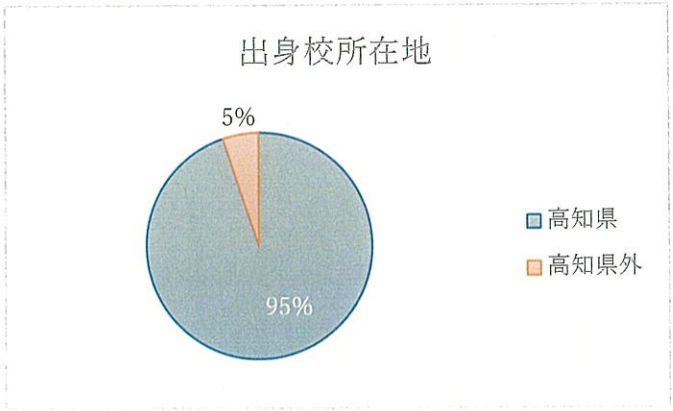


高知県の18歳人口と本学入学者が占める割合は、次の図のようになっており、前年度よりはやや高いものの、依然として減少傾向であり、志願者増加のためにさらなる方策が必要である。

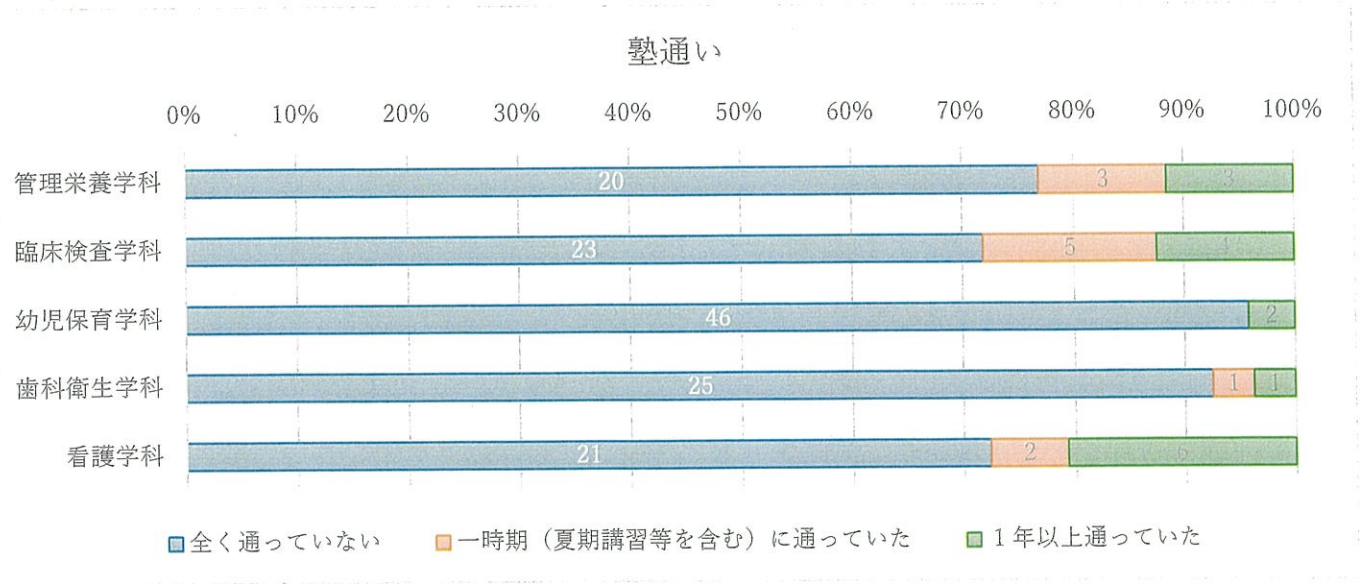


B) 令和7年度入学者の概況

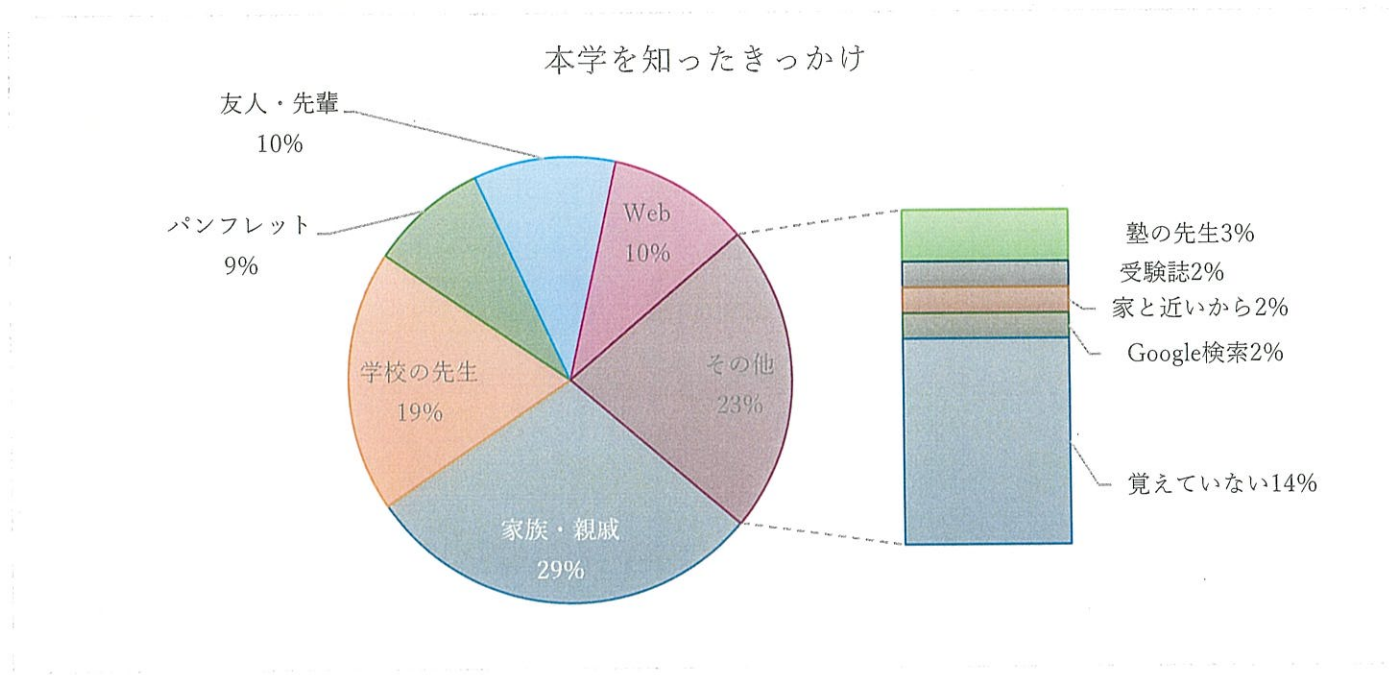
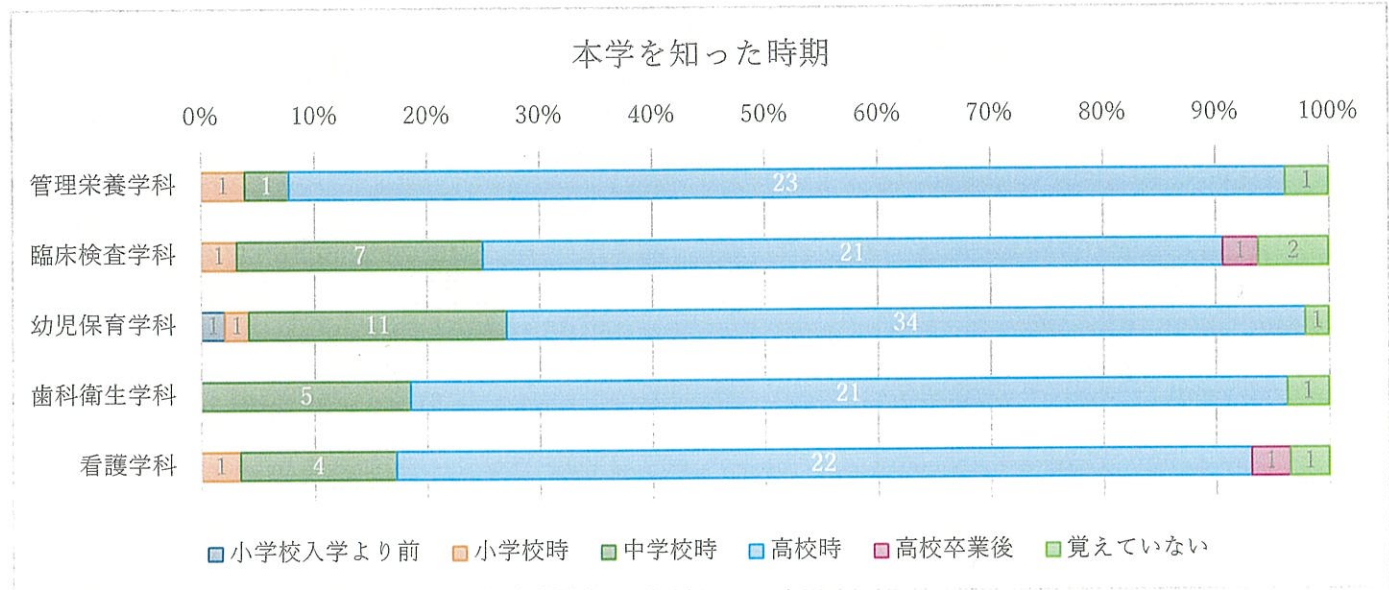
令和7年度入学生を対象に実施したアンケートによると、本学の入学者は例年通り、県内の高校からの進学が圧倒的多数であり、約7割の学生は他大学を受験していない。



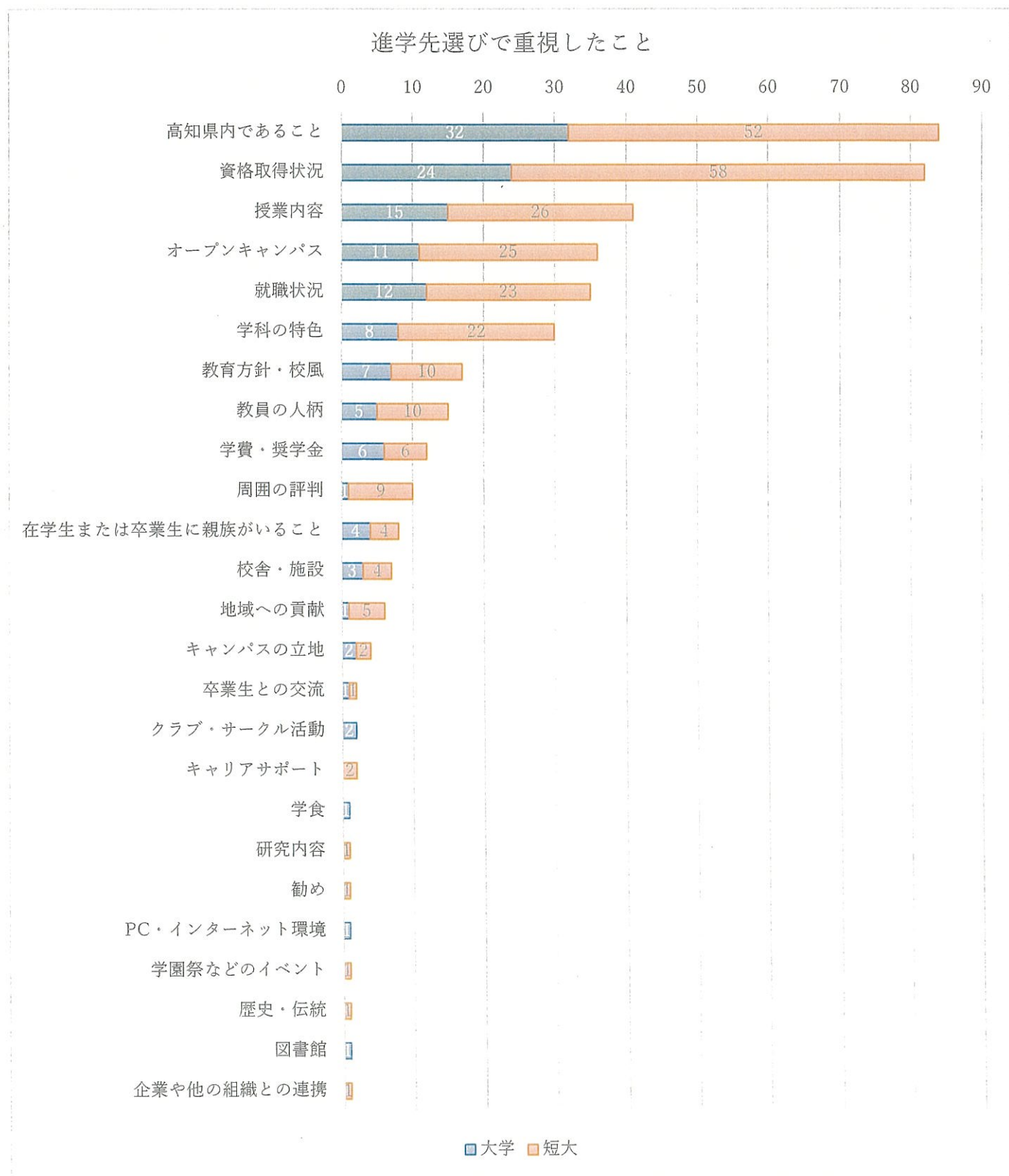
また、本学の入学生の7割超の学生は、入学前に全く塾や予備校に通っていない。



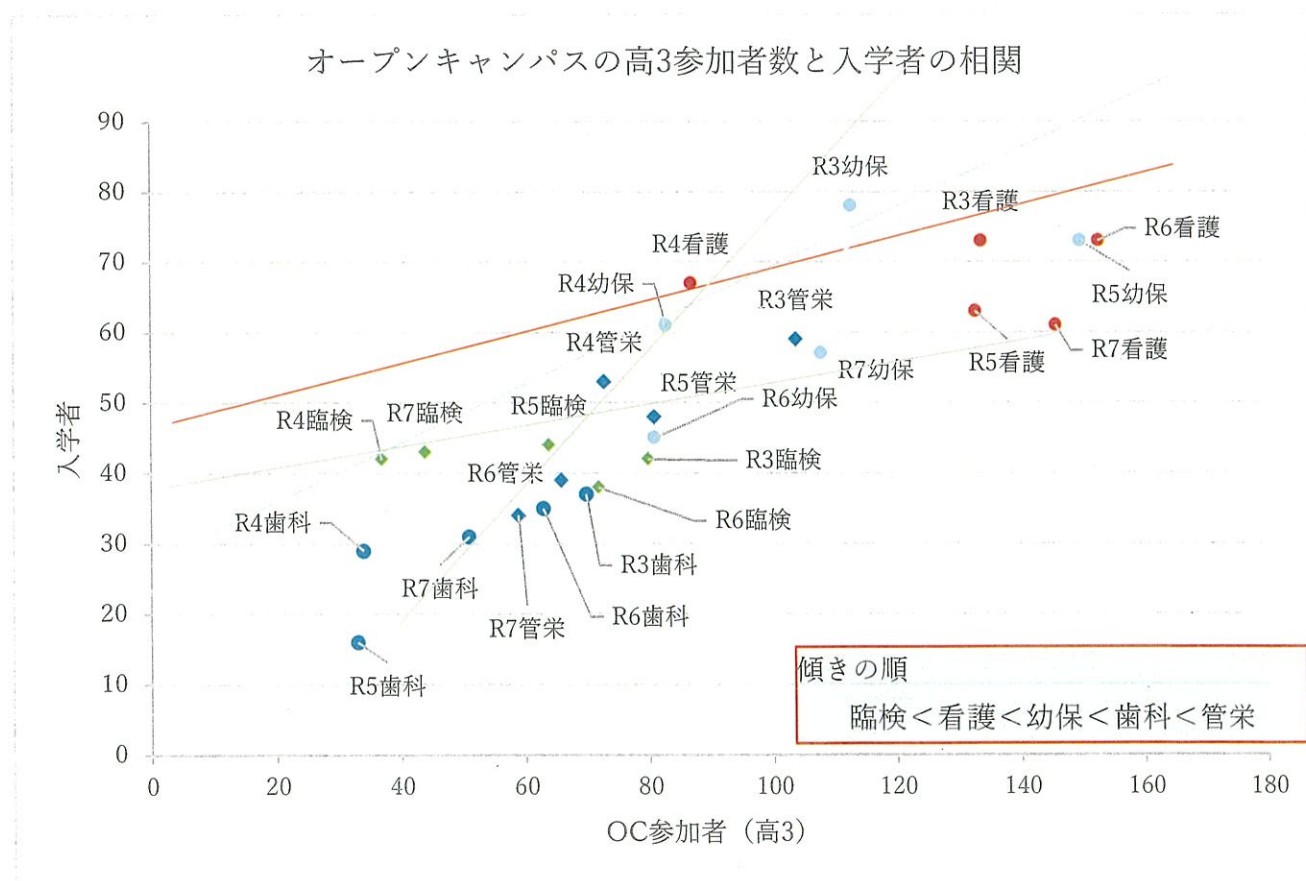
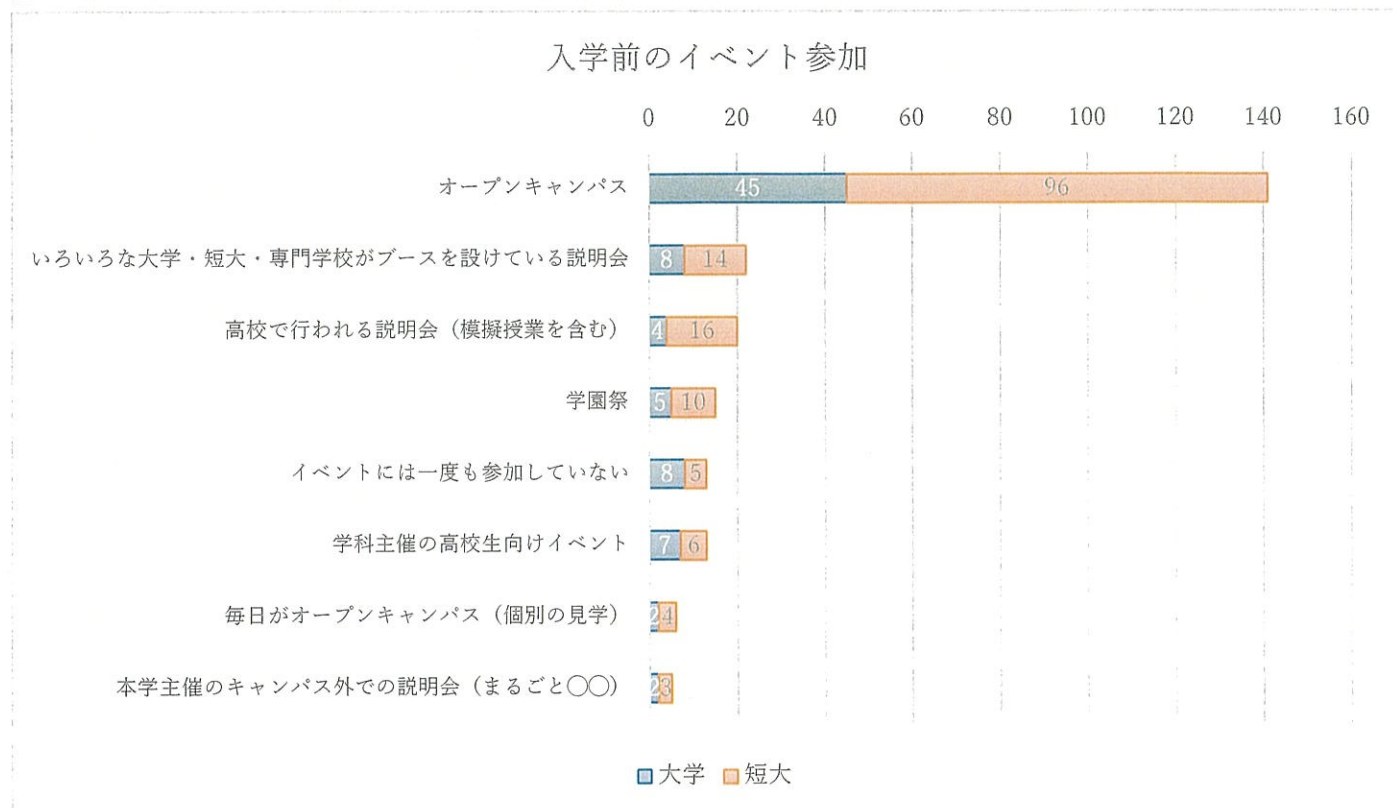
大多数の入学生は、本学を知ったのが高校時であり、そのきっかけとしては家族や先生など人からの情報がかなりの割合を占めており、ポスター・パンフレット等の印刷物や Web サイトなどのメディアという回答は少数である。



進学先選びで重視したこととして、「高知県内であること」「資格取得状況」を多くの人が挙げており、次いで「授業内容」「オープンキャンパス」「就職状況」「学科の特色」となっている。

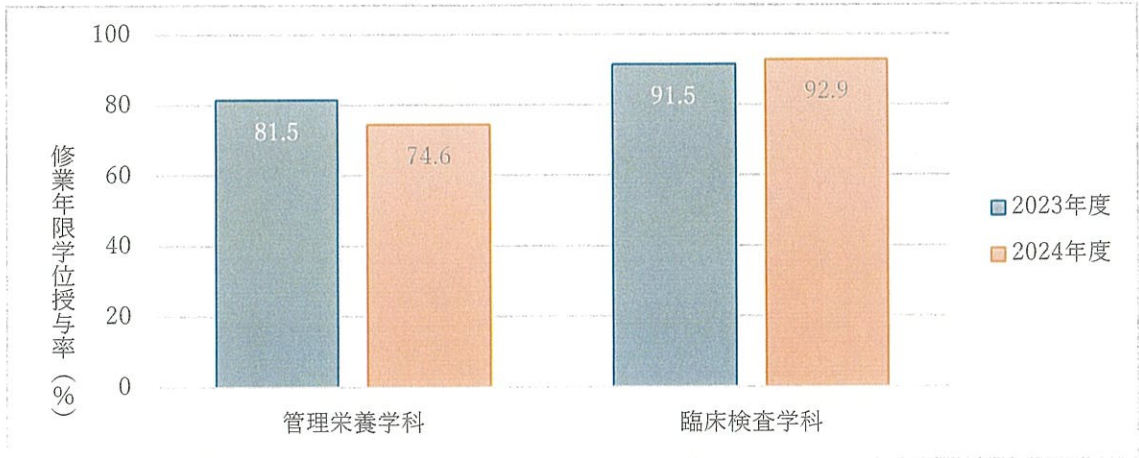


オープンキャンパスについては入学者のかなりの割合が参加しており、また、ここ 5 年間のデータでは、オープンキャンパスの高 3 参加者数と入学者数には強い正の相関があり（相関係数 0.86）、他大学に比べるとオープンキャンパスの影響がかなり大きい。

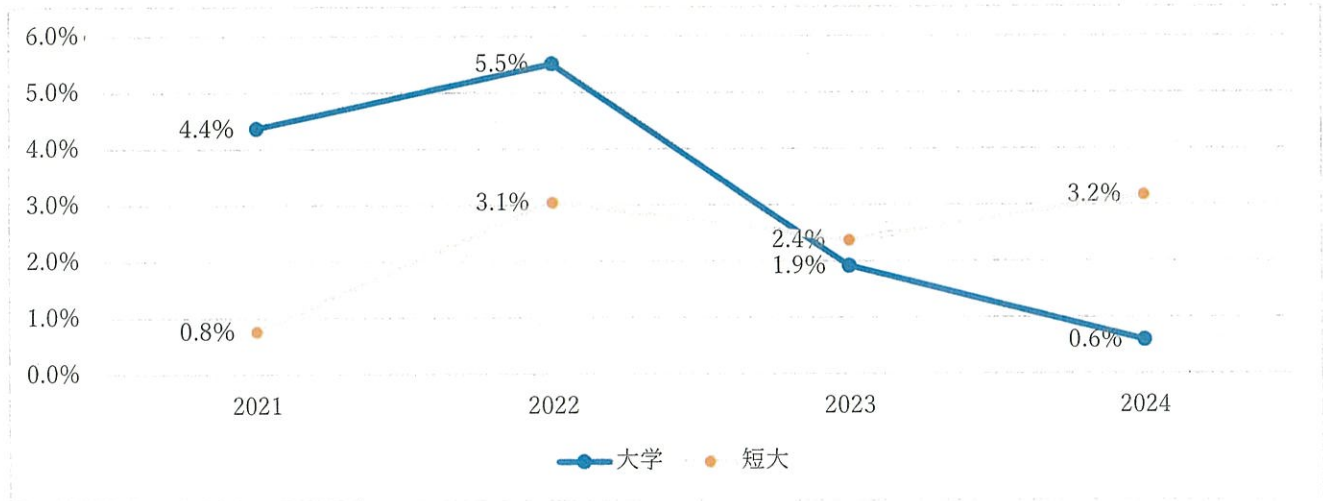


C) 教務

修業年限学位授与率は、下図の通りである。



退学率は、やや改善傾向にある。



D) 出口の状況

管理栄養士国家試験及び臨床検査技師国家試験の直近 2 年間の合格率は、それぞれ次の表の通りである。

管理栄養士国家試験合格率						
年度	卒業者	受験者	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2023	44	新卒	36	27	75.0%	80.4%
2024	44	新卒	34	25	73.5%	80.1%

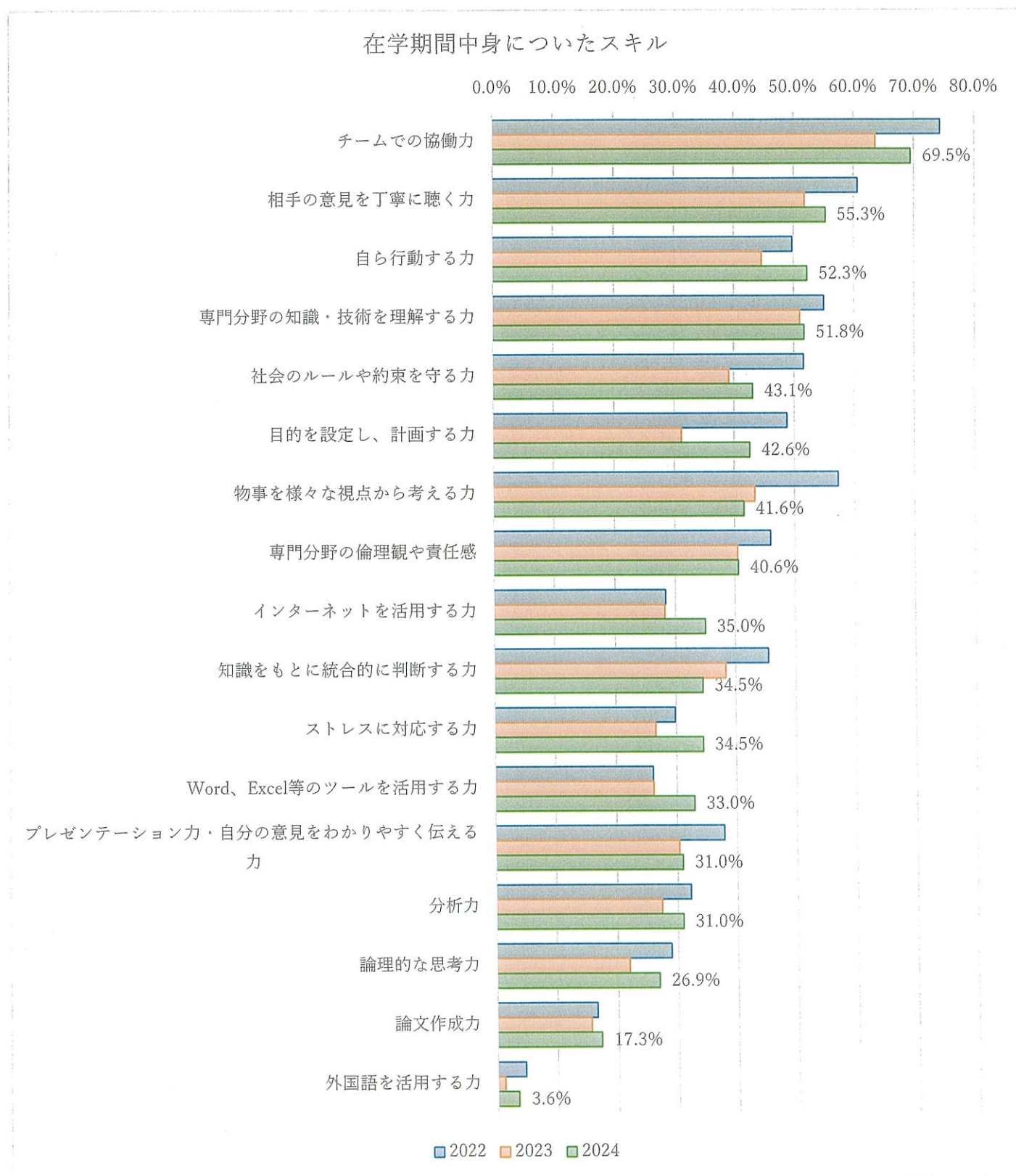
臨床検査技師国家試験合格率						
年度	卒業者	受験者	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2023	54	新卒	54	35	64.8%	88.0%
2024	39	新卒	34	29	85.3%	94.0%

令和 6 年度卒業生について、引き続き就職率（就職者数／就職希望者数）は 100%となった。

学科・専攻	卒業 者数	就職希 望者数	就職決 定者数	県内		県外		進学	その他
管理栄養学科	44	37	37	29	78.4%	8	21.6%	1	6
臨床検査学科	39	30	30	12	40.0%	18	60.0%	2	7
合計	261	205	205	157	76.6%	48	23.4%	29	27

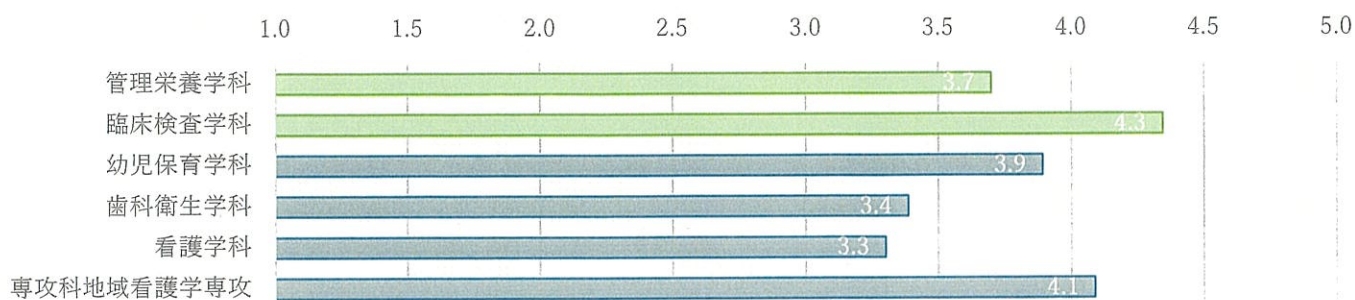
E) 令和 6 年度卒業生の概況

令和 6 年度卒業時アンケートの結果から、本学の教育目的とそれに基づいて定められた学習成果について、学生の自己評価による「在学期間中、身についたスキル」として、半数以上が「チームでの協働力」「相手の意見を丁寧に聴く力」「専門分野の知識・技術を理解する力」を挙げており、本学の教育方針とも整合性が取れている。



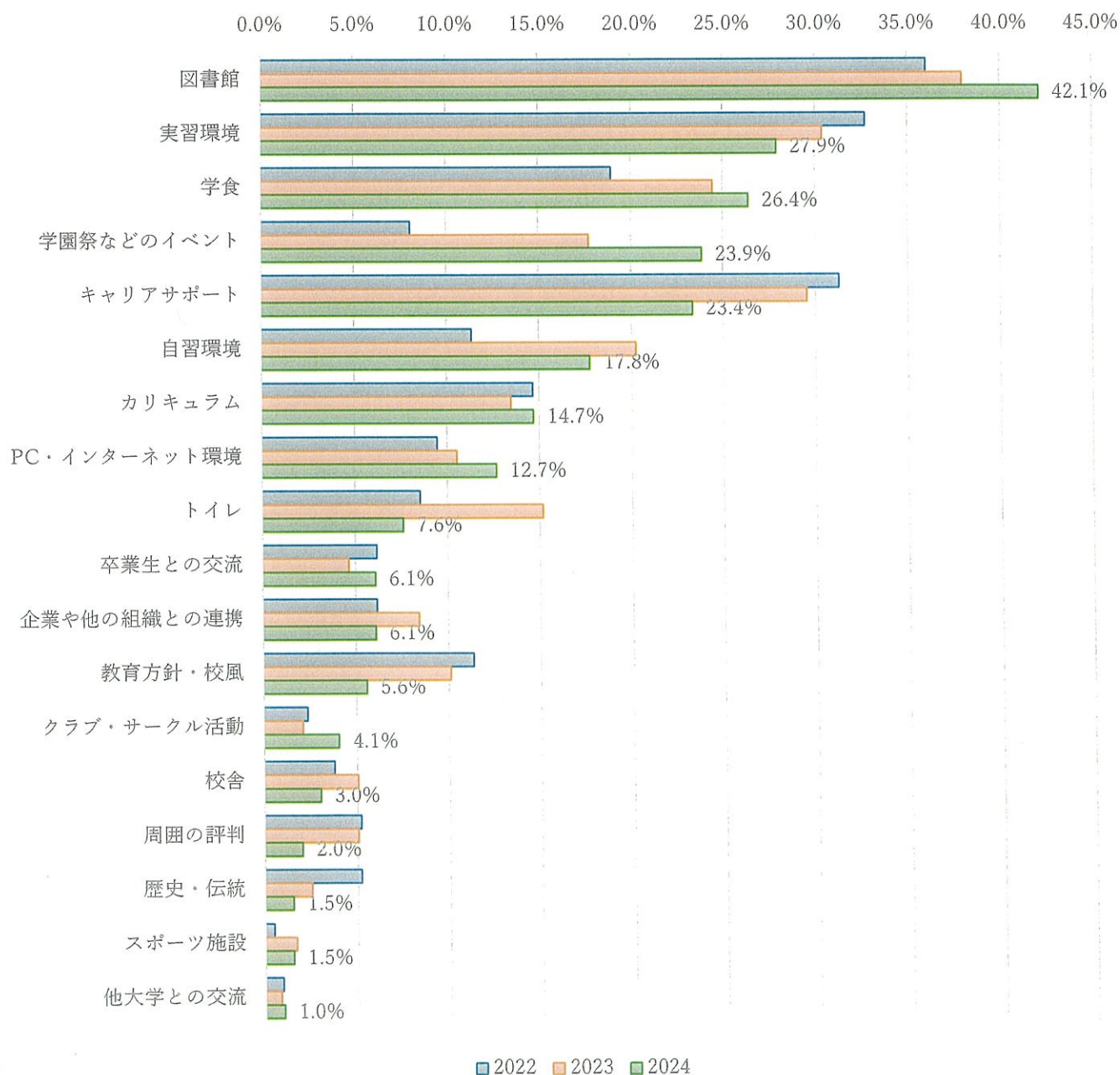
学生生活の満足度は、両学科とも 90%以上が 3 以上を回答しており、平均としては 4.1 となっている。

学生生活の満足度：学科別平均



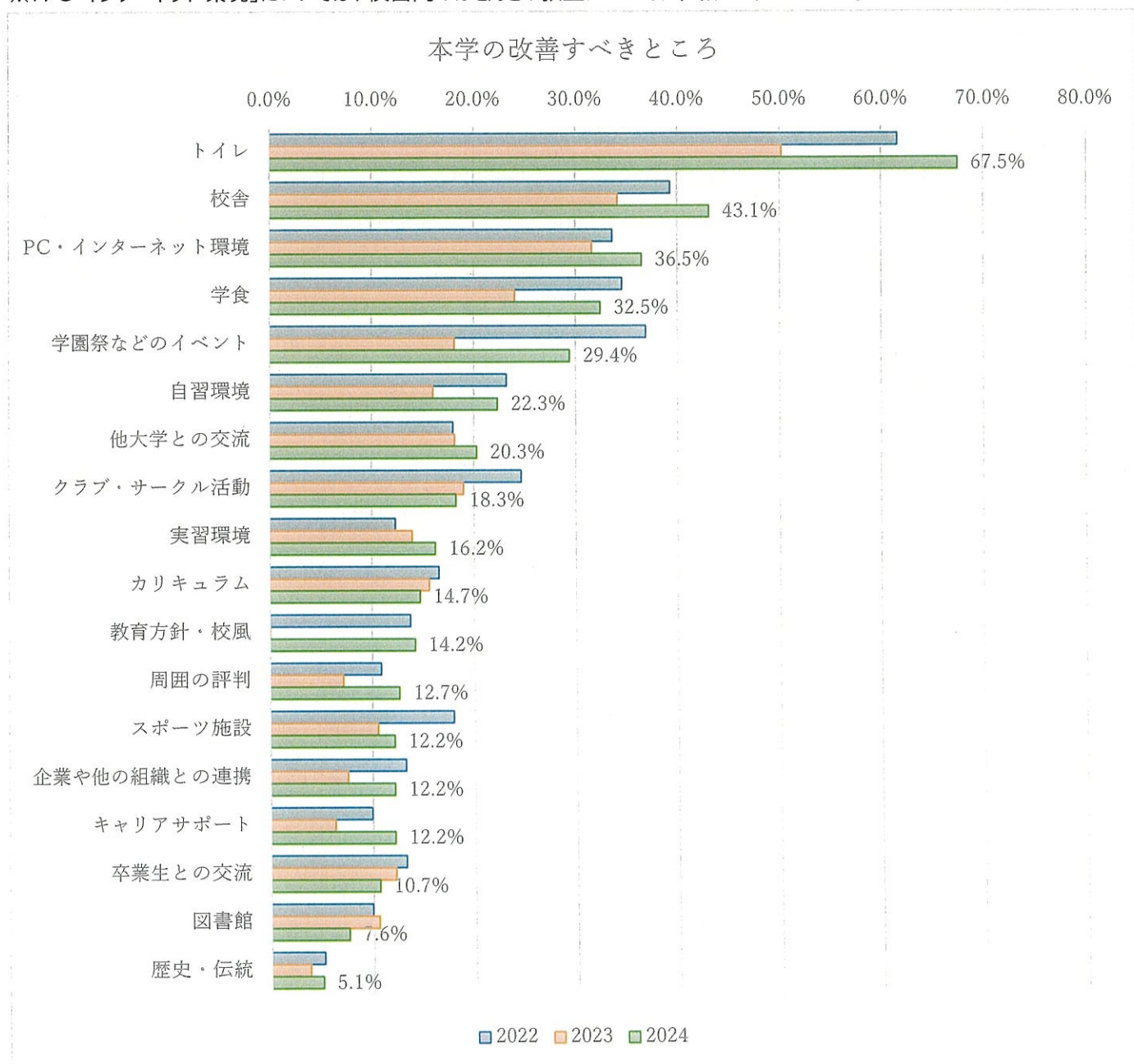
本学のよかったところでは、「図書館」「実習環境」「学食」「学園祭などのイベント」「キャリアサポート」が高い評価となった。「学食」「学園祭などのイベント」は昨年よりも高いポイントとなっている。

本学のよかったところ

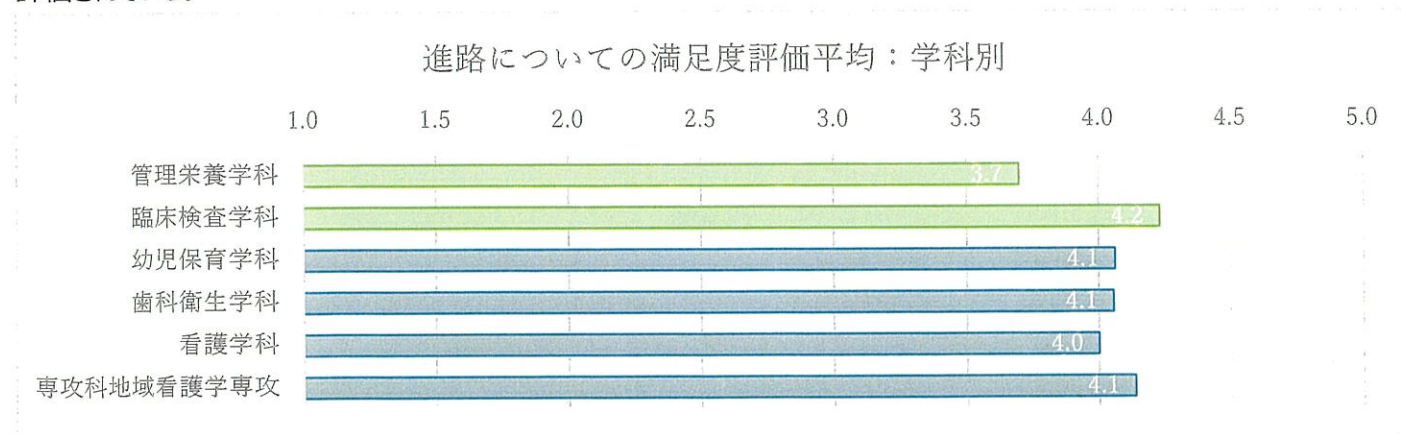


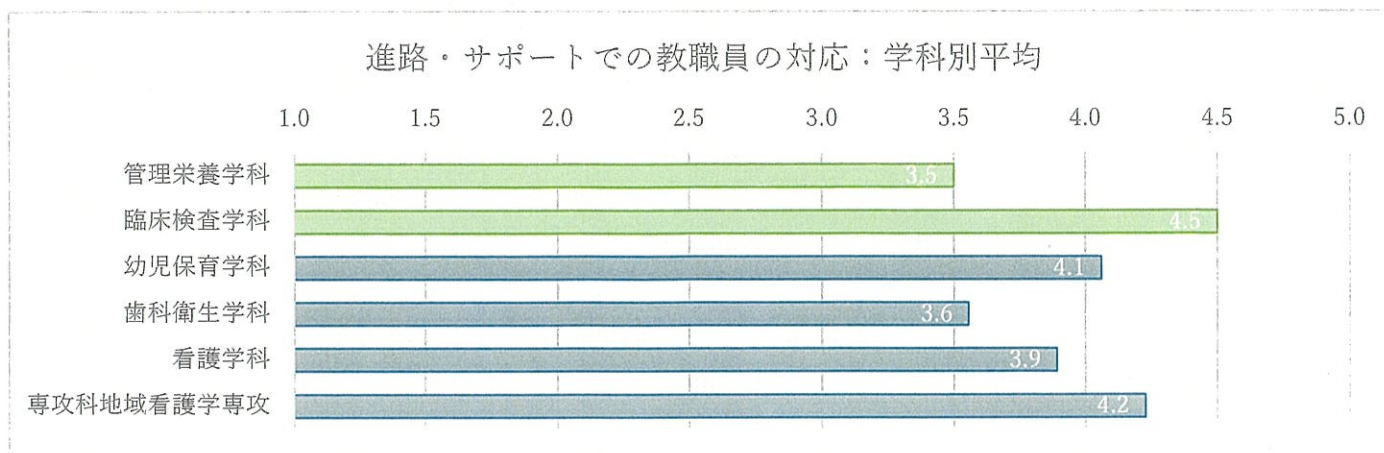
一方、本学の改善すべきところとして、昨年に続き、過半数が「トイレ」を指摘している。また、「校舎」「PC・インターネット環境」「学食」も3割超が改善すべきとしている。

※「PC・インターネット環境」については、校舎内のほとんどの教室について、令和7年3月から学生の利用を開始済み。



学生の進路についての満足度は2学科で平均が4.1となっており、進路指導・サポートについての教職員の対応も学生から評価されている。





2. 令和 6 年度の取り組みと結果

A) 学生募集

令和 6 年度に実施した募集活動は次の通りである。

- ① 高等学校教員対象の進学説明会：高知市、四万十市、安芸市（各 1 回）
- ② オープンキャンパス（6～9 月、3 月）：5 回、累計 179 名（保護者を除く、詳細は表 2 参照）
- ③ 毎日がオープンキャンパス：4 名（保護者を除く）
- ④ 進学ガイダンス：60 回、累計 255 名参加（短大を含む、詳細は表 1 参照）
- ⑤ 高校への個別訪問：累計 44 校（短大と共通、入試結果の訪問を除く）
- ⑥ 高知高校との連携強化（医療・健康系進学プログラム）
- ⑦ まるごと！学大・リハ大・学短フェア 出張オープンキャンパス in 四万十：1 回
- ⑧ 職業体験フェスタ：1 回
- ⑨ 中学生キャリア教育支援地域貢献事業「考えてみよう将来の仕事」～職業体験～：1 回
- ⑩ 「臨床検査をのぞいてみよう！」：1 回
- ⑪ 映画館（TOHO シネマズ高知）の CM
- ⑫ 高知県歯科医師会・歯科衛生士会等の職能団体と連携したイベントの実施

B) キャリア

キャリアの指導として、一人一人と面談をし、教員及び事務局が連携をして進路指導を行っている。また、キャリアセンターでは、進路支援に必要な求人情報の収集、周知、履歴書・ES の添削、面接指導（入退室）、礼状の指導などを日常業務として行っている。令和 6 年度は、各学科で履歴書作成指導、就職説明会、就職セミナー等、それぞれ年 1 回実施した。これらの取り組みの結果として、継続した就職率 100%や学生の進路満足度の高評価にも繋がっている。

C) ICT 関連の施策

令和 6 年度に学内に Wi-Fi ネットワークを整備した。講義教室を中心に 42 箇所のアクセスポイントを設置し、令和 7 年 3 月末までに授業で学生全員が利用できるものとなっている。セキュリティを考慮し、学生個々に Wi-Fi 認証アカウントを割り当てており、クラウド上で集中管理可能となっている。また、これに伴い、新入生より BYOD（自分の PC・タブレット等を持参）での授業環境を整える準備がなされ、ICT を本格的に活用した授業が令和 7 年度より展開される予定である。

本学 Web サイトについては、システム上で各学科が更新可能な体制を整えたことにより、情報発信数が増加した。Google Analytics での 1 年間のアクセス数観測としては、高知市の 25%を除くと、大阪市が 9%、広島市が 5%、新宿区が 2.4%と

っており、その他は 2%未満である。また、各学科での Instagram の取り組みが活発になっており、Web サイトとソーシャルメディアの連携が今後の課題となる。IR 及び研究推進の情報発信については、引き続き取り組みを実施する計画である。

D) その他

各学科においては、特色ある教育内容や留年率、休学率、退学率の減少の具体的方策の検討が行われている他、FD 活動の活性化による個々の教育能力の向上も継続して取り組みがなされている。また、各部局において、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を再点検し、教員人事や施設・設備・備品の見直しによって、より効率的な運営体制を構築することも引き続き課題となる。

E) 課題と対策

1. 県外学生の獲得について

過去の入学実績をもとに、愛媛県を中心として積極的に進学ガイダンスに参加をした。また、中国地方や関西圏への募集も試みたが、成果・実績としては乏しい状況である。

2. 対策

- ・ 事務局体制の再編成を行う。学生支援課と教務課を統合して教務学生課とし、学生募集業務等を横断的に実施できる体制とするとともに、学生募集に特化したプロジェクトチームを立ちあげる
- ・ 大学の「特色と魅力」を明確にするために、「国際化」「地域貢献」をテーマとしたプロジェクトチームを組織する。
- ・ 教員の研究力強化及び研究体制を整えるために研究推進部を設置する。
- ・ 令和 6 年度内に全学科・専攻科に対して学長ヒアリングを実施した。各学科・専攻科の目指す方向性を明確にし、社会が求める人材像を踏まえた専門的職業人の育成を目指し、教育課程（カリキュラム）を見直す。

高知学園短期大学 令和6年度 事業報告書

1. 現状と課題

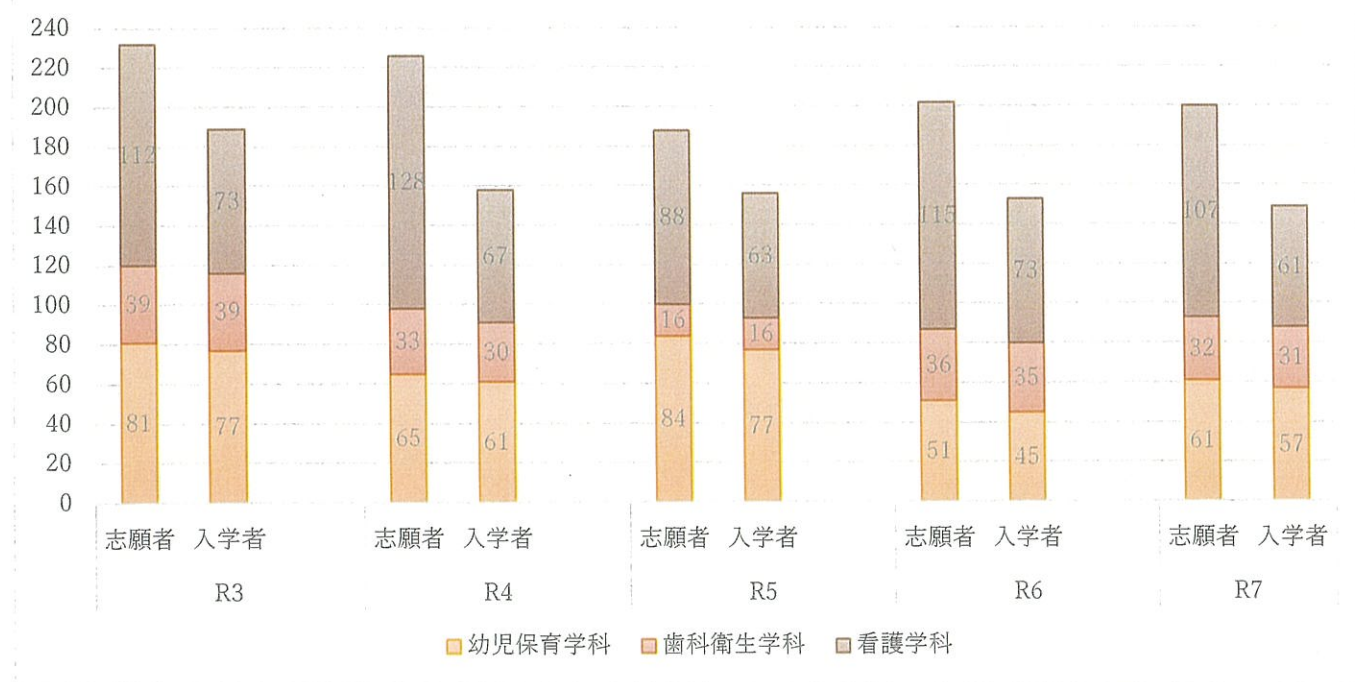
A) 入口の状況

以下の表の通り、令和7年度入学生は看護学科及び専攻科では定員充足しており、幼児保育学科と専攻科では増加してものの、歯科衛生学科で減少し、全体の定員充足率は前年度と同じ水準の84.9%となった。

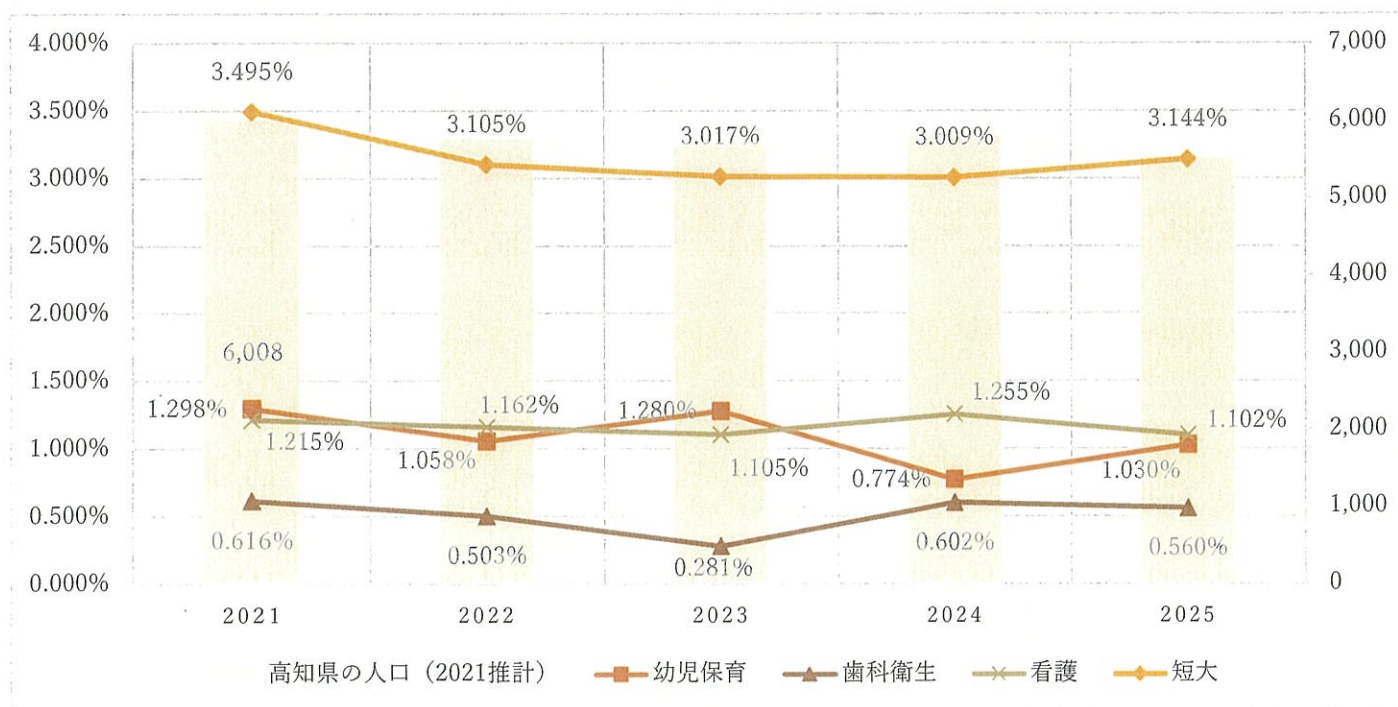
R7 入試	定員	志願数	入学数	充足率
幼児保育	80	61	57	71.3%
歯科衛生	40	31	31	77.5%
看護	60	109	61	101.7%
専攻科	25	32	25	100.0%
合計	205	233	174	84.9%

過去5年間の志願者・入学者数（専攻科を除く）の推移は以下の通りである。

志願・入学者数推移



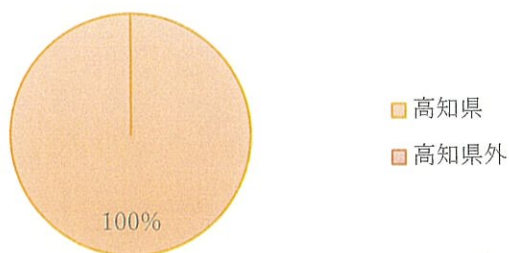
高知県の18歳人口と本学入学者が占める割合は、次の図のようになっており、直近4年間はほぼ横ばいの傾向である。



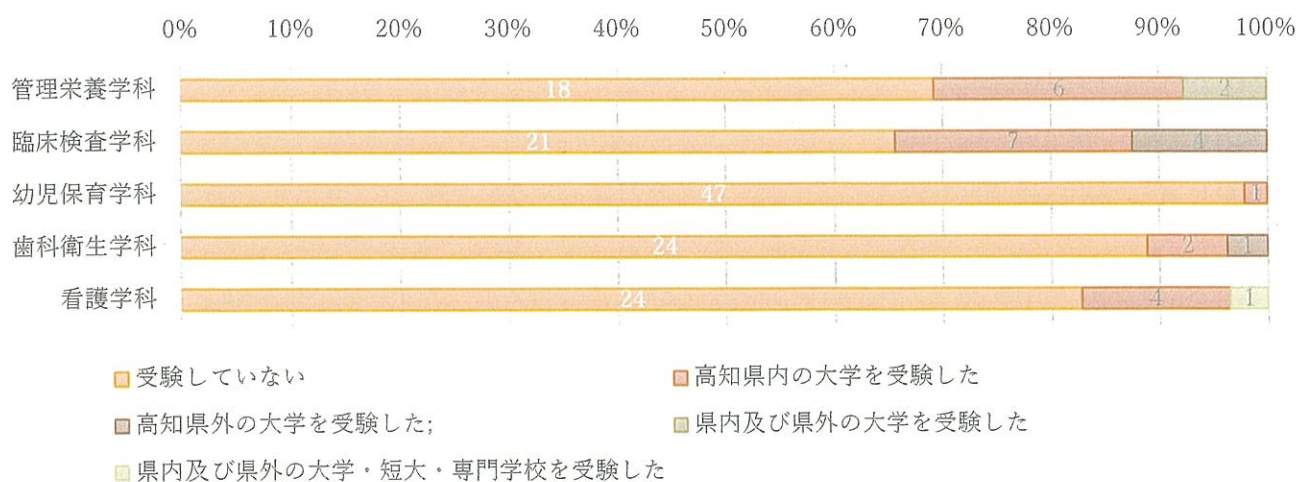
B) 令和7年度入学者の概況

令和7年度入学生を対象に実施したアンケートによると、本学の入学者は例年通り、県内の高校からの進学が圧倒的多数であり、約9割の学生は他大学を受験していない。

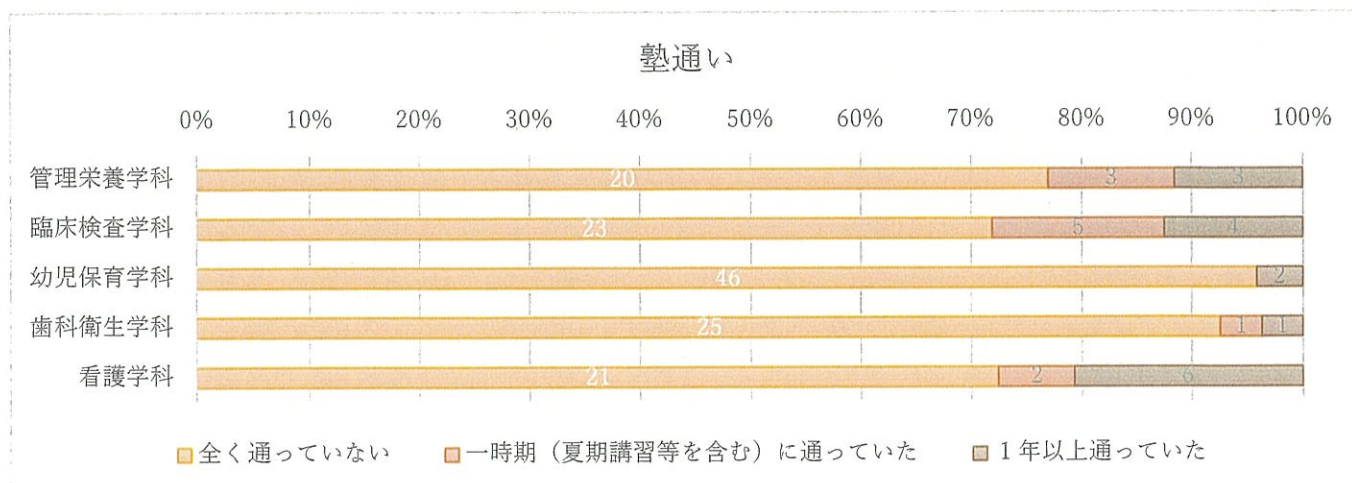
出身校所在地



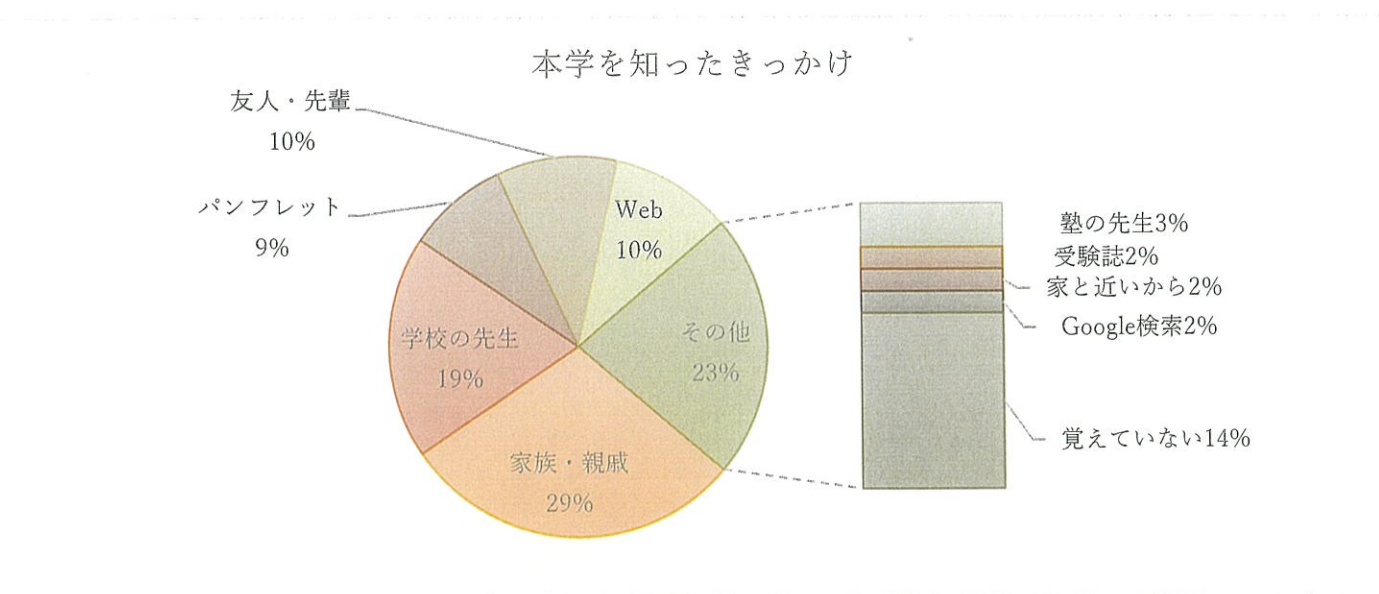
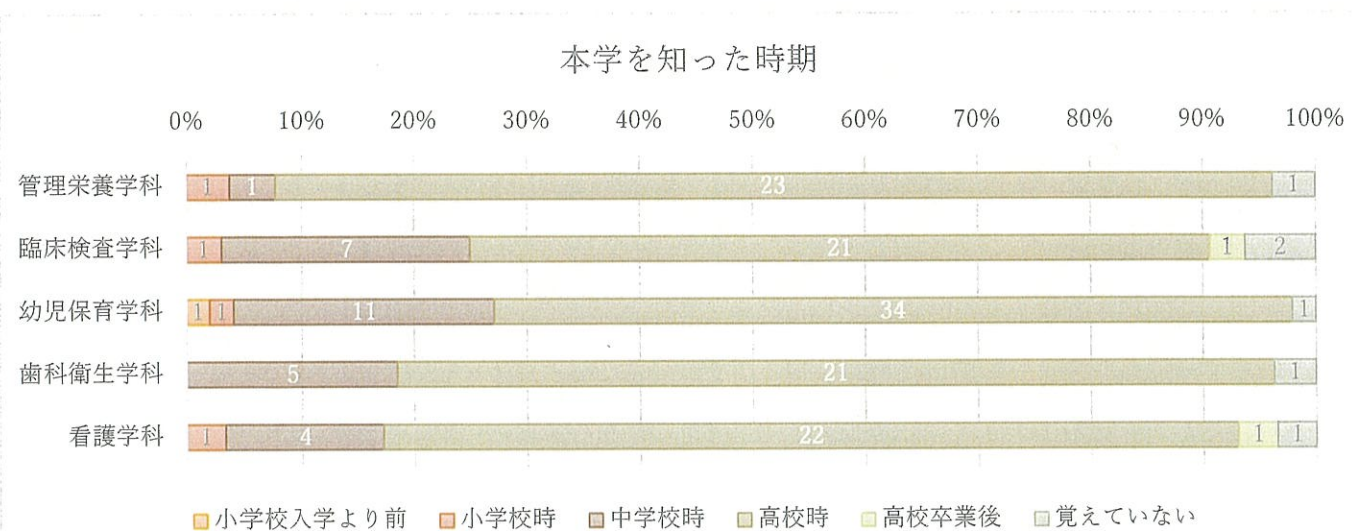
併願状況



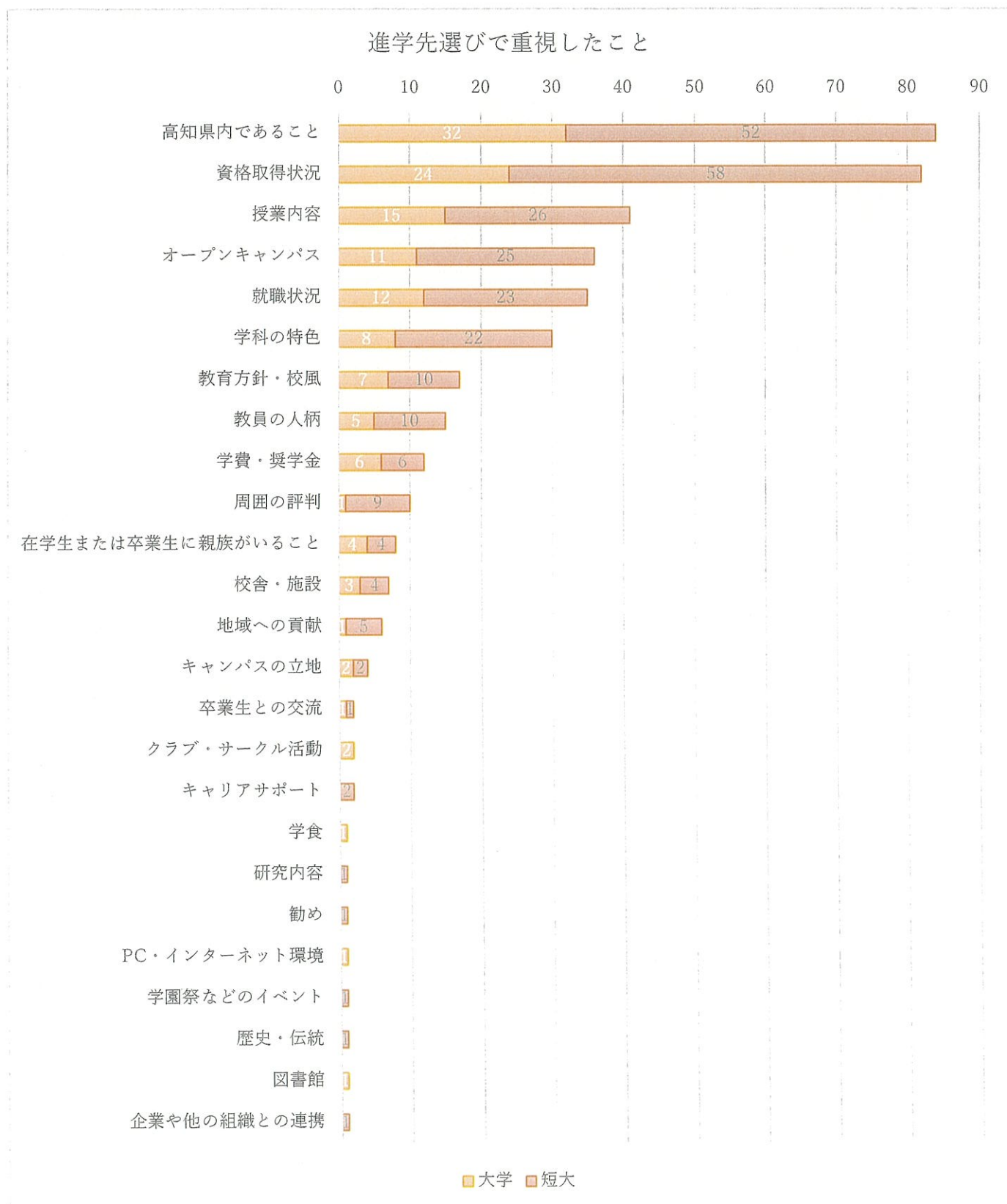
また、本学の入学生の 9 割超の学生は、入学前に全く塾や予備校に通っていない。



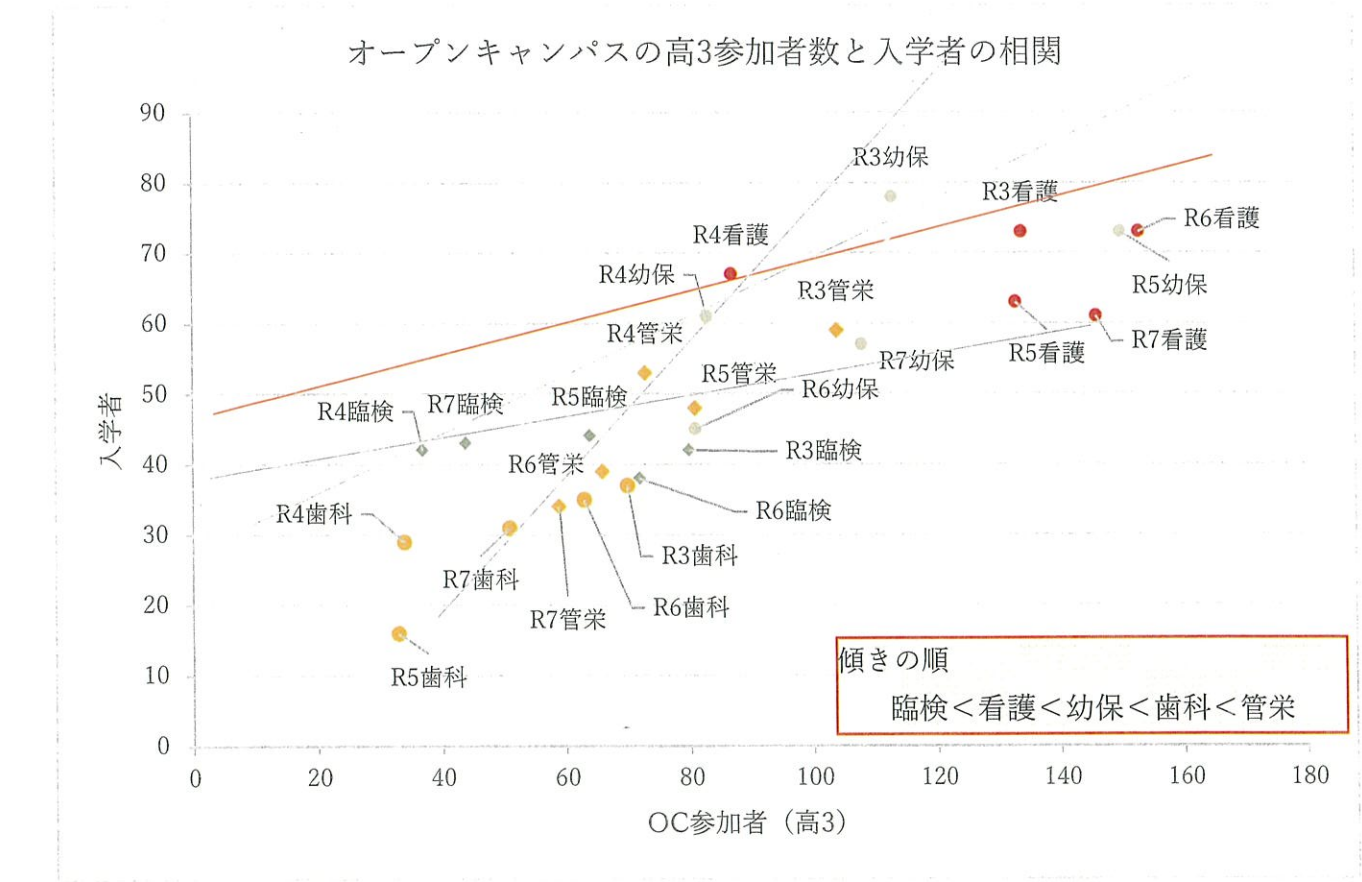
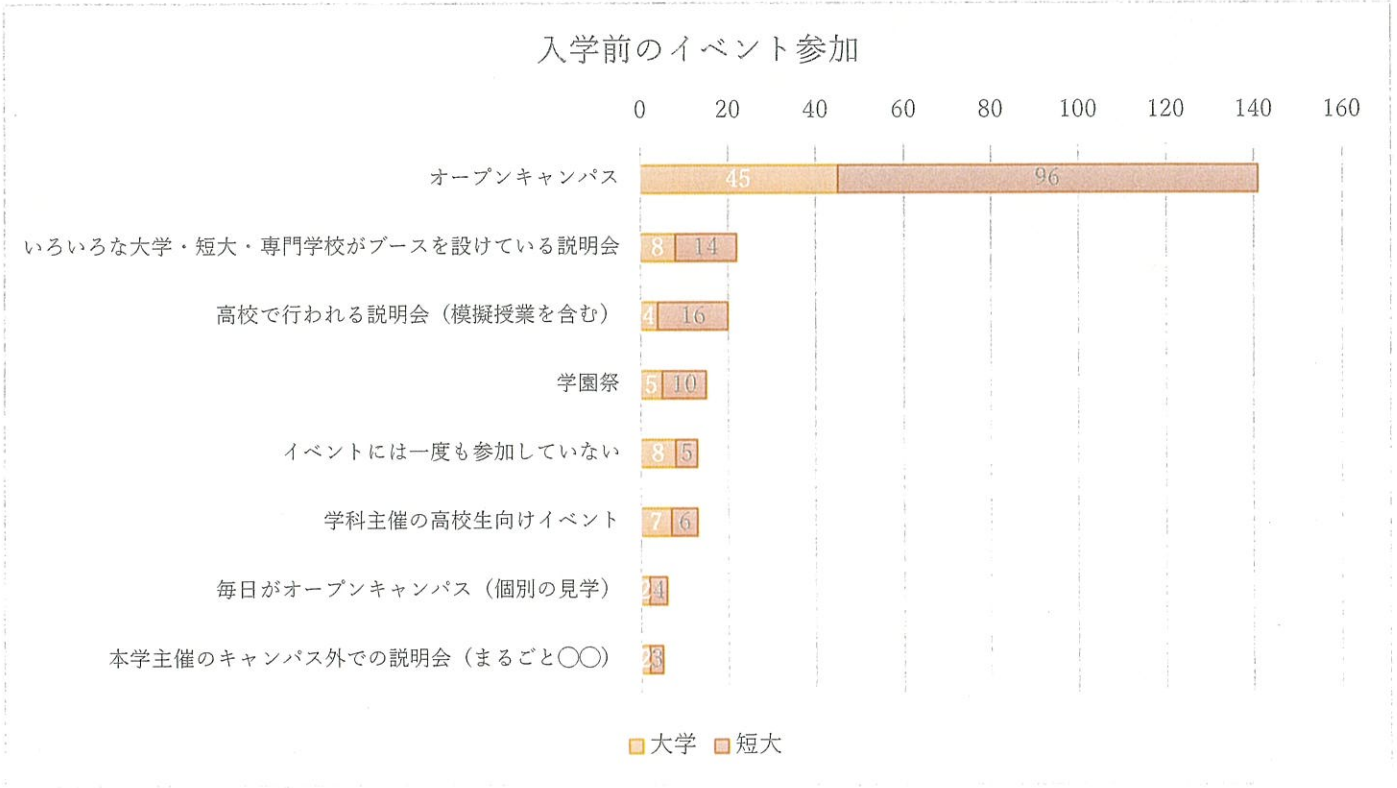
大多数の入学生は、本学を知ったのが高校時であり、そのきっかけとしては家族や先生など人からの情報がかなりの割合を占めており、ポスター・パンフレット等の印刷物や Web サイトなどのメディアという回答は少数である。



進学先選びで重視したこととして、「高知県内であること」「資格取得状況」を多くの人が挙げており、次いで「授業内容」「オープンキャンパス」「就職状況」「学科の特色」となっている。

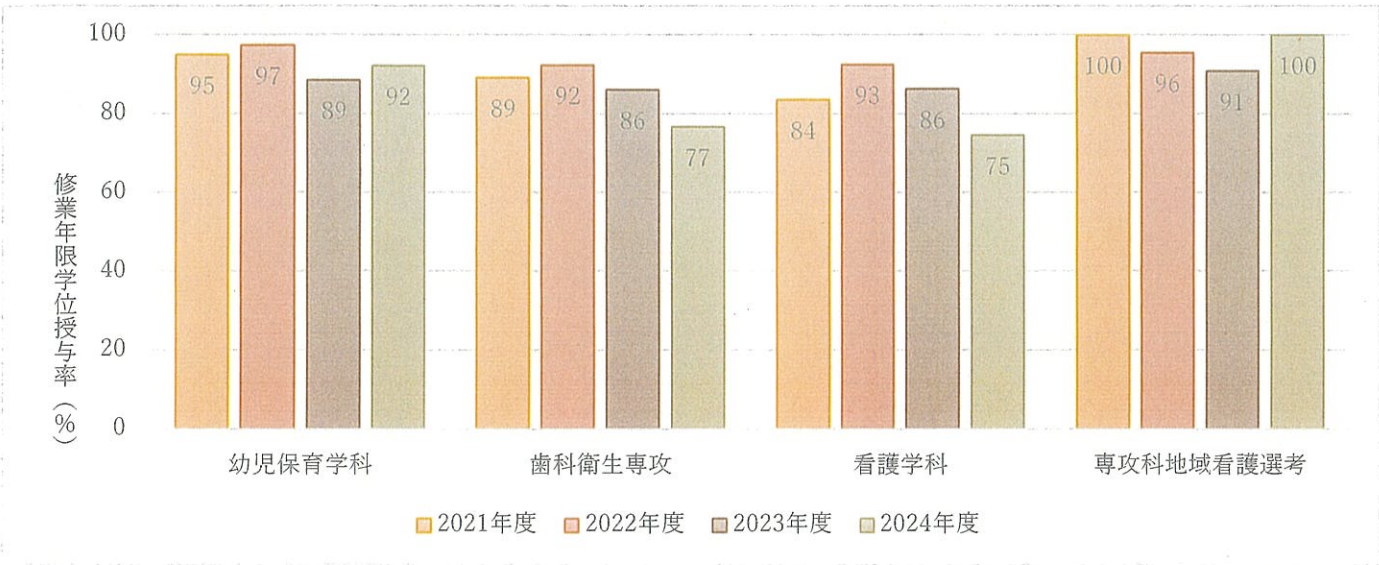


オープンキャンパスについては入学者のかなりの割合が参加しており、また、ここ 5 年間のデータでは、オープンキャンパスの高 3 参加者数と入学者数には強い正の相関があり（相関係数 0.86）、他大学に比べるとオープンキャンパスの影響がかなり大きい。

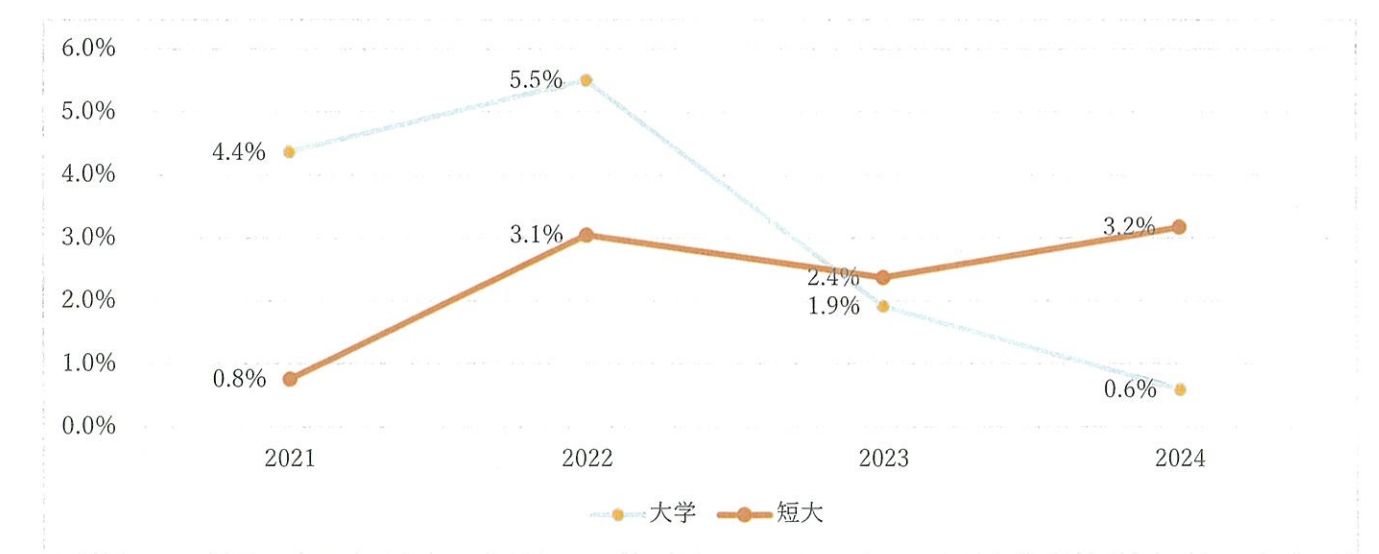


C) 教務

修業年限学位授与率は、下図の通りである。



退学率は、やや増加傾向で注意は必要であるが、私立短大の平均 3.9%よりは低い率となっている。



D) 出口の状況

歯科衛生士、看護師及び保健師の直近 4 年間の合格率は、それぞれ次の表の通りである。

歯科衛生士国家試験合格率

年度	卒業者	受験者	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2021	34	新卒	33	31	93.9%	97.4%
2022	40	新卒	39	36	92.3%	95.2%
2023	36	新卒	32	28	87.5%	95.1%
2024	27	新卒	26	23	88.5%	94.3%

看護師国家試験合格率

年度	卒業者	受験者	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2021	67	新卒	67	63	94.0%	96.5%
2022	70	新卒	70	61	87.1%	95.5%
2023	65	新卒	65	60	92.3%	93.2%
2024	58	新卒	58	54	93.1%	95.9%

保健師国家試験合格率

年度	修了者	受験者	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2021	22	新卒	22	22	100%	93.0%
2022	21	新卒	21	21	100%	96.8%
2023	21	新卒	21	21	100%	97.7%
2024	22	新卒	22	22	100%	96.4%

令和 6 年度卒業生について、引き続き就職率（就職者数／就職希望者数）は 100%となった。

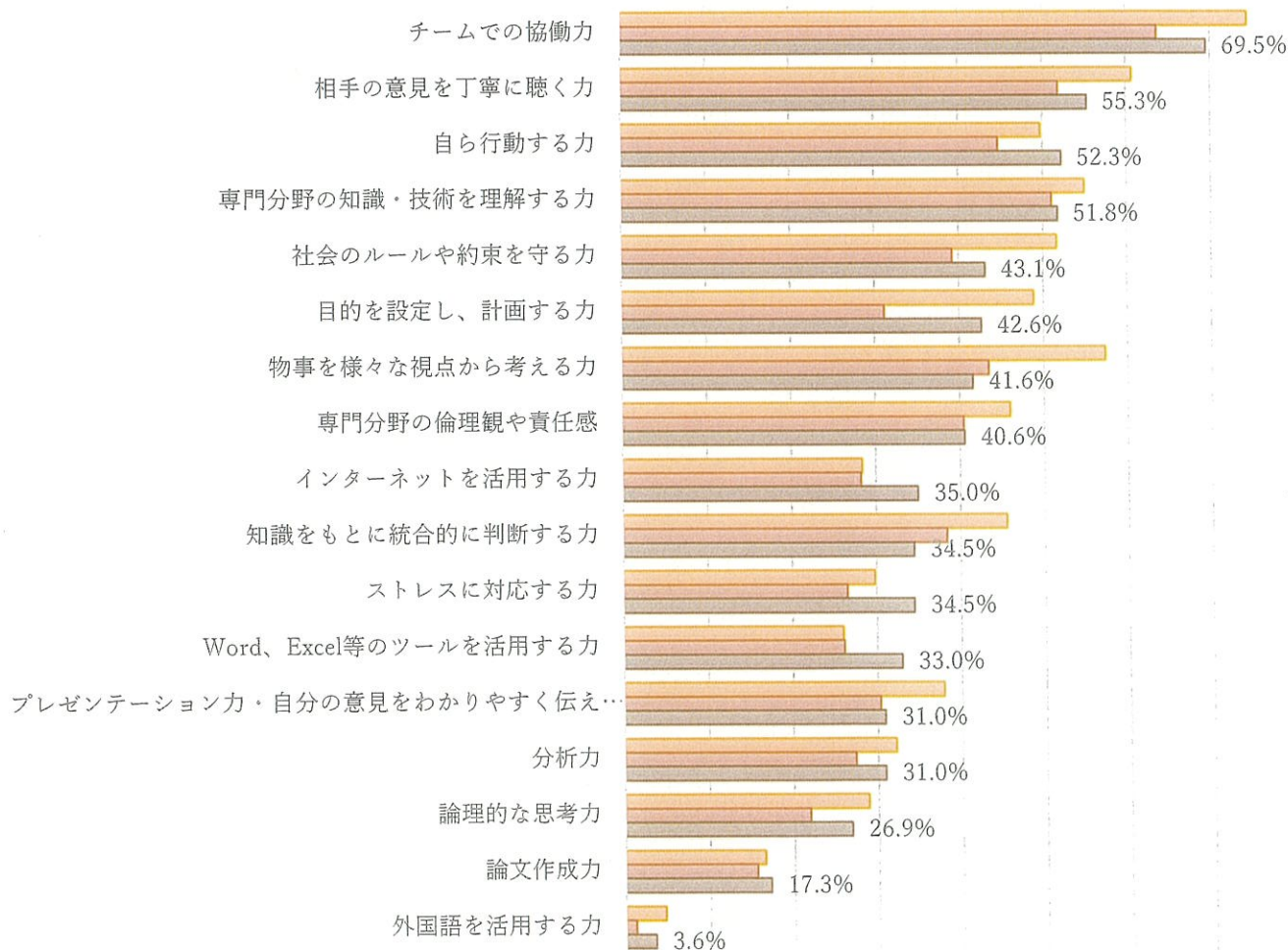
学科・専攻	卒業 者数	就職希 望者数	就職決 定者数	県内		県外		進学	その他
幼児保育学科	71	63	63	59	93.7%	4	6.3%	4	4
歯科衛生学科	27	21	21	18	85.7%	3	14.3%	0	6
看護学科	58	33	33	22	66.7%	11	33.3%	22	3
専攻科地域看護学専攻	22	21	21	17	81.0%	4	19.0%	0	1
合計	261	205	205	157	76.6%	48	23.4%	29	27

E) 令和 6 年度卒業生の概況

令和 6 年度卒業時アンケートの結果から、本学の教育目的とそれに基づいて定められた学習成果について、学生の自己評価による「在学期間中、身についたスキル」として、半数以上が「チームでの協働力」「相手の意見を丁寧に聴く力」「専門分野の知識・技術を理解する力」を挙げており、本学の教育方針とも整合性が取れている。

在学期間中身についたスキル

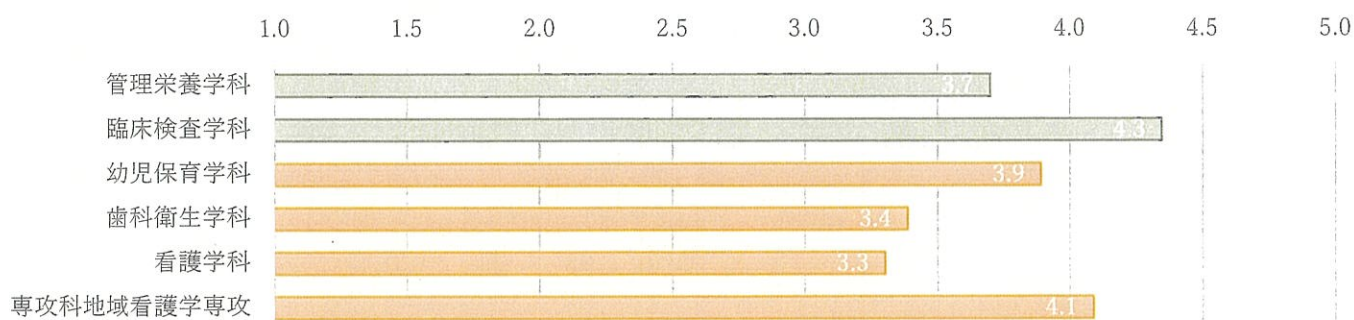
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0%



2022 2023 2024

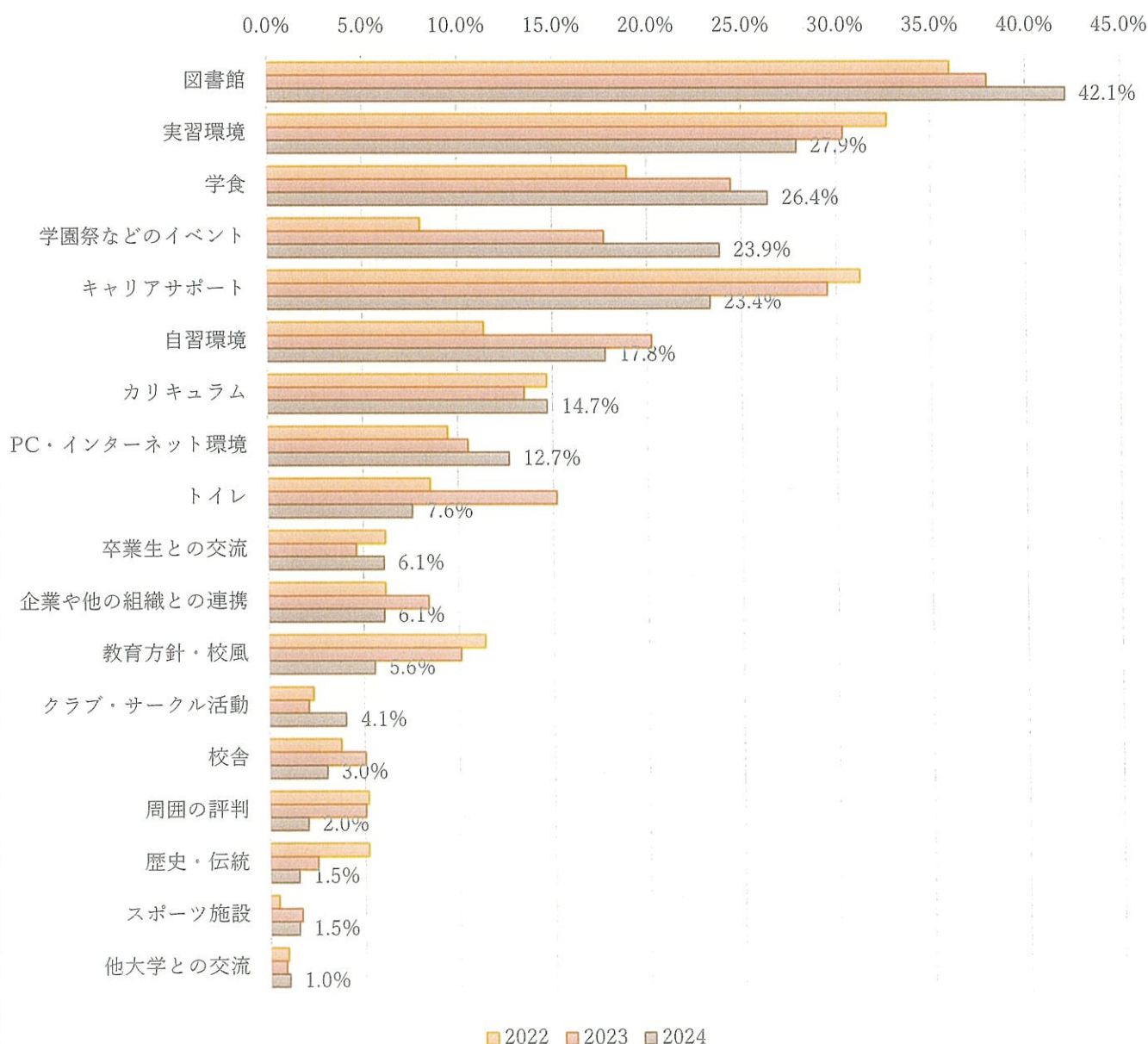
学生生活の満足度は、3 学科・専攻科とも 90%以上が 3 以上を回答しており、平均としては 3.7 となっている。

学生生活の満足度：学科別平均



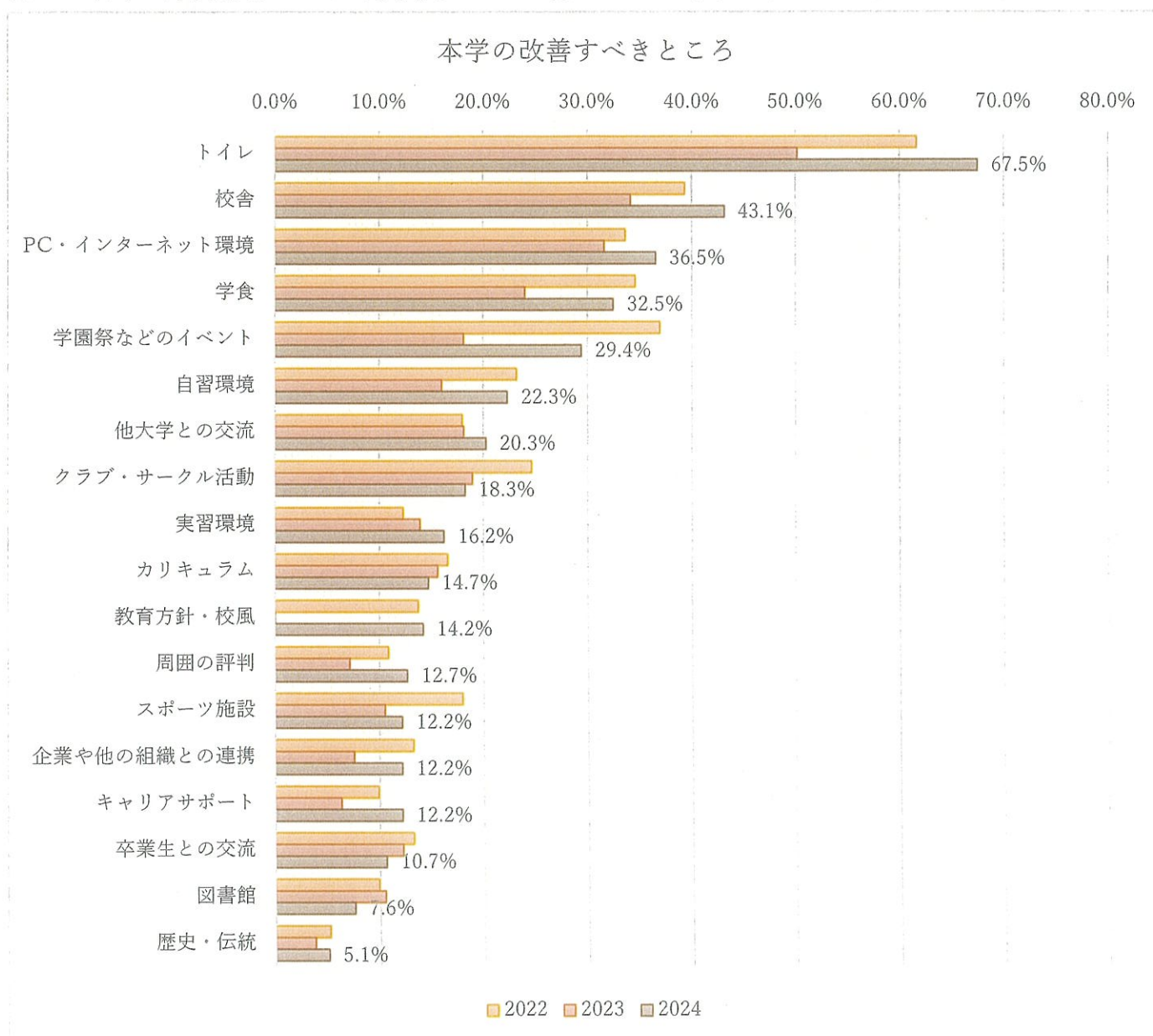
本学のよかったところでは、「図書館」「実習環境」「学食」「学園祭などのイベント」「キャリアサポート」が高い評価となった。「学食」「学園祭などのイベント」は昨年よりも高いポイントとなっている。

本学のよかったところ

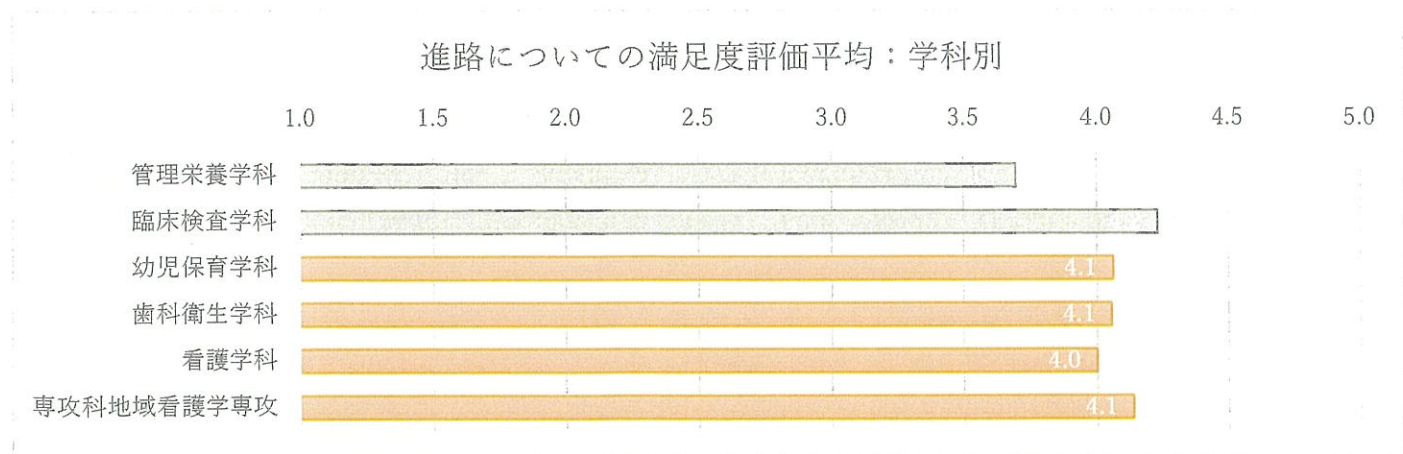


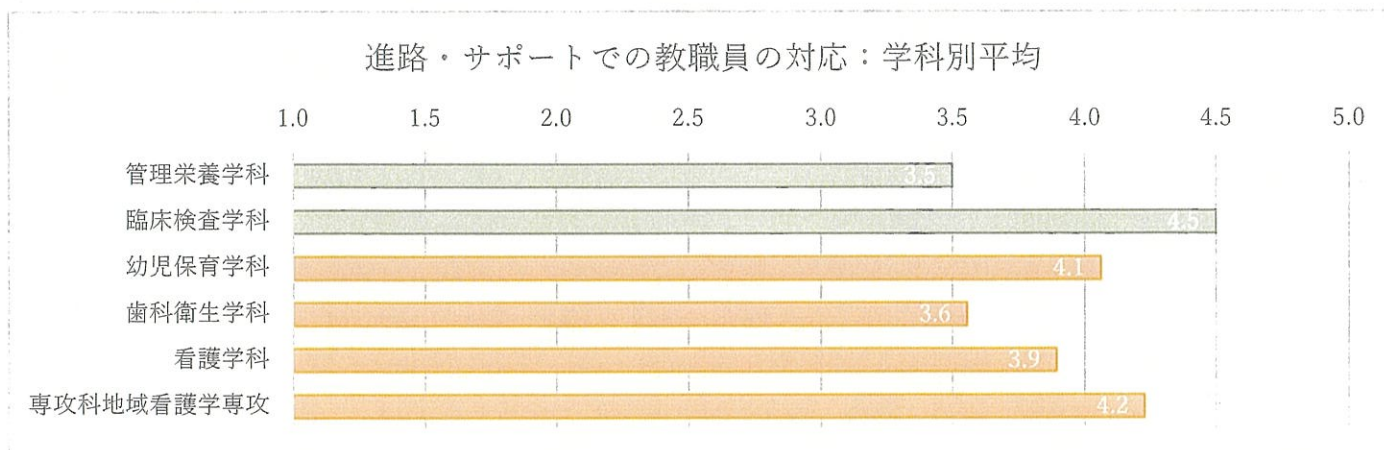
一方、本学の改善すべきところとして、昨年に続き、過半数が「トイレ」を指摘している。また、「校舎」「PC・インターネット環境」「学食」も 3 割超が改善すべきとしている。

※「PC・インターネット環境」については、校舎内のほとんどの教室について、令和 7 年 3 月から学生の利用を開始済み。



学生の進路についての満足度は 3 学科・専攻科で平均が 4.1 となっており、進路指導・サポートについての教職員の対応も学生から評価されている。





2. 令和 6 年度取り組みと結果

A) 学生募集

令和 6 年度に実施した募集活動は次の通りである。

- ① 高等学校教員対象の進学説明会：高知市、四万十市、安芸市（各 1 回）
- ② オープンキャンパス（6～9 月、3 月）：5 回、累計 179 名（保護者を除く、詳細は表 2 参照）
- ③ 毎日オープンキャンパス：4 名（保護者を除く）
- ④ 進学ガイダンス：60 回、累計 255 名参加（短大を含む、詳細は表 1 参照）
- ⑤ 高校への個別訪問：累計 44 校（短大と共通、入試結果の訪問を除く）
- ⑥ 高知高校との連携強化（医療・健康系進学プログラム）
- ⑦ まるごと！学大・リハ大・学短フェア 出張オープンキャンパス in 四万十：1 回
- ⑧ 職業体験フェスタ：1 回
- ⑨ 中学生キャリア教育支援地域貢献事業「考えてみよう将来の仕事」～職業体験～：1 回
- ⑩ 「臨床検査をのぞいてみよう！」：1 回
- ⑪ 映画館（TOHO シネマズ高知）の CM
- ⑫ 高知県歯科医師会・歯科衛生士会等の職能団体と連携したイベントの実施

B) キャリア

キャリアの指導として、一人一人と面談をし、教員及び事務局が連携をして進路指導を行っている。また、キャリアセンターでは、進路支援に必要な求人情報の収集、周知、履歴書・E S の添削、面接指導（入退室）、礼状の指導などを日常業務として行っている。令和 6 年度は、各学科で履歴書作成指導、就職説明会、就職セミナー等、それぞれ年 1 回実施した。これらの取り組みの結果として、継続した就職率 100%や学生の進路満足度の高評価にも繋がっている。

C) ICT 関連の施策

令和 6 年度に学内に Wi-Fi ネットワークを整備した。講義教室を中心に 42 箇所のアクセスポイントを設置し、令和 7 年 3 月末までに授業で学生全員が利用できるものとなっている。セキュリティを考慮し、学生個々に Wi-Fi 認証アカウントを割り当てており、クラウド上で集中管理可能となっている。また、これに伴い、新入生より BYOD（自分の PC・タブレット等を持参）での授業環境を整える準備がなされ、ICT を本格的に活用した授業が令和 7 年度より展開される予定である。

本学 Web サイトについては、システム上で各学科が更新可能な体制を整えたことにより、情報発信数が増加した。Google Analytics での 1 年間のアクセス数観測としては、高知市の 25%を除くと、大阪市が 9%、広島市が 5%、新宿区が 2.4%となっており、その他は 2%未満である。また、各学科での Instagram の取り組みが活発になっており、Web サイトとソーシャルメ

ディアの連携が今後の課題となる。IR 及び研究推進の情報発信については、引き続き取り組みを実施する計画である。

D) その他

各部局において、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を再点検し、教員人事や施設・設備・備品の見直しによって、より効率的な運営体制を構築することに引き続き取り組んでいる。また、各学科においては、特色ある教育内容や留年率、休学率、退学率の減少の具体的方策の検討が行われている他、FD 活動の活性化による個々の教育能力の向上も継続して取り組みが行われた。

E) 課題と対策

1. 県外学生の獲得について

過去の入学実績をもとに、愛媛県を中心として積極的に進学ガイダンスに参加をした。また、中国地方や関西圏への募集も試みたが、成果・実績としては乏しい状況である。

2. 対策

- ・ 事務局体制の再編成を行う。学生支援課と教務課を統合して教務学生課とし、学生募集業務等を横断的に実施できる体制とするとともに、学生募集に特化したプロジェクトチームを立ちあげる
- ・ 大学の「特色と魅力」を明確にするために、「国際化」「地域貢献」をテーマとしたプロジェクトチームを組織する。
- ・ 教員の研究力強化及び研究体制を整えるために研究推進部を設置する。
- ・ 令和 6 年度内に全学科・専攻科に対して学長ヒアリングを実施した。各学科・専攻科の目指す方向性を明確にし、社会が求める人材像を踏まえた専門的職業人の育成を目指し、教育課程（カリキュラム）を見直す。

Ⅲ 財務の概要

令和 6 年度決算の概要

(1) 資金収支計算書の状況

資金収支計算書は、当該会計年度（4月1日～3月31日）に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容、当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにするものであり、手持ち資金の増減の原因を分析するものとなっています。

【収入の部】

学生生徒等納付金収入は、前年度に対して144百万円減額の1,940百万円となった。

補助金収入は、国からの私立大学等経常費補助金や高知県からの私立学校運営費補助金などにより、前年度に対して72百万円減額の787百万円となった。

前受金収入は、前年度に対して30百万円減額の388百万円となった。

その他は、減価償却引当特定資産からの繰入収入などにより、417百万円となった。

前年度からの繰越金899百万円を加えて、収入の合計は、4,431百万円となった。

【支出の部】

人件費支出は、定年及び自己都合退職による退職金支出などにより前年度に対して125百万円減額の2,181百万円となった。

教育研究経費支出は、前年度に対して44百万円減額の606百万円となった。

管理経費支出は、前年度に対して16百万円増額の167百万円となった。

借入金等返済支出は、41百万円となった。

施設・設備関係支出は、生徒寮改修工事などにより、111百万円となった。

資産運用支出は、減価償却引当特定資産への繰入支出により、342百万円となった。

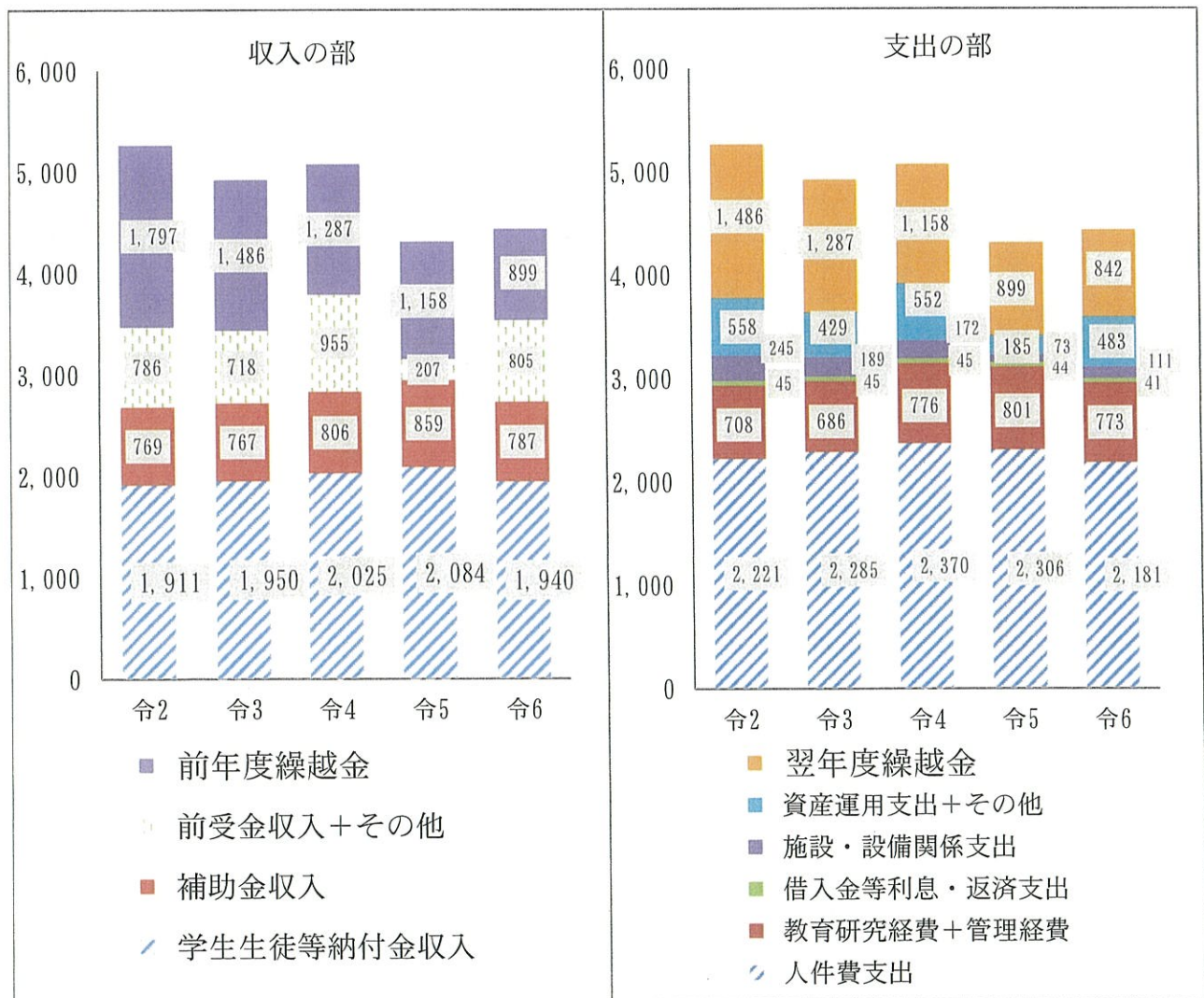
翌年度への繰越金842百万円を加えて、支出の合計は、4,431百万円となった。

令和6年度の資金収支計算書とその経年比較表

(単位：百万円)

収入の部					
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	1,911	1,950	2,025	2,084	1,940
補助金収入	769	767	806	859	787
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	531	559	548	418	388
その他の	255	159	407	△ 211	417
前年度繰越金	1,797	1,486	1,287	1,158	899
収入の部合計	5,263	4,921	5,073	4,308	4,431

支出の部					
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,221	2,285	2,370	2,306	2,181
教育研究経費支出	542	530	635	650	606
管理経費支出	166	156	141	151	167
借入金等利息・返済支出	45	45	45	44	41
施設・設備関係支出	245	189	172	73	111
資産運用支出	537	384	680	106	342
その他の	21	45	△ 128	79	141
翌年度繰越金	1,486	1,287	1,158	899	842
支出の部合計	5,263	4,921	5,073	4,308	4,431



(2) 活動区分資金収支計算書の状況

活動区分資金収支計算書は、資金収入及び資金支出の決算額を①教育活動、②施設設備等活動、③その他の活動の3つの区分をもって表示します。

この活動区分資金収支計算書の区分は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書の区分を参考にしたものであり、資金収支計算書にある資金収入と資金支出の決算額を活動区分別に記載することで、どのような活動で資金が増加もしくは減少したかがより明確になるようになっています。つまり、資金の増減及び保有額を重視した計算書といえます。

【教育活動による資金収支】

本業である教育活動による資金収支差額は、学納金収入や補助金収入の減などにより、△143 百万円となった。

【施設設備等活動による資金収支】

施設設備関係の寄付金や補助金等による収入と施設設備関係支出等の差額である、施設設備等活動資金収支差額は、生徒寮改修工事などにより、△10 百万円となった。

【その他の活動による資金収支】

財務活動の他、預り金の受払い等の経過的な活動などに係る、その他の活動による資金収支差額は、特定資産の繰入収入などにより、97 百万円となった。

その結果、翌年度繰越支払資金は、前年度より 56 百万円減額の 899 百万円となった。

令和6年度の活動区分資金収支計算書とその経年比較表

(単位:百万円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,911	1,950	2,025	2,084	1,940	
		手数料収入	22	23	23	21	21	
		特別・一般寄付金収入	5	25	1	1	6	
		経常費等補助金収入	725	745	805	852	786	
		付随事業収入	24	28	25	27	28	
		雑収入	72	119	151	150	74	
		教育活動資金収入計	2,759	2,890	3,030	3,135	2,855	
	支出	人件費支出	2,221	2,285	2,370	2,306	2,181	
		教育研究経費支出	542	530	634	650	606	
		管理経費支出	159	155	139	151	167	
教育活動資金支出計		2,922	2,970	3,143	3,107	2,954		
差引		△ 163	△ 80	△ 113	28	△ 99		
調整勘定等		2	7	66	△ 154	△ 44		
教育活動資金収支差額		△ 161	△ 73	△ 47	△ 126	△ 143		
施設設備等活動による資金収支	収入	減価償却引当等特定資産取崩収入	304	401	357	106	390	
		その他	45	22	1	6	10	
		施設設備等活動資金収入計	349	423	358	112	400	
	支出	施設・設備関係支出	245	189	172	73	111	
		減価償却引当等特定資産繰入支出	304	384	357	106	290	
		その他	0	0	0	0	0	
		施設設備等活動資金支出計	549	573	529	179	401	
	差引		△ 200	△ 150	△ 171	△ 67	△ 1	
	調整勘定等		44	19	72	△ 28	△ 9	
	施設設備等活動資金収支差額		△ 156	△ 131	△ 99	△ 95	△ 10	
小計（教育活動資金収支差額＋施設設備等活動資金収支差額）		△ 317	△ 204	△ 146	△ 221	△ 153		
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0	0	0	0	0	
		有価証券売却収入	2	33	38	0	13	
		退職給与引当特定資産取崩収入	263	0	322	0	172	
		立替金回収収入	11	5	5	4	5	
		預り金受入収入	22	22	32	26	20	
		差入保証金受入収入	0	0	0	0	0	
		小計		298	60	397	30	210
		受取利息・配当金収入	18	18	14	15	13	
	その他	1	0	1	0	2		
	その他の活動資金収入計	317	78	412	45	225		
	支出	借入金等返済支出	44	44	44	44	40	
		有価証券処分差額支出	0	0	0	0	0	
		退職給与引当特定資産繰入支出	233	0	322	0	52	
		預り金支払支出	19	22	22	32	26	
		立替金支払支出	9	5	5	4	7	
		差入保証金支払支出	0	0	0	0	0	
		小計		305	71	393	80	125
		借入金等利息支出	1	1	1	0	1	
	その他	5	1	1	1	0		
	その他の活動資金支出計	311	73	395	81	126		
差引		6	5	17	△ 36	99		
調整勘定等		0	0	0	△ 2	△ 2		
その他の活動資金収支差額		6	5	17	△ 38	97		
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 311	△ 199	△ 129	△ 259	△ 56		
前年度繰越支払資金		1,797	1,486	1,287	1,158	899		
翌年度繰越支払資金		1,486	1,287	1,158	899	843		

(3) 事業活動収支計算書の状況

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」及び「前記二つの活動以外の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、当該年度の基本金組入額を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにし、経営状況を表します。つまり、企業会計の損益計算書に類似した計算書となっています。

「教育活動収支」は、学校法人の教育活動によって得られた当該年度分の収入や現物寄付などが計上され、他人資金である借入金収入などは除外されます。また、教育活動収入を得るために必要な人件費等を支出として計上します。「教育活動外収支」は、経常的収支のうち、教育活動収支以外の財務活動や収益事業に係る活動による収支を計上します。「特別収支」は、資産の売却や処分による差額や、施設整備への寄付金等、特殊要因による臨時的な収支を計上します。

【教育活動収支の部】

学生生徒等納付金、経常費補助金収入など教育活動収入の合計は、前年度より 189 百万円減額の 2,844 百万円となった。

人件費は、資金収支計算書の人件費支出のうちから、退職金社団交付金収入との相殺表示が認められている退職金支出額を減じた額に、退職給与引当金繰入額を加えて 2,150 百万円となった。

教育研究経費は、916 百万円となった。(減価償却額 309 百万円含む)

管理経費は、200 百万円となった。(減価償却額 32 百万円含む)

教育活動支出の合計は、前年度より 92 百万円減額の 3,269 百万円となった。

その結果、本年度の教育活動収支差額は、△425 万円となった。

【教育活動外収支の部】

経常的な財務活動および収益事業に係る活動に関する事業活動収支である、本年度の教育活動外収支差額は、受取利息・配当金などにより+12 百万円となった。

【経常収支差額】

特殊な要因を除いた経常的な事業活動収入と事業活動支出の差額を示す、本年度の経常収支差額は、△413 百万円となった。

【特別収支の部】

特殊的な要因によって発生した臨時的な事業活動収支である、本年度の特別収支差額は、施設設備補助金などにより+27 百万円となった。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は△386 百万円となり、生徒寮改修工事などに係る基本金組入額 129 百万円を差し引いた当年度収支差額は、515 百万円の支出超過となった。

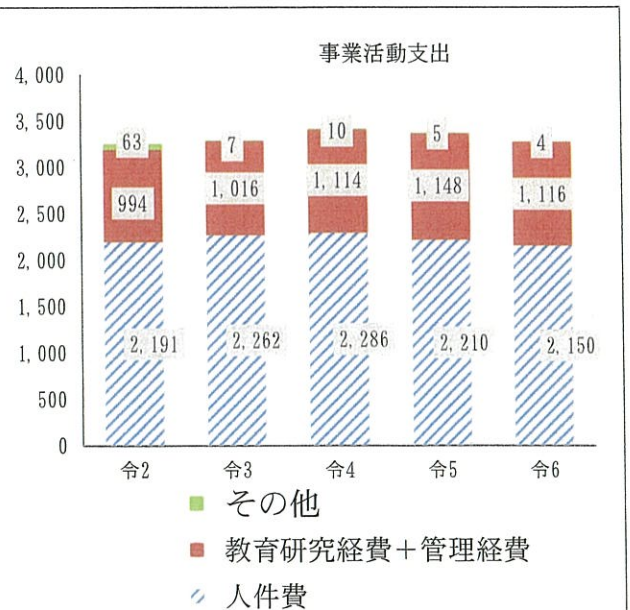
令和6年度の事業活動収支計算書とその経年比較表

(単位:百万円)

	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	部事業活動収入の					
	学生生徒等納付金	1,911	1,950	2,025	2,084	1,940
	手数料	22	23	23	21	21
	寄付金	6	25	1	2	7
	経常費補助金	725	745	805	852	786
	付随事業収入	24	28	25	27	28
	雑収入	48	70	84	47	62
	教育活動収入計	2,736	2,841	2,963	3,033	2,844
	科 目					
	出事業活動支出の					
教育活動外収支	人件費	2,191	2,262	2,286	2,210	2,150
	教育研究経費	802	831	942	965	916
	管理経費	192	185	172	183	200
	徴収不能額等	2	0	0	3	3
	教育活動支出計	3,187	3,278	3,400	3,361	3,269
	(A) 教育活動収支差額	△ 451	△ 437	△ 437	△ 328	△ 425
	科 目					
	の動事業活動収入の					
	受取利息・配当金	18	18	15	15	13
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
特別収支	教育活動外収入計	18	18	15	15	13
	科 目					
	の動事業活動支出の					
	借入金等利息	1	1	1	1	1
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1	1	1	1	1
	(B) 教育活動外収支差額	17	17	14	14	12
	(C) 経常収支差額 (A) + (B)	△ 434	△ 420	△ 423	△ 314	△ 413
	科 目					
	の動事業活動収入の					
基本金組入前当年度収支差額 (C) + (D)	資産売却差額	4	33	38	0	13
	その他の特別収入	61	25	3	11	14
	特別収入計	65	58	41	11	27
	科 目					
	の動事業活動支出の					
	資産処分差額	18	6	0	0	0
	その他の特別支出	42	0	9	1	0
	特別支出計	60	6	9	1	0
	(D) 特別収支差額	5	52	32	10	27
	基本金組入前当年度収支差額 (C) + (D)	△ 429	△ 368	△ 391	△ 304	△ 386
基本金組入額合計		△ 284	△ 242	△ 183	△ 130	△ 129
当年度収支差額		△ 713	△ 610	△ 574	△ 434	△ 515
前年度繰越収支差額		△ 3,463	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794	△ 6,309

(参考)

事業活動収入計	2,819	2,917	3,019	3,059	2,884
事業活動支出計	3,248	3,285	3,410	3,363	3,270



（４）貸借対照表の状況

貸借対照表は、年度末における総資産・総負債・純資産（基本金＋繰越収支差額）を把握し、財政状態を表します。資金収支計算書と事業活動収支計算書が単年度ごとの状況を表す一方、貸借対照表は、今までの学校法人の活動を行ってきた積み重ねの結果を表すものです。

【資産の部】

有形固定資産は、建物や機器備品の減価償却などにより、前年度より 228 百万円減額の 5,663 百万円となった。

特定資産は、前年度より 220 百万円減額の 2,594 百万円となった。

固定資産の合計は、前年度より 448 百万円減額の 8,262 百万円となった。

流動資産は、現金預金や高知県私学退職金社団からの交付金の未収入金など、前年度より 135 百万円減額の 912 百万円となった。

その結果、資産の総額は、前年度より 583 百万円減額の 9,174 百万円となった。

【負債の部】

固定負債は、長期借入金の返済など、前年度より 69 百万円減額の 775 百万円となった。

流動負債は、当年度末退職者への未払金や前受金など、前年度より 129 百万円減額の 611 百万円となった。

その結果、負債の総額は、前年度より 198 百万円減額の 1,386 百万円となった。

【基本金の部】

基本金は、当期に取得した施設・設備の組入れなどにより、前年度より 130 百万円増額の 14,097 百万円となった。

【繰越収支差額の部】

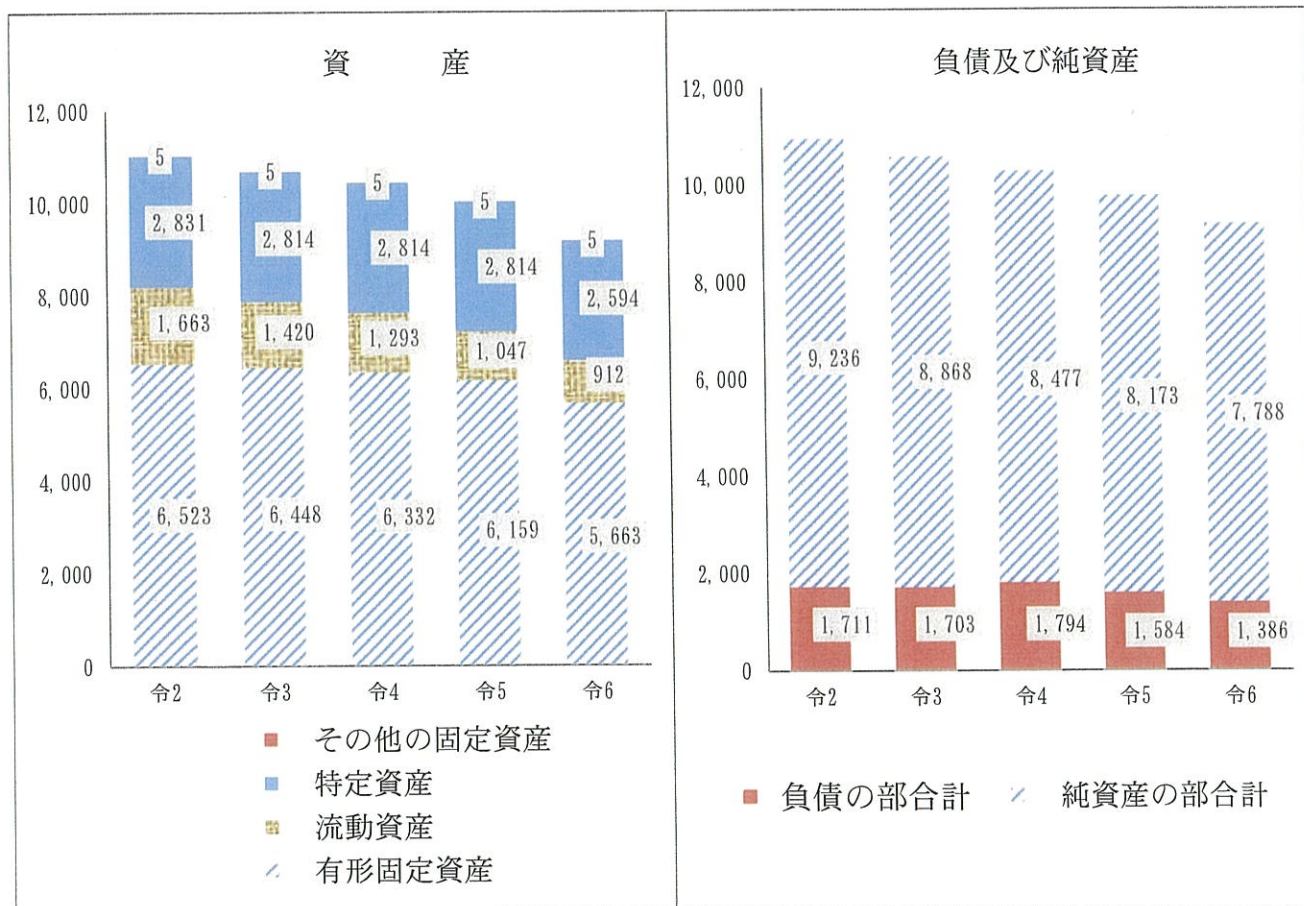
繰越収支差額は、支出超過額が前年度より 515 百万円増額の 6,309 百万円となった。

負債及び純資産（基本金及び繰越収支差額の合計）の合計は、前年度より 583 百万円減額の 9,174 百万円となった。

令和6年度末の貸借対照表とその経年比較表

(単位：百万円)

科 目	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
資産の部					
固定資産	9,284	9,151	8,978	8,710	8,262
有形固定資産	6,448	6,332	6,159	5,891	5,663
特定資産	2,831	2,814	2,814	2,814	2,594
その他の固定資産	5	5	5	5	5
流動資産	1,663	1,420	1,293	1,047	912
資産の部合計（総資産）	10,947	10,571	10,271	9,757	9,174
負債の部					
固定負債	932	914	894	844	775
流動負債	779	789	900	740	611
負債の部合計（総負債）	1,711	1,703	1,794	1,584	1,386
純資産の部					
基本金	13,412	13,654	13,837	13,967	14,097
第1号基本金	13,216	13,458	13,598	13,728	13,858
第2号基本金	0	0	0	0	0
第4号基本金	196	196	239	239	239
繰越収支差額	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794	△ 6,309
翌年度繰越収支差額	△ 4,176	△ 4,786	△ 5,360	△ 5,794	△ 6,309
純資産の部合計	9,236	8,868	8,477	8,173	7,788
負債及び純資産の部合計	10,947	10,571	10,271	9,757	9,174



2. 財務比率比較

(1) 主な財務比率比較表

(単位：％)

	比 率 名	算 式	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	説 明
事業活動収支計算書関係比率	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入（※1）}}$	79.6	79.1	76.8	72.5	75.3	この比率が特に高くなると、経常収支の悪化を招きやすくなり、低い数値が望ましい。
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入（※1）}}$	29.1	29.1	31.6	31.6	32.1	教育研究活動の維持・発展のために、経常収支の均衡を崩さない限りにおいて、高い数値が望ましい。
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入（※1）}}$	69.4	68.2	68.0	68.4	67.9	学生生徒等納付金は、経常収入のなかで最大の比重を占めており、安定的に推移することが経営的には望ましい。
	補助金比率	$\frac{\text{補助金（※2）}}{\text{事業活動収入}}$	27.3	26.3	26.7	28.1	27.3	この比率が高いということは、自助努力による多様な取り組みが評価されている表れでもある。
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入（※1）}}$	-15.8	-14.7	-14.2	-10.3	-14.5	経営の健全性を表す代表的な指標であり、この比率が高ければ高いほど、経営に余裕があると考えられる。
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-16.5	-15.4	-14.7	-10.8	-15.0	学校本来の教育活動による収支差額を表しており、本業である教育活動収入の範囲内で、どの程度余裕を持って運営できているかを把握することができる。
貸借対照表関係比率	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	25.9	26.6	27.4	28.8	28.3	この比率が高いほど財政基盤が安定しているとされ、学校法人運営を計画的に行うことができる。
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債＋純資産}}$	84.4	83.9	82.5	83.8	84.9	この比率は、50％を割ると他人資金が自己資金を上回っていることを示しており、高い数値が望ましい。
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債＋純資産}}$	-38.2	-45.3	-52.2	-59.4	-68.8	学校法人の収支均衡状態を示す重要な指標であり、高い数値が望ましい。
	積立率	$\frac{\text{運用資産（※3）}}{\text{要積立額（※4）}}$	55.7	50.7	47.3	42.5	38.1	この比率が高いほど、「ヒト、モノ（施設設備）」に対する蓄えが出来ているという状態を表している。

(※1) 経常収入・・・教育活動収入計＋教育活動外収入計

(※2) 補 助 金・・・経常費等補助金＋施設設備補助金

(※3) 運用資産・・・特定資産＋現金預金

(※4) 要積立額・・・退職給与引当金＋第2号基本金＋減価償却額の累計額

(2) 主な財務比率比較表のグラフ

